

言語と社会

210254N0J
 大学院
 人間文化研究科 > 応用英語専攻
 2単位 後期
 月曜4限
 川上 伊都子

【科目の教育目標 (Course Description)】

私達は人として生まれてきて、重篤な障害がない限り、当然の様に言語を学習し、日常生活の中で言語を使わない日は無いわけですが、言語を習得するとはどういう事なのでしょう。言語を習得する時、私達が属する社会や文化が大きな役割を果たし、同時に私達の使う言語が社会や文化を再構築するという相互作用が行われているのです。この講義では、言語の機能とは何か、言語習得とは何を意味するのか、native speaker とは何か、等、様々な言語に関する重要な問題について考えていきます。Language & Dialect, Multilingualism, Speech Community, Communicative Competence, Politeness, Language & Gender, 等があげられますが、受講者の興味・要望によって、講義をすすめます。「男女の会話は異文化コミュニケーション」という説についても抗議していきます。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

現実社会での言語使用の分析を通して、いかに社会・文化と言語との相互作用があるかを、検証していく。例えば、課題にそって、受講者が自らデータを集め、その分析などを行う。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

【授業計画】

- 第 1 回 What is Sociolinguistics?—Orientation
 Sociolinguistics (社会言語学)とは何か、まず概論から始める。クラスで扱うどの様なtopicがあるか、説明していく。受講者は、次回までにどのtopicを担当するか考えてくる。(基本的には、テキストに載っているtopicの中から選ぶ)
- 第 2 回 Introduction

受講者の興味・要望を聞きながら、クラスで扱うtopicを決め、さらに、各topicの担当を決めていく。担当者は責任を持って、自分のtopicをクラスで発表できる様に準備を始めていく。

- 第 3 回 Language & Dialects (仮) 1
 このtopicの基本的な解説をしていく。重要な読み物(論文、記事など)配り、受講者は、この問題に関して、詳しくテキストを読み、課題について考えてくる。
- 第 4 回 Language & Dialects (仮) 2
 課題の結果をクラスで発表し、受講者たちで、Group Discussionを行う。最後に、discussionのまとめを一枚のレポートにして提出する。
- 第 5 回 Speech Communities (仮) 1
 このtopicの基本的な解説をしていく。重要な読み物(論文、記事など)配り、受講者は、この問題に関して、詳しくテキストを読み、課題について考えてくる。
- 第 6 回 Speech Communities (仮) 2
 課題の結果をクラスで発表し、受講者たちで、Group Discussionを行う。最後に、discussionのまとめを一枚のレポートにして提出する。
- 第 7 回 Language Variation (仮) 1
 このtopicの基本的な解説をしていく。重要な読み物(論文、記事など)配り、受講者は、この問題に関して、詳しくテキストを読み、課題について考えてくる。
- 第 8 回 Language Variation (仮) 2
 課題の結果をクラスで発表し、受講者たちで、Group Discussionを行う。最後に、discussionのまとめを一枚のレポートにして提出する。
- 第 9 回 Solidarity & Politeness (仮) 1
 このtopicの基本的な解説をしていく。重要な読み物(論文、記事など)配り、受講者は、この問題に関して、詳しくテキストを読み、課題について考えてくる。
- 第 10 回 Solidarity & Politeness (仮) 2
 課題の結果をクラスで発表し、受講者たちで、Group Discussionを行う。最後に、discussionのまとめを一枚のレポートにして提出する。
- 第 11 回 Language & Gender (仮) 1
 このtopicの基本的な解説をしていく。重要な読み物(論文、記事など)配り、受講者は、この問題に関して、詳しくテキストを読み、課題について考えてくる。
- 第 12 回 Language & Gender (仮) 2
 課題の結果をクラスで発表し、受講者たちで、Group Discussionを行う。最後に、discussionのまとめを一枚のレポートにして提出する。
- 第 13 回 Language & Gender (仮) 3
 受講者は、自分でデータを収集し、その分析を各自行う。その結果をクラスで発表する。
- 第 14 回 Language & Gender (仮) 4

前回は引き続き、受講者は、自分で収集したデータの分析を各自行い、その結果をクラスで発表する。

第 15 回 受講者によるトピックの発表
 受講者は、自分の担当したトピックについてクラスで発表する。自分の担当のトピックだけでなく、このクラスで学習した、様々な要素や議論との複合的な発表が望まれる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

筆記試験は実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

テキストに沿っての、講義、質疑応答、Group Discussion、受講者の発表などを通して、社会言語学に関する、様々な問題を探究していく。Group Discussion では、必ず最後にまとめのレポートを提出するので、十分な準備が毎回必要とされる。発表の担当者は、もちろん「口頭発表」のための十分な準備が必要であるが、他の受講者も、毎回質問に答えられる様予習は必須である。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎週、次回の講義のための予習が必要である。テキストを読んでおくことはもちろん、それ以外の課題が出た時は、「口頭」で答えられる様に、適切な準備をしておくこと。詳しい方法は、クラスで説明する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

毎週、最低でも 1 時間。発表などの担当者は、「口頭発表」のための十分な準備のため、2?3 時間は必要かも。

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

毎回の授業 (又、discussion に) でどれだけ「積極的に参加している」か。また、Group Discussion 後に提出する「レポート」、さらに「個人の発表」、など全て総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

毎週、しっかり予習、準備しておくこと。クラス発表には十分な準備をすること。発表がない時も、クラスでの discussion には積極的に参加すること。そのためには、予習・準備が必要である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

An Introduction to Sociolinguistics 6th Edition, Ronald Wardhaugh, Blackwell Publishing, 2009

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

クラスで伝える。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アカデミックリーディング &ライティング

210019N0E

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期

金曜 3限

ー

60

必修

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course is designed to help students efficiently read academic English prose and produce academic research papers in English.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Emphasis will be placed on logical and effective presentation of information in support of an argument. Students will learn the conventions of English academic writing, particularly with regard to the citation and listing of sources.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency; Use grammar correctly; Use appropriate vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
創造・発信力: Creative Ability; Ability to brainstorm ideas; Ability to express your ideas; Ability to think outside the box	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introductory class
- 第 2 回 Outlining: outline of the first article
- 第 3 回 Summarizing: summary of the first article
- 第 4 回 Outlining: outline of the second article
- 第 5 回 Summarizing: summary of the second article
- 第 6 回 Outlining: outline of the third article
- 第 7 回 Summarizing: summary of the third article
- 第 8 回 Introduction to APA style; Outline for Report I
- 第 9 回 Revision of first draft of Report I
- 第 10 回 Peer critique of second draft of Report I
- 第 11 回 Teacher conferences on Report I
- 第 12 回 Paper I due, Outline for Report II
- 第 13 回 Revision of first draft of Report II
- 第 14 回 Peer critique of second draft of Report II
- 第 15 回 Teacher conferences on Report II
(Report II due the following week)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will read, outline, and summarize scholarly articles of their choice in the area of their concentration. After having written and revised several drafts, they will also submit two 5-page reports on an academic topic in their area. Students will read and critique the writing of their partners.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students must do all the homework for the course, including all the drafts of the two reports

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Classroom performance 10%, summaries 10%, Outlines 30%, Reports 50%

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

Class will be conducted in English. Students must attend regularly.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

インディペンデントスタイル

210101A0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

8単位 集中

その他

—

必修

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書(M1後期提出)に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究(分析)を遂行する。

・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。

・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究指導教員(主査)と2名の研究副指導教員(副査)による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

インディペンデントスタイル

210101B0J
大学院
人間文化研究科 > 応用英語専攻
8単位 集中
その他
—
必修
小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書(M1後期提出)に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究(分析)を遂行する。
- ・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。
- ・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究指導教員(主査)と2名の研究副指導教員(副査)による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準につ

いては、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

インディペンデントスタイル

210101C0J
大学院
人間文化研究科 > 応用英語専攻
8単位 集中
その他
—
必修
須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書(M1後期提出)に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究(分析)を遂行する。
- ・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。
- ・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究指導教員(主査)と2名の研究副指導教員(副査)による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

インディペンデントスタディーズ

210101F0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

8単位 集中

その他

—

必修

東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書(M1後期提出)に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究(分析)を遂行する。

・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。

・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究指導教員(主査)と2名の研究副指導教員(副査)による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

インディペンデントスタディーズ

210101G0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

8単位 集中

その他

—

必修

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書(M1後期提出)に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究(分析)を遂行する。

・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。

・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究指導教員(主査)と2名の研究副指導教員(副査)による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語プレゼンテーション

210016N0E
 大学院
 人間文化研究科 > 応用英語専攻
 2単位 後期
 火曜3限
 ー
 60
 集中
 York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The goal of this course is to introduce you to the basic theories and practice of public speaking focusing on general academic presentations and help you improve your speech/presentation skills in English with technology while enhancing critical thinking skills. You will learn how to formulate specific purpose statements, how to analyze and adapt to audiences, how to organize ideas and construct outlines, how to assess evidence and reasoning, and how to use language effectively.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ Attend classes regularly.
- ・ Read the weekly reading assignment and complete the assigned homework.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction to Oral Presentation
- 第 2 回 Modern Presentations; Self-Introduction Presentation
- 第 3 回 Selection a Topic and Purpose
- 第 4 回 Analyzing the Audience
- 第 5 回 Gathering Materials
- 第 6 回 Supporting Your Ideas
- 第 7 回 Organizing the Speech
- 第 8 回 Design: Importance of Simplicity
- 第 9 回 Design Principles and Techniques
- 第 10 回 Usual Visuals: Images and Text
- 第 11 回 Using Language Effectively

第 12 回 Delivery Basics

第 13 回 Connecting with the Audience

第 14 回 Final Presentation Workshop

第 15 回 Final Presentations

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The lecturer will provide a blended teaching/autonomous learning style to cover the content in class and beyond the class. Students are expected to complete the weekly reading assignment and homework while being ready for planned presentations after doing research on a chosen topic.

Feedback methods:

Students will receive oral commentary from the instructor in class after each presentation. In addition, students will receive written evaluations for each presentation.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. Read the assigned textbook chapters
2. Complete critical reading assignments
3. Prepare speeches/presentations

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Assignments (35%)

Individual/Small Group Presentations (15% x 3 = 45%)

PowerPoint files (20% x 1 = 20%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Presentation Zen: Simple Ideas on Presentation Design and Delivery (3rd Edition)/Garr Reynolds/Voices That Matter/2019/0135800919/学内販売予定

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語教育学特論Ⅲ(Classroom Research)

210236NOJ
 大学院
 人間文化研究科 > 応用英語専攻
 2単位 後期
 木曜4限
 ー
 60
 集中
 東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

授業は学習者を含めた相互行為の結果でもある。したがって、同じ授業者が、同じ教材、同じ授業法を使用しても再現できない現象である。本科目では、授業実践者が自らの実践を研究する授業実践研究に立脚し、授業分析研究の視点を踏まえながら、「よい授業とは？」への回答を追求してみたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 授業実践研究についての知識・理解を深める
2. 授業分析についての知識・理解を深める
3. 授業分析結果を授業改善へと繋げる方途を検討する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	授業実践研究について全く説明できない	テキストを参照しながらだと、授業実践研究が何かを説明できる	テキストを見ずに、授業実践研究が何か自分の言葉で説明することができる	授業実践研究が何かを自分の言葉で説明することができ、自身の研究について研究法を適用できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業実践研究と授業分析研究についてのオリエンテーション
- 第 2 回 2: Introduction to Part One: The Historical and Conceptual Background to Researching Practice
- 第 3 回 3: From Research to Practitioner Research: Setting Exploratory Practice in Context.
- 第 4 回 4: Perspectives on the ‘Family’ of Practitioner Research.- Chapter
- 第 5 回 5: The Evolution of the Exploratory Practice Framework
- 第 6 回 6: Puzzles, Puzzling and Puzzlement.- PART II
- 第 7 回 7: Introduction to Part Two: Developing Understanding from Practice
- 第 8 回 8: Understanding from Practice: Integrating Research and Pedagogy
- 第 9 回 9: Understanding from Practice: Collegial Working
- 第 10 回 10: Understanding from Practice: Continuing Personal and Professional Development.- PART III

- 第 11 回 11: Introduction to Part Three: Understanding for Practice
- 第 12 回 12: Understanding for Practice: Puzzles, Puzzling and Trust
- 第 13 回 13: Understanding for Practice: PEPAs, Culture and Identity
- 第 14 回 14: Conclusions.- PART IV: Resources.
事例研究：観察と評価（3）
- 第 15 回 授業実践研究まとめ
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法
 - (1) テキストを中心とした主要文献の講読と演習
 - (2) 実際の授業（またはビデオの視聴）の分析方法についての演習
2. 研究方法
 - (1) 授業実践研究関連の文献読解
 - (2) 授業分析方法の習得
 - (3) 授業分析結果の授業改善・改革への応用

レポートに関するフィードバックは、必要に応じて、直接またはweb上で、個人または全体に対して行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

課題がある場合は、授業前に必ず文献を読んで授業に臨むこと。

また、授業内に質問やディスカッションができるよう、あらかじめ、関連する情報について調べておくこと。必要であれば、指定箇所以外の箇所も積極的に取り組む姿勢が求められる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

25

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、平常点（授業内ディスカッション）50%とレポート（課題とまとめ）50%により、総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

- ・受講生の経験やニーズにより、進度、内容の優先度および順番が換わる可能性がある。
- ・この授業では、課題の種類や状況に応じて、適宜オンラインを取り入れる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Exploratory Practice in Language Teaching: Puzzling About Principles and Practices (Research and Practice in Applied Linguistics) / Judith Hanks/ Palgrave Macmillan/ 2017/ 978-1137457110/

その他、必要に応じてプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

学習開発研究所『「教える」から「学ぶ」への変革：学習投資への道 学習開発シリーズ』[Kindle版], 2014

金田道和編『英語の授業分析』大修館書店、1986。
 高梨庸雄『英語の「授業力」を高めるために』三省堂、2005。
 Lynch, T. Communication in the Language Classroom. Oxford U.P. 1996。
 Tajino, A, Stewart, T, Dalsky, D(ed.) Team Teaching and Team Learning in the Language Classroom: Collaboration for innovation in ELT. Routledge.2015
 [参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

英米文学作品研究 a

210241NOJ
 大学院
 人間文化研究科 > 応用英語専攻
 2単位 前期
 月曜 5限
 ー
 60
 大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Herman Melvilleの作品を読み、文学における英語表現を正確に精読し、考察することを目標とする。アメリカン・ルネッサンス期の時代背景やMelvilleの伝記的背景を理解し、批評する能力を涵養することも目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

難解なMelville文学を読むにあたって、一語一句分析する姿勢を身につける必要がある。

また、文学批評を行うにあたって、作品の先行研究などを渉猟することも求められる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction: Moby-Dickの前半部までのReview
- 第 2 回 Moby-Dick 精読および分析: ch.72~74
- 第 3 回 Moby-Dick 精読および分析: ch.75~79
- 第 4 回 Moby-Dick 精読および分析: ch. 80~82
- 第 5 回 Moby-Dick 精読および分析: ch.83~86
- 第 6 回 Moby-Dick 精読および分析: ch. 87~90

- 第 7 回 Moby-Dick 精読および分析: ch. 91~95
 - 第 8 回 Moby-Dick 精読および分析: ch.96~99
 - 第 9 回 Moby-Dick 精読および分析: ch. 100~102
 - 第 10 回 Moby-Dick 精読および分析: ch.103~107
 - 第 11 回 Moby-Dick 精読および分析: ch. 108~113
 - 第 12 回 Moby-Dick 精読および分析: ch.114~121
 - 第 13 回 Moby-Dick 精読および分析: ch.122~129
 - 第 14 回 Moby-Dick 精読および分析: ch.130~133
 - 第 15 回 Moby-Dick 精読および分析: ch.134~Epilogue
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・テキストの精読 (辞書を引き、表面的な意味にとらわれず多角的な視点から読むこと)
- ・テキスト分析 (受動的に読むのではなく、能動的にテキストに意味を見出すこと)
- ・リサーチ (先行研究を把握すること)

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

準備学習としてテキストの精読を求める。その際、不明な箇所や、解釈に関するコメントを事前に明確にしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点 40% (準備学習および授業でのコメントの評価)
 レポート 60%

〔留意事項 (Other Information)〕

受講生は長期休暇中に、Moby-Dickの72章まで読んでおくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Moby-Dick; or, The Whale / Herman Melville / NorthwesternUniversity Press and Newberry Library / 2001 / 学内販売無)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

応用英語研究方法論

210020NOJ

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 前期

金曜5限

ー

60

必修

Steven Herder 大川 淳 喜多 容子 木島 菜菜子
Lyle De Souza 須川 いずみ 小山 哲春 東郷 多津 York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は、応用英語専攻修士1回生を対象に、大学院レベルでの研究・学問の基礎的な方法論を教授することを目的とする。受講者は、大学院レベルで期待される研究の質を理解し、その達成のために必要とされる履修計画、研究計画、研究方法論、時間管理能力などを習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

具体的な個別課題として、以下の四つを掲げる：

- (1)大学院での研究の目的、意義、および期待される質を理解する
- (2)大学院での研究を計画し、遂行するための能力を養成する
- (3)大学院レベルでの一般的な研究方法論を理解し、習得する
- (4)各学問領域における特定の研究方法論を概観する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 大学院における研究の質と意義、心構え／研究の具体的な進め方 (共通)
- 第 2 回 文学・文化研究方法論 総論 (共通)
- 第 3 回 社会科学研究方法論 総論 (共通)
- 第 4 回 Academic Integrity (共通)
- 第 5 回 Methods of Reading Academic Articles (共通)
- 第 6 回 イギリス文学 研究方法論総説／英語教育学 (第二言語習得論の目標と分析対象)
- 第 7 回 イギリス文学 Flannery O'Connor 作品講読／英語教育学 (教育工学研究方法論)

- 第 8 回 イギリス文学 Flannery O'Connor 作品分析／英語教育学 (教授法研究の目標と分析対象)
- 第 9 回 イギリス文化論 / 英語教育学 (教授法研究方法論)
- 第 10 回 アメリカ文学 研究方法論総説／英語教育学 (応用言語学の目標と分析対象)
- 第 11 回 アメリカ文学 Nathaniel Hawthorn 作品講読／英語教育学 (応用言語学研究方法論)
- 第 12 回 アメリカ文学 Nathaniel Hawthorn 作品分析／言語学 (理論言語学の目標と分析対象)
- 第 13 回 アメリカ文化論／言語学 (研究方法論)
- 第 14 回 Academic Paper & Academic Presentation (共通)
- 第 15 回 研究計画書執筆に向けて (総括) (共通)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業は、主に以下のような構成となる：

- 第 1～4 週 一般的な研究方法論に関する講義
- 第 4～14週 Reading assignmentに基づく講義、解説、討論
- 第15週 全体のまとめ、および質疑応答

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Reading Assignment

第4～14週の授業に際しては、受講者は、前もって課された Reading Assignment (各授業につき、Journal article, Book chapter, etc.) を熟読し、授業中の討論に参加する。

Short Paper:

第4～14週の授業では各教員が指定するトピックでのShort Paper (500 words～)が課され、これを指定の期日までに提出する。

Proposal

最終課題として、各種方法論を学習した上での「研究計画書 (Proposal)」を執筆する。

各種課題の詳細については授業中に指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Short Paper 60%

Proposal 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目は原則として、文学・文化領域、英語教育・コミュニケーション・言語学領域の2クラスに分かれて授業を行う。なお、領域共通の授業回に関しては合同のクラスで授業を行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『研究法ハンドブック』/高橋順一・渡辺文夫・大淵憲一 編著/ナカニシヤ出版///学内販売予定

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

適宜指示

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

応用言語学

210013NOJ

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 前期

月曜3限

ー

60

喜多 容子

[科目の教育目標 (Course Description)]

本授業では、応用言語学の諸領域に関する論文・文献の購読を通じて、応用言語学で扱われる種々の分野を総論的に扱います。社会言語学で扱われる諸問題より始め、言語習得にまつわる問題、言語と脳の問題、外国語教授法などの諸分野を俯瞰し、現在の日本の教育現場において英語教育実践を考える際に必要な専門的知識の習得を目標とします。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

本授業では、応用言語学の諸領域に関する論文購読を通じて、以下の諸点についての理解を深める

1. 言語と文化、言語と社会、言語とジェンダーなどの社会言語学的観点
2. 母語習得と第二言語習得
3. 言語と脳
4. 外国語教授法
5. 日本の初等・中等教育における英語教育の現状と課題

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業の準備をしていない。	理解できない事柄を調べようとする。	理解できない事柄を調べ、内容を把握しようとする。	内容を把握し、考えを広げようとする。
応用言語学に関する知識・理解力	応用言語学に関する基本知識を、理解していない。	応用言語学に関する基本知識を、理解しようと努力している。	応用言語学に関する基本知識を、理解している。	応用言語学に関する基本知識を、理解し、他者に説明できる。
共生・協働する力	他者と協働して学習を進めることができない。	協働学習を進めようと努力している。	協働学習を進めることができる。	協働学習に積極的に関わり、さらに飛躍しようとする。

創造・発信力	意見を発信しようとしていない。	意見を発信しようとして努力している。	他者の意見をしっかりと聞き、自分の意見を発信できる。	他者の意見を聞き、自分の考えを再構築し発信できる。
--------	-----------------	--------------------	----------------------------	---------------------------

[授業計画]

- 第 1 回 オリエンテーション
授業方法についての説明と応用言語学についての導入
- 第 2 回 異文化コミュニケーション
Nonverbal communication
言語コミュニケーション
- 第 3 回 言語と文化
言語と文化の関係
high-context culture and low-context culture
- 第 4 回 翻訳
文構造の変容
Onomatopoeia, interlanguage
- 第 5 回 会話分析
談話分析と会話分析
- 第 6 回 言語とジェンダー
フェミニズム運動と英語の語彙改革
総称語
- 第 7 回 言語習得研究の変遷
母語習得と母語習得に関わる事例
- 第 8 回 第二言語習得研究の変遷
構造主義言語学と生成文法理論
中間言語
言語臨界期仮説
- 第 9 回 普遍文法と第二言語習得 1
言語習得装置
普遍文法
- 第 10 回 言語と脳
心と脳の関係
両半球の機能
脳の可塑化と言語発達の臨界期
- 第 11 回 英語教授法の変遷
直接教授法・リーディングメソッド
欧米諸国における外国語教授法
クラッシュの理論
- 第 12 回 現代の英語教授法
Communicative Language Teaching=CLT
イマージョン教育
CLIL
TBLT
- 第 13 回 小学校における英語教育
早期英語教育の意義と効果
- 第 14 回 日本の初等・中等教育における英語教育
英語教育の現状と課題
- 第 15 回 コースのまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業は、テキスト以外にも「応用言語学と英語教育」に関連した文献を扱う。教員がテーマを導入し、解説を加える。受講生は輪番で課題文献の要約を発表し、全員で討議する。また、受講生は指示された内容について、レポートの提出が個別に求められる。これらの課題・レポートに関しては、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各授業の準備段階においては、課題論文を熟読し内容をよく理解した上で授業に臨むことが求められる。また、授業で扱われる各テーマに関して自分なりの問題意識と自らの研究テーマにどのように生かしていくのかを考えたくうえで出席すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加及び平常レポート 60%, 期末レポート課題 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者のニーズ、人数などにより、受講者と相談の上、授業予定を変更することがある。

必要に応じて課題プリントを配布する予定。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『言語教育学入門—応用言語学を言語教育に活かす—』/山内進 (編著) /大修館書店/2003/9784469244892/学内販売有り
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『The Routledge Applied Linguistics Reader』/Li Wei (Ed.)/Routledge/2011/9780415566209

『Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics 4th Edition』/Jack C. Richards & Richard Schmidt/Routledge/2010/9781408204603

『Approaches and Methods in Language Teaching』/J. C. Richards & T. S. Rodgers/Cambridge University Press/2015/9781316617977

ハンドアウト、雑誌・論文など必要に応じてその都度配布予定

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

言語コミュニケーション

210253N0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期

水曜2限

—

60

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本講義の目標は、言語による発話意図伝達の仕組みを理論的に理解し、実際に言語データを分析する手法を習得することである。具体的な目的は以下の2点:

(1) 語用論 (Pragmatics) のうち特に会話の含意/推論を扱った諸理論を理解し、これらを用いて言語現象の分析を行う技術を習得すること

(2) 言語メッセージが持つ対人効果を検証する研究方法論(実験デザインと計測法)を習得すること

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 会話におけるNon-Literal / Non-Directな意味とその伝達に関する理論的モデルの批判的概観

(2) 具体的な言語データ分析手法の習得

(3) 言語メッセージの対人的影響計測方法の習得

(4) 実験デザインの理解と遂行技術の獲得

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 Origins and Domains of Pragmatics

第 2 回 Presupposition and Entailment

第 3 回 Speech Act Theory

第 4 回 Literal, Non-Literal, Direct, and Indirect Meanings

第 5 回 Conversational Implicature (1): Gricean Theory

第 6 回 Conversational Implicature (2): Neo-Gricean Theory

第 7 回 Conversational Implicature (3): Relevance Theory

第 8 回 Conversational Implicature (4): Socio-Cognitive Model

第 9 回 Facework & Politeness

- 第 10 回 Cross-cultural Pragmatics
- 第 11 回 Utterance Meaning & Message Effect
- 第 12 回 Message Effect Research Methods (1): Design
- 第 13 回 Message Effect Research Methods (2): Measurement
- 第 14 回 Message Effect Research Methods (3): Reporting the Results
- 第 15 回 Review & Presentation of a Mini Research Project
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 本科目は主に講義及びディスカッションで構成され、それぞれ事前に課されるリーディングを基に行われる。
- (2) 授業内または外の課題として実際に言語データを分析する演習を行い、理論的な理解の確認と増強を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に課されるReading Materialsを批判的に読んだ上で講義、ディスカッションに望むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- (1) 授業内演習 (ディスカッション、データ分析演習、他) : 30%
- (2) 理論に関するプレゼンテーション (2 回) : 30%
- (3) Final Paper : 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『The Oxford Handbook of Pragmatics』/Huang, Y. (Ed.)/
Oxford U.P./2017/9780199697960

『Pragmatics: A Multidisciplinary Perspective』/Cummings,
Louise/Edinburgh U.P./2005/0748616829

『Origins of Human Communication』/Tomasello, Michael/A
Bradford Book/2010/0262515202

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

言語研究デザインと統計

210047NOJ

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 前期

水曜 2限

—

60

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では社会科学的方法論に基づいた言語研究のデザインと基礎的な統計分析を扱う。ただし、ここでいう「言語研究」は狭い範囲での言語現象のみを扱った研究を指すのではなく、人間の言語活動に関わる広範囲の現象を扱った研究 (例えば英語学・英語教育学・コミュニケーション学・言語人類学等) を含む。本コース終了時に以下の3つの能力を習得していることが目標となる。(1)他の研究者が行った言語研究の報告を読み、理解し、かつ適切に評価する能力 (2)自らの言語研究を計画し遂行する能力 (3)質的・量的な言語データを適切に分析し、その分析結果を他人に報告する能力

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 社会科学 (言語研究を含む) の定義、科学哲学、認識論
- (2) 社会科学的研究の方法論
- (3) 実験研究・調査研究・フィールド研究の基礎的デザイン
- (4) 記述統計
- (5) 推論統計の基礎

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction / Philosophy of Science
- 第 2 回 Scientific Reasoning / Hypothesis Testing
- 第 3 回 Research Elements
- 第 4 回 Measurement (1): Scale Development
- 第 5 回 Measurement (2): Validity and Reliability / Sampling
- 第 6 回 Research Design
- 第 7 回 Review & Midterm Exam

- 第 8 回 Descriptive Statistics (1): Central Tendency
- 第 9 回 Descriptive Statistics (2): Variance and Standard Error
- 第 10 回 Logic of Inferential Statistics & Hypothesis Testing
- 第 11 回 Comparing Means (t-test)
- 第 12 回 Analysis of Variance (1): One-way ANOVA
- 第 13 回 Analysis of Variance (2): Factorial ANOVA
- 第 14 回 Correlation / Simple Regression
- 第 15 回 Comparing Proportions (chi-square)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

課題(1)~(3)に関してはテキスト、資料、参考文献に基づいた講義・ディスカッションを行う。また、ここで得た理解・知識を基に、修士論文の研究計画作成の練習を行う。課題(4)~(5)に関しては、テキスト、資料に基づいた講義を行い、さらに実際のデータを扱った演習を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

指摘テキストの精読、統計データの事前分析、等

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1)試験 (2 回を予定) 50% (2)(模擬) 研究計画 30%
(3)統計分析の演習 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

いたって入門的・基礎的な内容を予定しているので、履修時点で基礎的な統計の知識や高度な数学の知識を有している必要はない (四則計算ができれば十分!)。ただし、英語での専門用語に習熟するため、そして個々の英語力の鍛錬のため、多数の英語文献を使用する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Research Methods for the Behavioral Sciences』/Stangor, C/Houghton Mifflin/1998//学内販売予定

『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』/森敏昭・吉田寿夫/北大路書房/1990//学内販売予定

『英語教師のための教育データ分析入門』/三浦省吾 監修/大修館書店/2004//学内販売予定

『SPSSとAMOSによる心理・調査データ解析』/小塩真司/東京図書/2004//学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091A0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期集中

その他

—

60

必修

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

19世紀アメリカ文学を代表する作家の一人Herman Melvilleの作品を読む。テキストの難解さは、Melville作品の特徴の一つであるが、それは複雑な英語の構造だけではなく、哲学的領域を含めた考察を読者に求める作風に起因している。そこで、本科目の教育目標として、英語を読む力を養うとともに、テキストの分析力を向上させることも目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Herman Melvilleの作品の”Benito Cereno”を取り上げ、精読と分析を行う。テキストの細部にこだわりながら一語一句分析し、多角的な視点から考察することが課題となる。また、19世紀の時代背景や、文化的知識などの涵養も必須であり文献研究も多岐にわたる必要がある。本科目を通じて、分析する上での独自の切り口を修得し、修士論文で扱う主題の基礎を築くことも課題となる。

学期の最後にPaperの提出を課すが、そこでは自身の分析に加え、先行研究の把握、論文の構成力が課題となる。そのため、授業時間外の十分な学習時間の確保も受講者に求められるところである。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 インTRODクシヨン : Herman Melvilleの紹介、授業の進め方

第 2 回 ”Benito Cereno”の精読(pp.46-51)

第 3 回 ”Benito Cereno”の精読(pp.52-57)

- 第 4 回 "Benito Cereno"の精読(pp.58-63)
- 第 5 回 "Benito Cereno"の精読(pp.64-69)
- 第 6 回 "Benito Cereno"の精読(pp.70-75)
- 第 7 回 "Benito Cereno"の精読(pp.76-81)
- 第 8 回 "Benito Cereno"の精読(pp.82-87)
- 第 9 回 "Benito Cereno"の精読(pp.88-93)
- 第 10 回 "Benito Cereno"の精読(pp.94-99)
- 第 11 回 "Benito Cereno"の精読(pp.100-105)
- 第 12 回 "Benito Cereno"の精読(pp.106-11)
- 第 13 回 "Benito Cereno"の精読(pp.112-117)
- 第 14 回 Review, 文献研究, Final Paperの準備
- 第 15 回 Review, 文献研究, Final Paperの準備

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

毎回の授業で指定された範囲のテキストの精読を行う。重要だと思われる箇所に関して、コメントを求めることもある。

学期の最後に、Final Paperの提出を課す。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

毎回、指定された範囲の精読を課す。精読の方法としては以下の点を留意すること

- 1) テキスト内の文法構造を理解すること
- 2) テキスト内の固有名詞などをリサーチすること
- 3) 2) で調べた固有名詞が、なぜ言及されているかを考察すること
- 4) テキストを分析し、重要な箇所についてコメントする準備をしておくこと

5) 以上に関して、理解できなかった箇所を授業で確認できるように明確にしておくこと

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

平常点(予習等)40%

Final Paper 60%

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

"The Piazza Tales" / Herman Melville / The Northwestern UP / 2000 / 0-8101-1467-4 / 学内販売無し

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

専門演習

210091D0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期集中

その他

—

60

必修

小山 哲春

[科目の教育目標 (Course Description)]

コミュニケーションとは、言語・文化・認知など様々な要素が複雑に絡み合って織り成す相互的な人間行動である。本演習では、各要素が特に異文化間でのメッセージの産出や解釈にどのような影響を与えるかを先行研究を通して考察し、それらを土台として独自の研究(修士論文)を行うための能力を養成する。具体的に対象とするトピックは、対人コミュニケーション、異文化コミュニケーション、語用論、コミュニケーション能力研究、等となる。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. 関連領域の基盤的知識(語用論、対人コミュニケーション論、社会心理学等)の獲得
2. 先行研究の概観と課題の探索
3. 修士論文のテーマ(研究課題)の絞込み
4. 修士論文のProposal: 最初の数章(先行研究、研究課題/研究仮説の特定、方法論)の完成

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

- 第 1 回 Orientation
- 第 2 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #01 (on Definitions of Communication)
- 第 3 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #02 (on Code Model of Communication)
- 第 4 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #03 (on Inference Model of Communication)
- 第 5 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #04 (on Message Effects)
- 第 6 回

Report & Discussion on the Reading Assignment #05 (Cognition and Communication)

第 7 回 Interim Report

第 8 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #06 (on Interpersonal Communication)

第 9 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #07 (on Message Design Logic)

第 10 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #08 (on Cognitive Complexity and Communication)

第 11 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #09 (on Empathy and Perspective Taking)

第 12 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #10 (on Persuasive Communication)

第 13 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #11 (on Intercultural Communication)

第 14 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #12 (on Communication Competence)

第 15 回 Proposal Meeting

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 各授業は、各週のReading Assignmentについての(1)院生からの批判的報告、(2)担当教員からの解説、(3)担当教員と院生とのディスカッション、によって構成される。15週間という限られた時間内に関連領域の知識をつけ、また修士論文のテーマを絞り込む必要性から、各週のReading Assignmentsを深く読み込んでいくことが重要となる。

2. 学期末までに、修士論文のProposalを完成する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各週のReading Assignmentを精読し、ディスカッションの準備を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 各週のReading Assignmentsの批判的報告およびディスカッション (50%) 2. 修士論文Proposal (50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

修士論文のトピック等を考慮し、1週間に1～2本程度の論文/Book ChapterをReading Assignmentsとする。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091E0J
大学院
人間文化研究科 > 応用英語専攻
2単位 後期集中
その他
—
60
必修
須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

文学で修士論文を書こうと思っている院生が自分で作品を読みこなし、研究書をどう扱うのかを教えるクラスである。わたしの専門がジェイムズ・ジョイスなので、専門演習では好むと好まざるにかかわらず『ユリシーズ』の一部を読む。またそれ以外のジョイスの作品やその他その周辺のアイルランドの文学、イギリスの小説、カルチュラル・スタディーズなど受講者の希望によって内容を変更し、個人指導をする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 修士論文を書くに当たっての研究方法の習得
- (2) 原作及び資料、批評書を読むための英語力の向上
- (3) 原作の精読の習得
- (4) 先行論文の把握
- (5) 研究テーマの確定

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	毎講義のための準備や講義自体の内容を理解することができない。	毎講義の準備をある程度準備し、分からない点を質問できつ。	講義を受けるための予習ができていて、質問に答えることができる。	講義の予習が完璧にできた上で、新たな視点で自分の解釈を論じることができる。
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
それぞれの研究テーマの把握とクラス内容の相談
- 第 2 回 院生の研究方向の確認

- 文学基本読解方法の確認と研究におけるメソードの説明
- 第 3 回 作品読解 1
ジョイスの”The Boarding House”前半 2 分の 1 までの精読
- 第 4 回 作品読解 2
ジョイスの”The Boarding House”前半までの精読
- 第 5 回 作品読解 3
ジョイスの”The Boarding House”後半 2 分の 1 までの精読
- 第 6 回 作品読解 4
ジョイスの”The Boarding House”最後までまでの精読
- 第 7 回 研究方法紹介 1
クリティシズムの紹介とディスカッション
- 第 8 回 作品読解 5
Ulysses 第 1 挿話を読む
- 第 9 回 作品読解 6
Ulysses 第 3 挿話を読む
- 第 10 回 作品読解 7
Ulysses 第 8 挿話を読む
- 第 11 回 作品読解 8
Ulysses 第 13 挿話を読む
- 第 12 回 作品読解 9
Ulysses 第 15 挿話を読む
- 第 13 回 作品読解 10
Ulysses のビデオ鑑賞
- 第 14 回 研究方法紹介 2
クリティシズムの紹介とディスカッション
- 第 15 回 総まとめ
まとめとその他

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 文学・映画テキストの精読
- (2) 先行論文の紹介
- (3) 研究テーマの紹介
- (4) ディスカッション
- (5) レポート提出
- (6) 発表
- (7) 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

大変少人数で行うクラスであるので、それぞれが課題教材をしっかりと読んでまとめてくる必要がある。必ず指定の参考書や資料も読み、担当箇所の配布資料を準備してることが求められている。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点 (50%)、提出物 (30%)、発表 (20%) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

各の学生の研究テーマによって内容を変更する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Ulysses Annotated/Don Gifford/Univ.of California Press /1974年/9.780520253971E12

James Joyce's Ulysses/Harold Bloom/Chelses House/1987年/1555460216

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091F0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期集中

その他

—

60

必修

田口 茂樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

データを収集して一般化を行い、それをもとに仮説を立て、それを検証・修正していく方法論を学ぶ。これを繰り返して提案を行うという理論言語学の方法論を実践し、論文にまとめることを最終目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 理論言語学の方法論をきちんと身につける。
2. 言語学の方法論を実践する。
3. 修士論文に執筆を念頭に、関連した小論文を作成する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 理論言語学の方法論

- ・理論言語学の方法論をおさらいします。
- ・より学術的なレベルでの方法論を導入します。
- 第 2 回 事前インタビュー
 - ・学生がどのようなテーマに興味を持っているか尋ねます。
 - ・テーマに応じて先行研究の紹介をします。
- 第 3 回 トピックの決定と先行研究の紹介
 - ・トピックの決定と先行研究の紹介をします。
 - ・先行研究の探し方を学びます。
- 第 4 回 先行研究の読み方1 (受講者数により回数調整)
 - ・先行研究がどのような意義や波及効果をもたらしたかを議論します。
 - ・データや分析を鵜呑みにするのではなく、批判的に読んでいく手法を学びます。
- 第 5 回 先行研究の読み方2 (受講者数により回数調整)
 - ・先行研究がどのような意義や波及効果をもたらしたかを議論します。
 - ・データや分析を鵜呑みにするのではなく、批判的に読んでいく手法を学びます。
- 第 6 回 先行研究の読み方3 (受講者数により回数調整)
 - ・先行研究がどのような意義や波及効果をもたらしたかを議論します。
 - ・データや分析を鵜呑みにするのではなく、批判的に読んでいく手法を学びます。
- 第 7 回 データの収集
 - ・先行研究で提示されたデータ、及び関連するデータの反例を探します。
 - ・最小対によるデータベースを作成します。
 - ・文法性判断を知人、友人などに依頼します。
- 第 8 回 中間発表
 - ・現時点での進捗状況を報告し合うことで、学生がお互いを刺激することにつながります。
- 第 9 回 アウトライン
 - ・修士論文のアウトラインを作成し、大まかな構想を立てます。
- 第 10 回 データの分析と一般化
 - ・集めたデータの文法性判断を整理し、一般化を行います。
- 第 11 回 仮説を立ててみよう
 - ・一般化から仮説を立てます。
- 第 12 回 仮説の検証
 - ・仮説が正しいかどうか、を検証します。
- 第 13 回 分析と提案
 - ・仮説をもとにデータを分析します。
 - ・選んだアプローチに対してどのような帰結や意義、波及効果があるかをまとめます。
- 第 14 回 修士論文の提案書作成1 (受講者数により回数調整)
 - ・修士論文の提案書を作成します。
 - ・修士論文執筆に関する最後のアドバイスを行います。
- 第 15 回 修士論文の提案書作成2 (受講者数により回数調整)

- ・修士論文の提案書を作成します。
- ・修士論文執筆に関する最後のアドバイスを行います。

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

・修士論文の提案書を提出してもらいます。

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

・読む習慣、書く習慣を身につけましょう。

・周りの言語表現に絶えず気を配り、メモを取る習慣をつけましょう。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

・授業参加はもちろん、授業外でも担当教員と連絡を取り、関連文献を探しましょう。特に、手に入らない文献については、必ず担当教員に相談して下さい。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

・授業参加 (ディスカッションや質疑応答など) : 50%

・修士論文の提案書 : 50%

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

・先行研究や参考文献を適宜紹介していきます。

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

専門演習

210091H0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期集中

その他

ー

60

必修

York Weatherford

[科目の教育目標 (Course Description)]

The course will focus on second language acquisition (SLA) and how languages are learned and taught. Students will also gain an understanding of how second language learning compares to first language acquisition. The course will help students better understand the processes and strategies involved in learning an additional language and the methods employed in teaching second-language learners. Students will also develop the ability to do original research for a master's thesis in the area of second language learning and teaching.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. Acquisition of basic knowledge of second language acquisition and teaching

2. Overview of previous research and issues
3. Narrow down the topic of the master's thesis
4. Master's thesis proposal: Completion of the first few chapters (previous research, research subject /research hypothesis, and methodology)

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

[授業計画]

- 第 1 回 Introduction to Second Language Acquisition
- 第 2 回 Native Language Influences
- 第 3 回 The Linguistic Environment
- 第 4 回 Universal Grammar
- 第 5 回 Cognition
- 第 6 回 Intelligence and Aptitude
- 第 7 回 Motivation and Attitudes
- 第 8 回 Personality
- 第 9 回 Learning Styles and Strategies
- 第 10 回 Age and the Critical Period
- 第 11 回 Learner Language
- 第 12 回 Social Dimensions
- 第 13 回 Second Language Teaching
- 第 14 回 Teacher-Student Interactions
- 第 15 回 Classroom Research and Teaching

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. Each lesson consists of (1) a critical review of the week's reading assignments by the student (2) commentary from the instructor, and (3) a discussion between the instructor and the student about the reading assignments. It is important to read each week's assignments thoroughly in order to narrow down the topic of the master's thesis within the limited time.
2. By the end of the course, complete the master's thesis proposal.

Feedback methods:

1. For in-class reports, students will receive feedback in class in the form of oral commentary.

2. For written reports, students will receive written feedback within one week of submission.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

1. Read the assigned materials.
2. Prepare a critical review of the assigned reading.
3. Send e-mail to the instructor in case of questions.
4. Write a thesis proposal.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

1. Critical review and discussion of each reading assignment (50%)

2. Master's thesis proposal (50%)

[留意事項 (Other Information)]

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

References to current research and practices will be provided.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

Reading assignments will include one or two articles based on the topic of the master's thesis.

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

専門演習

21009110J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期集中

その他

—

60

必修

Lyle De Souza

[科目の教育目標 (Course Description)]

This course introduces students to literary theory. The course is divided thematically into three sections History & Theories, Practice, and Contexts. What is literature? How do we find meaning in it? And why does it matter? For centuries, we have elaborated theories to provide answers to fundamental questions about the nature and role of literary texts. But as literary theory increasingly draws on ideas from other disciplines, it risks losing sight of what is at its very core: literature and our experience of it. Rescuing the subject from dry abstractions, and focusing on the real issues that emerge when we read, we examine works by a variety of noteworthy authors to offer a clear explanation of literary theory firmly anchored in literature itself. This introduction demonstrates the compelling insights literary theory can offer, and reveals how enjoyable it is to think about what we read.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Introduce students to the most significant schools of literary theory.

Teach students how to apply literary theory to the analysis of selected works.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考・解決力	Does not meet expectations for the course yet	Meets expectations set out for the course	Exceeds expectations in some areas of the course	Exceeds expectations in most areas of the course

〔授業計画〕

第 1 回 What is Literary Theory?

第 2 回 Early theories

第 3 回 New Criticism

第 4 回 Formalism

第 5 回 Reader-response Criticism

第 6 回 Structuralism, Semiotics

第 7 回 Post-structuralism, Deconstruction

第 8 回 New Historicism

第 9 回 Cultural Studies

第 10 回 Postcolonial Criticism

第 11 回 Ethnic Studies

第 12 回 Gender Studies

第 13 回 Feminist Criticism

第 14 回 Queer Studies

第 15 回 Psychoanalytical Criticism

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The course is conducted entirely in English.

Students do a variety of group discussions, assignments, tests, and other work both in-class and as homework.

In-class activities are performed individually, in pairs, or in small groups.

Homework is submitted and graded online using Manaba.

Students receive regular oral feedback from their professor on in-class exercises, as well as written feedback on their homework assignments, tests, and other work. Students provide each other with encouragement and feedback when appropriate.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students should prepare for each class as directed by the professor. Usually this will be a close reading of the novel we are reading. **A close reading requires taking notes and writing a summary of the assigned pages, plus writing at**

least 2-3 questions and points for discussion with other students and the professor.

Students should review each class to make sure that they understand everything.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Assignments and tests 100%

〔留意事項 (Other Information)〕

CHANGES TO SYLLABUS

The contents and schedule of this syllabus may change according to the needs and abilities of the class, or other circumstances.

GRADING SCALE

秀 Excellent (S) 90 to 100%

優 Very good (A) 80 to 89%

良 Good (B) 70 to 79%

可 Pass (C) 60 to 69%

不合格 Fail (D) 0 to 59%

提出された Submitted (ungraded)

GETTING IN TOUCH

Email:

lyle@notredame.ac.jp (Tuesday to Friday)

Office hours:

Thursdays 1310 to 1440 (make a 15-minute appointment using the link below)

<https://www.lyledesouza.com/contact>

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

There is no textbook required for this course.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

www.lyledesouza.com/teaching

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091B0J
大学院
人間文化研究科 > 応用英語専攻
2単位 後期集中
その他
ー
60
必修
Steven Herder

[科目の教育目標 (Course Description)]

This course will explore a core set of topics related to the theory and practice of teaching and learning within the EFL context. Within the framework of ongoing professional development, these topics all relate closely to how teachers teach and how students learn best and can be explored and developed over a long career. There are a myriad of skills and strategies that effective teachers carry with them at all times. This course will introduce some of the most important issues to begin to focus on.

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. Address important issues in teaching and learning English.
2. Identify personal opinions about critical issues in the English classroom.
3. Develop a voice in expressing and debating issues related to teaching and learning.
4. Master's thesis proposal - Choose a narrow topic, outline a dissertation, and begin to work on selected parts of the thesis.

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency; Use grammar correctly; Use appropriate vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

思考・解決力: See multiple perspectives; Ability to ask questions; Ability to solve problems; Be logical, persuasive, and organized in your thinking	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
--	---------------------------------------	--------------------------------	--	----------------------------------

[授業計画]

- 第 1 回 Course Introduction
Discuss options for interacting with the material from presentations, discussions, debates to written summaries, mind maps, and essays.
- 第 2 回 Teacher-centered, Student-centered, and Learning centered
Understand the differences and choose an approach for specific contexts.
- 第 3 回 Complexity, Accuracy, and Fluency (CAF)
Explore these three constructs by which learning gains can be measured. Understand the place they occupy in any classroom.
- 第 4 回 The Balance of Input and Output
Create a framework for input and output based on the level of the learning community as well as the context within which learners will work.
- 第 5 回 Grammar vs. Meaning
What is the role of grammar in the learning process? How does it interact with meaning?
- 第 6 回 Vocabulary Acquisition
What does it mean to know a word? How is vocabulary best learned. Is all vocabulary equal?
- 第 7 回 Extensive Reading, Writing, Listening, and Speaking
An extensive approach to the four skills has grown in popularity within EFL contexts. Why is this and how do ESL and EFL differences support extensive learning.
- 第 8 回 Interim Report
An Interim Report will be made through a pre-chosen method.
- 第 9 回 Context, Level, and Group Dynamics
Not only are students different, but each and every class can be different based on level, context, and group dynamics
- 第 10 回 Classroom Management and Interaction

- What are the five types of interaction that occur in the classroom? What classroom management skills are needed to not only survive but to also thrive?
- 第 11 回 Motivational Strategies
What does Dornyei teach us about motivational strategies in the classroom? How important is motivation in your approach?
- 第 12 回 Motivation 3.0
The latest in motivational theory claims that "the carrot and the stick" is ineffective. A new approach based on autonomy, relatedness, and mastery will be explored.
- 第 13 回 Action Research
The Action Research model is an effective way to pursue ongoing professional development. Why is that, and how can one best employ action research?
- 第 14 回 Reflective Teaching
The reflective teaching model is an exceptional way to improve teaching in a significant way. The goal is to attain ongoing, incremental gains.
- 第 15 回 Proposal Meeting
A dissertation project will have been chosen and this session will review all that has been completed, as well as refining further steps in the process.

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. Each lesson consists of (1) a critical review of the week's reading assignments by the student (2) commentary from the instructor, and (3) a discussion between the instructor and the student about the reading assignments. It is important to read each week's assignments thoroughly in order to narrow down the topic of the master's thesis within the limited time of 15 weeks.

2. By the end of the term, complete the master's thesis proposal. Students will complete ongoing oral reports and a written dissertation proposal.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. Read the assigned materials.
2. Prepare a critical review of the assigned reading.
3. Use LINE or e-mail to communicate with the instructor in case of questions.
4. Write a thesis proposal.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. Critical review and discussion of each week's reading assignments (50%)
2. Master's thesis proposal (50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

This course will be a blended course. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

No assigned textbooks

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

PDF handouts will be used

〔参考URL(URL for Reference) 〕

Online readings will be available as well

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091COJ

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期集中

その他

ー

90

木島 菜菜子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

19世紀イギリス文学を代表する作家の一人George Eliotの作品を読む。英語を読む力を養うとともに、テキストの分析力を向上させることも目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

George Eliotの作品*Adam Bede*を取り上げ、精読と分析を行う。テキストの細部にこだわりながら一語一句分析し、多角的な視点から考察することが課題となる。また、19世紀の時代背景や、文化的知識などの涵養も必須であり文献研究も多岐にわたる必要がある。本科目を通じて、分析する上での独自の切り口を修得し、修士論文で扱う主題の基礎を築くことも課題となる。

学期の最後にPaperの提出を課すが、そこでは自身の分析に加え、先行研究の把握、論文の構成力が課題となる。そのため、授業時間外の十分な学習時間の確保も受講者に求められるところである。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 *Adam Bede* の精読 (Book First, Ch. 1)
- 第 3 回 *Adam Bede* の精読 (Book First)
- 第 4 回 *Adam Bede* Book Firstの精読と analysis
Book Firstについての分析とディスカッション
- 第 5 回 *Adam Bede* の精読 (Book Second)
- 第 6 回 *Adam Bede* Book Secondの精読と analysis
Book Secondについての分析とディスカッション
- 第 7 回 *Adam Bede* の精読 (Book Third)
- 第 8 回 *Adam Bede* Book Third の精読 と analysis
Book Thirdについての分析とディスカッション
- 第 9 回 *Adam Bede* の精読 (Book Fourth)
- 第 10 回 *Adam Bede* Book Fourthの精読 と analysis
Book Fourthについての分析とディスカッション
- 第 11 回 *Adam Bede* の精読 (Book Fifth)
- 第 12 回 *Adam Bede* Book Fifthの精読と analysis
Book Fifthについての分析とディスカッション
- 第 13 回 *Adam Bede* の精読 (Book Sixth)
- 第 14 回 *Adam Bede* Book Sixthの精読と analysis
Book Sixthについての分析とディスカッション
- 第 15 回 Reviewと先行研究の分析

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回の授業で指定された範囲のテキストの精読を行う。重要だと思われる箇所に関して、コメントを求めることもある。

学期の最後に、Final Paperの提出を課す。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回、指定された範囲の精読を課す。精読の方法としては以下の点を留意すること

- 1) テキスト内の文法構造を理解すること
- 2) テキスト内の固有名詞などをリサーチすること
- 3) 2) で調べた固有名詞が、なぜ言及されているかを考察すること
- 4) テキストを分析し、重要な箇所についてコメントする準備をしておくこと
- 5) 以上に関して、理解できなかった箇所を授業で確認できるように明確にしておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点 (予習等) 40%

Final Paper 60%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Adam Bede / George Eliot / Oxford University Press / 2008 / 978-0199203475 / 学内販売無し

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日英語比較分析 a

210251N0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期

月曜 4限

60

(未定)

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代言語学の考え方を背景とした、意味論 (Semantics)と統語論 (Syntax)の基礎概念とその応用について、英語教育 (や日本語教育) に役立つ言語観を身に付けることを目標とします。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

授業では、まず、(1) 意味の捉え方に関する幾つかの考え方を学び、(2) 意味と統語のインターフェイスの問題を見た後、(3) 言語の統語構造に話を進めます。言語のその他の側面 (音声、語彙、談話など) についても、ハンドアウトの<Coffee Break>のコーナーで取り上げます。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分を育てようとする意欲に欠ける。	今の自分の研究に足りないものを明確に認識できる。	明確な研究計画の下に研究を進めることができる。	次々に新たな研究課題に対峙し自分を高めようとする。
知識・理解力	言語に関する最も基本的な知識・理解力に欠ける。	言語に関する知識を体系化しようとする。	可能な限り多方面からの知見を得ようとする。	隣接分野からも知識や理解力を得ようとする。
言語力	言語に関する最も基本的な認識に欠ける。	体系的な言語観察ができる。	これまで気付かれていなかった言語事実を発掘できる。	これまで気付かれていなかった言語事実を体系化できる。

思考・解決力	自らの頭で考えようとする意欲に欠ける。	自らの頭でオリジナルなことを考えようとする。	困難な課題に対峙しても解決策を探ることができる。	自らのオリジナルな発想を体系化できる。
共生・協働する力	先行研究から学ぼうとする意欲に欠ける。	先行研究を虚心に理解しようとする。	先行研究にない知見を加えることができる。	同じ分野の研究者と共同研究することができる。
創造・発信力	先行研究に新たな知見を加えようとする意欲に欠ける。	先行研究から解決すべき問題を抽出しようとする。	新たな着想を他の研究者に発信できる。	先行研究に敬意を払いつつ学界に貢献できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 言語の地平へ：Introduction
- 第 2 回 意味の捉え方（1）：文の意味とは何だろう？
- 第 3 回 意味の捉え方（2）：語を作り上げる成分
- 第 4 回 意味の捉え方（3）：日本語学と文法
- 第 5 回 見えないものを見る言語表現
- 第 6 回 比喩から見る世界の姿
- 第 7 回 学校文法と理論文法
- 第 8 回 意味と構造のインターフェイス（1）：主要部
- 第 9 回 意味と構造のインターフェイス（2）：意味役割
- 第 10 回 動詞から見る日本語と英語（1）：動詞分類とアスペクト
- 第 11 回 動詞から見る日本語と英語（2）：移動表現を巡って
- 第 12 回 動詞から見る日本語と英語（3）：二重目的語構文
- 第 13 回 動詞から見る日本語と英語（4）：結果構文
- 第 14 回 活用を考える
- 第 15 回 科学的な言語研究：総括

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業は基本的に講義形式で進めますが、授業中の質問やディスカッションを歓迎し、Active Learningの観点からの成果を期待しています。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

ハンドアウト（プリント）は、第一回目の授業の後に全15回分を配信しますので、次回の授業分に目を通し、不明な箇所や興味のあるトピックについて、予め考えてきて下さい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業中の質疑応答とセメスター末のレポートで評価します。なお、レポートは、評点とコメントを付けてPCにファイルを送ります。

〔留意事項（Other Information）〕

現代言語学に関する基礎知識はとりあえず必要ありません。受講生の履修レベルを勘案して授業内容を調整します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

ハンドアウト（プリント）を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日英語比較分析 b

210252N0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期

金曜 4限

ー

60

田口 茂樹

〔科目の教育目標（Course Description）〕

ミニマリストプログラムにおける統語論の基本概念と、それにもとづく日本語と英語の構文研究を行う。修士論文のテーマ設定と論文作成を目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 学部時代に学んだ方法論を用いて、口頭発表・論文発表を行う。
2. 文献収集によって修士論文のテーマ設定と論文作成を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	高度な教材を通して積極的に内容を理解しようとする	高度な教材を通して積極的に内容を理解しようとする	高度な教材を通してある程度内容が理解できる	高度な教材の内容をほぼ理解できる
言語力	複雑なデータを正しく理解することができない	複雑なデータを正しく理解することができる	複雑なデータを的確に分析できる	複雑なデータを的確に分析し、それを口頭・文章で表現できる
思考・解決力	修士論文のテーマについて考えようとする	修士論文のテーマについて考えようとする	修士論文に関する興味深いテーマを考えられる	修士論文に関する興味深いテーマを考え、それを分析できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 分量の多い論文を書くに当たって

- ・ハンドアウトや短い論文と、修士論文の違い
- ・学部時代の文献収集と、修士課程における文献収集の違い
- ・ミニマリストプログラムの最近の動向
- 第 2 回 変形、構造構築の変遷
 - ・顕在的移動の解説をします。
 - ・非顕在的移動の解説をします。
 - ・素性移動の解説をします。
 - ・移動と併合の解説をします。
 - ・素性継承の解説をします。
- 第 3 回 フェイズ理論
 - ・Chomsky (2000)以降のフェイズ理論を概観します。
- 第 4 回 補文標識句(節)の構造：平叙文
 - ・日本語と英語のカートグラフィー統語論(節レベル)について議論します。
- 第 5 回 補文標識句(節)の構造：疑問文
 - ・日本語と英語のカートグラフィー統語論(節レベル)について議論します。
- 第 6 回 名詞句(限定詞句)の構造：NPとDP
 - ・日本語と英語のカートグラフィー統語論(名詞句レベル)について議論します。
- 第 7 回 名詞句(限定詞句)の構造：限定詞句のカートグラフィー
 - ・日本語と英語のカートグラフィー統語論(名詞句レベル)について議論します。
- 第 8 回 名詞句(限定詞句)の構造：格交替を中心に
 - ・日本語と英語のカートグラフィー統語論(名詞句レベル)について議論します。
 - ・日本語の主格／属格交替構文の研究史を概観し、先行研究を紹介しします。
- 第 9 回 中間発表
 - ・どのようなアプローチに興味を持ち、それをもとにどのようなデータを収集する予定かを発表し、ディスカッションを行います。
- 第 10 回 例外的格標示構文
 - ・日本語と英語の例外的格標示構文の研究史を概観し、参考文献の紹介をします。
- 第 11 回 使役文
 - ・日本語の使役文の研究史を概観し、参考文献の紹介をします。
- 第 12 回 主格／属格交替構文
 - ・日本語の主格／属格交替構文の研究史を概観し、参考文献の紹介をします。
- 第 13 回 主格／対格交替構文
 - ・日本語の主格／対格交替構文の研究史を概観し、参考文献の紹介をします。
 - ・アイスランド語などの主格／与格交替構文にも言及します。
- 第 14 回 受動文
 - ・日本語と英語の研究史を概観し、参考文献の紹介をします。
- 第 15 回 まとめと相談

- ・授業のまとめをします。
- ・修士論文の執筆に関する相談に乗ります。
- [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
- ・修士論文に関連したレポートを提出してもらいます。
- [教育・学習の方法 (Course Methods)]
- ・授業中に紹介した参考文献以外にも、興味がある文献は紹介しますので、遠慮なく尋ねてください。
- ・類例や反例に絶えず気を配ってください。
- ・内容が濃くなっていくので、分からないところがあれば、メールなどで随時質問してください。
- ・レポートや口頭発表の数は未定ですが、文書あるいは口頭でフィードバックを行います。
- [準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]
- ・授業中に紹介した参考文献は、きちんと読んできてください。
- ・必要に応じて練習問題を課題とする場合があるので、きちんと授業内容を理解できるように工夫してください。
- ・口頭発表・レポートの回数は未定ですが、文書あるいは口頭でフィードバックを行います。
- [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]
- 60
- [評価方法・評価基準 (Evaluation)]
- 発表：30%
- 課題：30%
- 修士論文に関連したレポート：40%
- [留意事項 (Other Information)]
- ・学部時代に「ことばのしくみ」、「英語英文学演習I」、「英語英文学演習II」を履修済みの学生が対象です。
- [テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]
- ・授業で紹介する文献を読んできてもらいます。
- [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
- 授業の進度に応じて適宜紹介します。
- [参考URL(URL for Reference)]
- [実務経験のある教員による実践的科目]

専門演習

210091G0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期集中

その他

東郷 多津

[科目の教育目標 (Course Description)]

受講生各自が選んだ研究テーマについて、それを深化・発展させて、修士論文につなげていくための個別指導を行う。本授業で扱う英語教育の領域は、シラバス・教材開発、授業設計、授業分析のほか、自律学習、協調学習、DBR(Design-based Research)といったテーマについても指導する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 研究テーマに関連する先行研究の読解と整理
2. 研究テーマの絞り込み
3. 研究仮説 / Research Questionsの設定
4. 研究計画 (Research Proposal) 作成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	関連テーマに関する研究について全く説明できない。	テキストを参照しながら、関連テーマに関する研究が何かを説明できる。	テキストを見ずに、関連テーマに関する研究が何か自分の言葉で説明することができる。	関連テーマに関する研究について、自分の言葉で説明ことができ、自身の研究について研究法を限定できる。
発信力	研究成果を発表することができない	研究成果を教室内で発表できる	研究成果を学内で発表できる	研究成果を関連学会で発表できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 関連テーマについての概論的講義
- 第 2 回 関連テーマについての資料の収集方法
- 第 3 回 関連テーマについての資料の読解方法
- 第 4 回 関連テーマについての資料の読解演習
- 第 5 回 関連テーマについての資料の読解と整理
- 第 6 回 研究テーマを絞り込むための先行研究の整理
- 第 7 回 研究テーマを絞り込むための先行研究の選択
- 第 8 回 研究テーマを絞り込むための先行研究の考察
- 第 9 回 研究テーマを絞り込むための先行研究の再整理
- 第 10 回 研究テーマを絞り込むための追加資料の収集
- 第 11 回 研究テーマを絞り込むための追加資料の整理
- 第 12 回 研究テーマを絞り込むための追加資料の考察
- 第 13 回 修士論文の構成
- 第 14 回 研究計画の作成
- 第 15 回 修士論文の研究計画書 (Research Proposal) の作成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法
 - (1) 研究論文や実践報告書の講読と演習
 - (2) 研究テーマや研究計画の発表とそれに対する助言
2. 研究方法
 - (1) 研究テーマに関係する先行研究の把握
 - (2) 研究仮説の検討
 - (3) 研究計画の作成

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業予定を把握し、資料をあらかじめ準備する。そのうえで、必ず授業までに資料を読んで、授業に臨む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

50

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表や報告に基づく授業参加点 (40%) と修士論文プロポザル (60%) に基づき総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業では、課題の種類や状況に応じて、適宜オンラインを取り入れる。

毎回与えられる課題を必ずこなして、修士論文執筆の基礎固めを確実に達成すること。

関連学会への参加、出席を奨励する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

John Furlong and Alis Oancea (2005) "Assessing Quality in Applied and Practice-based Educational Research : A Framework for Discussion"

The Design-Based Research Collective (2003) "Design-Based Research: An Emerging Paradigm for Educational Inquiry"

教員が準備したプリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ロングマン応用言語学辞典』//南雲堂//

『英語教育用語辞典』//大修館/最新刊/

『Longman Dictionary of Applied Linguistics and Language Teaching』/Richards, J. and R. Schmidt/Longman/2010/

『英語教育学大系 第1巻 大学英語教育学』/森住衛編さん/大修館書店/2010/

『英語教育学大系 第11巻 英語授業デザイン—学習空間づくりの教授法と実践』/山岸信義, 鈴木 政浩, 高橋 貞雄 (編)/大修館書店/2010/

海外学術雑誌 (Applied Linguistics, TESOL Quarterly, ELT Journalなど) と国内学会紀要 (ARELE, JACET Journal, SELT など), 研究書などからの関連論考

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091J0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期集中

その他

喜多 容子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

受講生各自が選んだ研究テーマについて、それを深化・発展させて、修士論文につなげていくための個別指導を行うことを目標とします。応用言語学・英語教育分野の中でも4技能の指導法に関して、理論領域と実践領域の有機的つな

がりを意識することで、院生各自の研究課題が修士論文へとつながることを期待します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 英語教育学, 応用言語学関連の基盤的知識の獲得
2. 研究テーマに関連する先行研究の整理と読解
3. 研究テーマの絞り込み
4. 研究仮説又は研究上の問い (Research Questions) の設定
5. 研究計画 (Research Proposal) の作成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の進め方等の説明
- 第 2 回 関連テーマに関する概論的講義
- 第 3 回 関連テーマに関する資料の収集方法
- 第 4 回 関連テーマに関する資料の読解方法
- 第 5 回 関連テーマに関する資料の読解演習
- 第 6 回 関連テーマに関する資料の整理
- 第 7 回 研究テーマを絞り込むための先行研究の整理
- 第 8 回 研究テーマを絞り込むための先行研究の選択
- 第 9 回 研究テーマを絞り込むための先行研究の考察
- 第 10 回 研究テーマの絞り込み
- 第 11 回 研究仮説又は研究上の問い (Research Questions) の設定
- 第 12 回 研究仮説又は研究上の問い (Research Questions) に対する検証
- 第 13 回 修士論文のアウトライン
- 第 14 回 修士論文の研究計画 (Research Proposal) の作成
- 第 15 回 修士論文の研究計画 (Research Proposal) の見直しと修正

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各回の授業において、研究課題に関連する文献を1本の割合で読み進めていきます。

基本的には院生が各文献の批判的レビューを行い、担当教員が補足的説明を行います。批判的分析を院生と担当教員との間でディスカッションを通して行い、院生の修士論文におけるプロポーザルに結びつけていきます。また、提出された課題については、その都度コメントを付して返却し、次の課題へつなげる形でフィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

院生自らが選んだ研究論文と教員から与える文献を精読したうえで、授業に臨むことが求められる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表や討論・報告などの授業参加度 50%、修士論文プロポーザル 50%

〔留意事項 (Other Information)〕

研究会・学会への積極的参加を奨励する

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

必要な文献・論文等はこちらから配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

その都度通知する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

バイリンガリズム

210233N0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

1年次 2年次

2単位 集中

その他

—

60

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

In this course, we will study how people around the world and in Japan who need two or more languages in their daily lives acquire (or fail to acquire) multiple languages. We will examine the types of language environments that multilingual speakers inhabit and how their communication and identity differ from those of monolingual speakers. In addition, students will consider how educational institutions and society should educate and accept multilingual people as members of society.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. To acquire basic knowledge about language use, language acquisition, and language education for multilingual people living in the world and Japan.
2. To understand the theoretical and methodological principles of bilingual research.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

創造・発信力				
--------	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction to Bilingualism
- 第 2 回 Bilingual Research Methods
- 第 3 回 The Psycholinguistics of Bilingualism
- 第 4 回 The Bilingual Brain
- 第 5 回 The Bilingual Brain Revisited
- 第 6 回 Bilingualism and Creativity
- 第 7 回 Bilingualism and Executive Functioning
- 第 8 回 Bilingualism Linguistic and Cognitive Development
- 第 9 回 Social Psychology of Bilingualism
- 第 10 回 The Social and Cultural Contexts of Bilingualism
- 第 11 回 The Sociolinguistics of Bilingualism
- 第 12 回 Code-Switching
- 第 13 回 Linguistic Contributions to Bilingualism
- 第 14 回 Second Language Acquisition and Bilingualism
- 第 15 回 Final Reports and Discussion

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

In class, we will review and discuss the contents of the reading assignments.

Depending on the needs of the students, their background knowledge, and the pace of their study, the content may be adjusted or changed after consultation.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students are expected to read the assigned chapters in advance of each class and come prepared to discuss the contents.

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Class participation: 50%

Final report: 50%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

An Introduction to Bilingualism: Principles and Processes, 2nd Edition/Jeanette Altarriba (Editor), Roberto R. Heredia (Editor)/Routledge/2018/1848725868

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

住環境学特論

260053N0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期

木曜 3限 木曜 4限

竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本の伝統的建築空間構造の変遷をたどることからみえる、日本人の暮らしと空間に関する理解を深める。「建築」を俯瞰しその本質に迫ることで、未来に向けた空間デザインを提案する

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

日本の伝統的空間の歴史的な変容を概観する。授業は建築の歴史的変容に関する書籍や資料を講読し、日本建築の源流を探求し、日本の建築の本質への理解と、これからのありかたについて議論する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 和室の起源と性格 (論文講読)
- 第 3 回 近世和室への変容と様式
- 第 4 回 外国人からみた日本家屋
- 第 5 回 茶の湯文化と建築
- 第 6 回 畳、建具の成り立ち
- 第 7 回 明治維新後の和室
- 第 8 回 モダニズム建築における和室の模索
- 第 9 回 近年の和室に関する動向
- 第 10 回 実地見学1に関する事前調査
- 第 11 回 実地見学1及び考察とディスカッション
- 第 12 回 実地見学2に関する事前調査
- 第 13 回 実地見学2及び考察とディスカッション
- 第 14 回 和室及び日本家屋のこれからの考察
- 第 15 回 和室及び日本家屋のこれからの考察を題材としたディスカッションとまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

2時間連続、隔週での授業とする。書籍及び論文を講読し知識を深める。また実例をみることにより理解を深める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業までに課題を必ず行い疑問点は自ら解決しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

90

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業は受講生同士と教員のディスカッションが中心であるので、積極的に発言することを当然の授業態度とする。授業参加度(50%)と第14と15回の発表内容(50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

授業は2時間連続で実施する。授業日程の詳細は初回ガイダンスで説明する。授業内容はシラバスの通りを予定しているが、受講生の理解の様子をみて変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

和室学/平凡社/ISBN978-4-582-54468-8

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ソーシャルワーク実習

260119AOJ

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期

金曜 5限

ー

30

佐藤 純 石井 浩子 三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本実習では、社会福祉運営管理特論、子どもの健康福祉特論、精神保健福祉特論等において習得した知識・技術・価値観を実際の場面で深め、より高度な専門的援助の展開を可能にすることを目標とする。各学生は実習先、実習テーマを含めた実習計画を教員と相談の上事前に決定する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

本実習では、下記のことを実習を通じて習得する。

1. 各自が選択した分野におけるソーシャルワークの実践についての理解
2. 各自が選択した現場の仕事内容・職員構成・連携についての理解
3. 援助者としての自己覚知に関する理解
4. 高度な専門的直接援助・間接援助技術の理解
5. 利用者へのサービスの有効性に関する評価方法の理解
6. 実習生自身の高度な専門的訓練
7. 援助者の倫理に関する理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

各学生は実習先、実習テーマを含めた実習計画を教員と相談の上事前に実習先を決定する。学生の希望する実習先に応じて担当する教員が異なる。担当する教員は実習指導の事前指導・実習中指導・実習事後指導のすべてを担当指導する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

実習の前に事前指導を行う。実習生は実習期間中に現場指導担当職員と教員からのスーパービジョンを、また教員から事後指導を受ける。適宜口頭で指導する。実習報告レポートについては返却し、授業中に適宜フィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業・実習先で示された文献・書籍等を熟読し、実習に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績評価は、実習施設の実習担当指導者と本実習担当教員の連携指導のもとに、総合評価する。その内訳は以下の通りである：

- ①実習受け入れ先のスーパーバイザーによる評価基準に基づく評価40%
- ②担当教員による事前・事後指導および実習中のスーパービジョンにおける評価40%
- ③実習報告レポート20%

〔留意事項 (Other Information)〕

本実習科目を履修する条件は以下のとおりである：

- 1) 原則として、学部等で、社会福祉士、精神保健福祉士、あるいは保育士の現場実習を履修した者
- 2) 社会福祉運営管理特論、子どもの健康福祉特論、精神保健福祉特論の何れかを受講していること (もちろんソーシャルワーク実習と同時に履修することも可能)

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に示す。

〔参考URL(URL for Reference)〕

授業中に示す。

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》三好明夫：実務経験あり 社会福祉士として
高齢者福祉施設での勤務経験あり

佐藤純 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

石井浩子： 有資格者として保育園での勤務経験あり

プロジェクト課題研究

260152N0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

6単位 集中

その他

ー

180

必修

萩原 暢子 加藤 佐千子 中村 久美 酒井 久美
子 竹原 広実 佐藤 純 畠山 寛 石井 浩子 三
好 明夫 牛田 好美 矢島 雅子 植田 恵理子 藤
原 智子 青木 加奈子 安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この科目は、学生が生活福祉文化学の各領域の枠を払ったいくつかの「プロジェクトチーム」のひとつに参加してプロジェクト学習方式(Project Based Learning)を学ぶ演習科目である。これにより学生と教員の関心が実践的な課題によって結ばれ、学生のより主体的な学修を促すことができる。生活福祉文化学という実践科学は現場の問題解決志向性とその理論的・方法的基礎づけという2方向により成り立つ。この2方向の志向性を現実化するのが「プロジェクト課題研究」である。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) プロジェクト課題研究の意義と目的 (2) プロジェクト課題研究の方法

(3) プロジェクト課題研究の課題設定 (4) 研究チームの結成

(5) 研究の進行管理 (6) 研究報告

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 (履修登録、科目の説明)

履修登録および科目の説明を行う (担当：萩原)

第 2 回 (プロジェクト課題研究の意義と目的)

プロジェクト課題研究の意義と目的について詳述する。(担当：萩原)

第 3 回 (研究倫理について)

研究倫理については、例年、研究倫理委員会主催で、大学院生・教員向けの講座が開かれるので、院生が授業の一環として参加する。(担当：佐藤)

第 4 回 (プロジェクト課題研究の方法①研究課題の決定)

各自の興味関心を探る (担当：萩原)

第 5 回 (プロジェクト課題研究の方法②研究課題の決定)

共通するテーマを見つける (担当：萩原)

第 6 回 (プロジェクト課題研究の課題設定)

プロジェクト課題研究の課題を設定する (担当：萩原)

第 7 回 (発表および質疑応答の方法)

発表および質疑応答の方法を学ぶ (担当：全員)

第 8 回 (プロジェクト課題研究の構想発表とチームの結成)

プロジェクト課題研究の構想発表とチームの結成を行う (担当：全員)

第 9 回 (プロジェクトチームによる検討会①)

テーマ・研究方法について検討する (担当：チームに選抜された教員)

第 10 回 (プロジェクト課題研究中間発表会)

プロジェクト課題研究中間発表会を行う (担当：全員)

第 11 回 (プロジェクトチームによる検討会②)

具体的な内容に踏み込んで対策を検討する (担当：チームに選抜された教員)

第 12 回 (プロジェクトチームによる検討会③)

結果について検討する (担当：チームに選抜された教員)

第 13 回 (プロジェクトチームによる検討会④)

最終発表の準備をする (担当：チームに選抜された教員)

第 14 回 (プロジェクト課題研究発表会)

プロジェクト課題研究発表会を行う (担当：全員)

第 15 回 (研究およびプレゼンテーションの省察)

研究およびプレゼンテーションの省察を行う (担当：全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1) 学生が研究課題に取り組むチームを立ち上げる。(2) 各チームに指導担当教員を置く。

(3) 前期は主として課題設定、後期は課題研究を行う。

(4) 前期 1 回、後期 2 回 研究集会を開催し、課題の紹介、中間発表、研究発表等を行う。

(5) 研究発表終了後に課題についてのレポートを課し、指導教員による評価によってフィード

バックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回、授業の中で行われるディスカッションに注目し、話題となっている内容について、把握するように努めること。具体的には、関連著書や論文、インターネットなどを駆使し、新しい情報を得るようにする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

90

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究発表の状況及び研究終了後に提出するプロジェクト課題レポートにより評価する。

1.3回の発表について：内容、質疑応答について (各10%、合計30%)

2.課題レポートの評価基準：内容(構成を含む)、論述の仕方、引用文献の取り扱い方 (60%)

3.態度・取り組み度・成長度について (10%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員のオムニバスで運営している。

研究方法論

260010NOJ

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

1単位 通年

金曜 6限

ー

30

必修

竹原 広実 萩原 暢子 加藤 佐千子 中村 久美
酒井 久美子 佐藤 純 畠山 寛 石井 浩子 三好 明夫 牛田 好美 矢島 雅子 植田 恵理子 藤原 智子 青木 加奈子 安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活科学、健康科学、生活文化、社会福祉など生活関連領域における研究を進めていく上で必要な基礎となる研究方法論を学ぶものである。これらの領域において用いられる代表的な研究手法について、前半は各手法を常用する教員から講義を受ける。後半は実際に行われた研究事例を取り上げ、より実践的に研究手法を体験し学ぶ機会を提供する。以上を通じて研究課題の定め方、研究計画の立て方、研究

手法の選び方、分析方法などについての学びを深めることを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

生活科学、健康科学、生活文化、社会福祉の領域における研究手法について理解を深める。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション (竹原)

第 2 回 量的研究法 (加藤)

第 3 回 質的研究法 (佐藤)

第 4 回 関連分野における研究動向・研究方法論 (藤原)

第 5 回 関連分野における研究動向・研究方法論 (中村)

第 6 回 関連分野における研究動向・研究方法論 (牛田)

第 7 回 関連分野における研究動向・研究方法論 (三好)

第 8 回 関連分野における研究動向・研究方法論 (石井)

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

複数教員によるオムニバス形式で行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各回でとりあげる研究動向、研究手法について、事前に図書館の文献などで予習し知識を持っておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業への参加度を軸とし講義担当教員が評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

いずれかの回で、外部講師を招き特別講義を実施することもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

各回授業で適宜資料を配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

生活文化学特論

260011NOJ

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期

木曜2限

ー

60

中村 久美 牛田 好美 藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活に関わる文化をヒトとモノ、コトとの相互関係の構築ととらえ、それを歴史や風土、社会的背景の追求から解明することで、よりよい人間の生活のあり方を考えていくものである。本特論ではこの生活文化の諸相を衣生活、食生活、住生活の各側面から明らかにする。現代の衣食住の生活側面を文化の視点で評価し、よりよいあり方について論じることができることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・洋服が日本に導入されて以降の、衣文化について考察する。(牛田)

・米をテーマに日本型食生活と食文化について考察する。(藤原)

・住様式を歴史的、あるいは比較文化の視点から考える。(中村)

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自己の研究との関係からみた本科目に対する理解や思考、探求意欲・態度	生活文化という概念、および衣食住に関わる文化的視点についてまだよくわからない	授業内で得た衣食住の生活文化の話題については大體理解できている	授業の理解をさらに深めるために、教員に質問したり関連する文献を読む	自己の研究の立場からみた衣食住の生活文化の意味や価値を考えると同時に、自己の研究過程にその知識や理解を活かそうとする

〔授業計画〕

- 第 1 回 衣からみた生活文化論 牛田
- 第 2 回 衣における日本文化と西洋文化の比較 牛田
- 第 3 回 20世紀の日本のファッション史 牛田
- 第 4 回 制服と日本文化 牛田
- 第 5 回 コスプレと日本文化 牛田
- 第 6 回 食からみた生活文化論 藤原
- 第 7 回 米の歴史 藤原
- 第 8 回 米の栄養と調理性 藤原
- 第 9 回 飯と食文化 藤原
- 第 10 回 酒と食文化 藤原
- 第 11 回 住からみた生活文化論 中村
- 第 12 回 風土性から読み解く空間論、建築論 中村

- 第 13 回 歴史性から読み解く空間論、建築論 中村
 - 第 14 回 日本の風土と生活様式、住様式 中村
 - 第 15 回 文化的視点からみた生活様式、住様式 中村
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・ゼミ形式で、資料をもとに課題を設定し議論をする。(牛田)

・主に講義形式を取るが、授業の中で予め提示した課題についてはゼミ方式で行う。(藤原)

・ゼミ形式でテーマにそって資料を読み解きながら議論をする。(中村)

なお、各担当教員からの課題レポートについては評価後、担当者より講評を通知する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前配布の資料や文献指定ページなどには必ず目を通すこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

・授業参加度 (50%)、レポート(50%)に基づいて総合的に行う。(牛田)

・授業参加度(40%)、レポート(60%)に基づいて総合的に行う(藤原)

・議論への参加の様子(50%)、レポート(50%)に基づいて総合的に行う(中村)

・担当教員3名の評価の平均によって決定する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

適宜、授業で資料等、配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 I

260155A0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

ー

必修

青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができ

るか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅰ

260155B0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

—

必修

石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追求する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導

教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあつては最終学年まで）にあつては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅰ

260155D0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

必修

牛田 好美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探索し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。

(1) 研究の社会的意義の明確化

(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方

(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方

(4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあつては最終学年まで）にあつては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究 I

260155E0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

ー

必修

加藤 佐千子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究 I ~ IVとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究 I

260155G0J
大学院
人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻
2単位 前期集中
その他
一
必修
佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究 I ~ IV として継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社

会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究 I

260155H0J
大学院
人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻
2単位 前期集中
その他
一
必修
竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅰ

26015510J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

—

必修

中村 久美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社

会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究 I

260155J0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

必修

萩原 暢子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究 I ~ IV として継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究 I

260155K0J
大学院
人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻
2単位 前期集中
その他
一
必修
畠山 寛

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究 I ~ IV として継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社

会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究 I

260155L0J
大学院
人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻
2単位 前期集中
その他
一
必修
藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次(長期履修生にあっては最終学年まで)にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

◀実践的科目▶

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅰ

260155M0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

必修

三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質(Quality of Life、QOL)の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	特別研究がイメージできない	特別研究がイメージできる	特別研究をさらに探求しイメージを現実化できる	L3に加えて特別研究の結果を発表できる
知識・理解力	特別研究の意味を理解できない	特別研究の意味を理解できる	特別研究でさらに知識を高め、理解を深めて積極性を増すことができる	L3に加えて特別研究に関する知識の理解度を高め発展させることができる

言語力	特別研究における使用言語や専門用語が理解できない	特別研究における使用言語や専門用語が理解できる	現状にあてはめてさらなる探求を行うことができる	L3に加えて特別研究の関連領域で使用される言語も含めて知識の探求ができる
思考・解決力	教授されたこと以外は考えようと思わない	現状把握を行い、状況にあてはめた思考ができる	特別研究の周辺領域の使用言語を理解することができる	L3に加えて特別研究の専門用語を駆使して発表できる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見に耳を傾けて聴いて理解する	思考した結果を周囲の人たちに伝え共有できる	L3に加えて得られた結果を他者と協働しさらなる考察を加えることができる
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	周囲の状況を勘案して自分の考えを発信できる	特別研究の進展に必要な創造力を発揮して展開できる	L3に加えて研究内容の精度を高め関係者に公表、発信できる

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅰ

260155N0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

必修

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅰ

26015500J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

—

必修

安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社

会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究 I

260155F0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

必修

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解する。

(1) 研究の社会的意義の明確化

(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方

(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方

(4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究 I ~ IV として継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅱ

260156A0J
大学院
人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻
2単位 後期集中
その他
—
必修
青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社

会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅱ

260156B0J
大学院
人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻
2単位 後期集中
その他
—
必修
石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅱ

260156D0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期集中

その他

—

必修

牛田 好美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社

会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究 II

260156E0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

加藤 佐千子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究 I ~ IVとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究 II

260156G0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究 I ~ IVとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅱ

260156H0J
大学院
人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻
2単位 後期集中
その他
—
必修
竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社

会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅱ

260156I0J
大学院
人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻
2単位 後期集中
その他
—
必修
中村 久美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅱ

260156J0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

萩原 暢子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社

会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究 II

260156K0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期集中

その他

ー

必修

畠山 寛

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究 I ~ IV として継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅱ

260156LOJ
大学院
人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻
2単位 後期集中
その他
—
必修
藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社

会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅱ

260156MOJ
大学院
人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻
2単位 後期集中
その他
—
必修
三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	特別研究がイメージできない	特別研究がイメージできる	特別研究をさらに探求しイメージを現実化できる	L3に加えて特別研究の結果を発表できる
知識・理解力	特別研究の意味を理解できない	特別研究の意味を理解できる	特別研究でさらに知識を高め、理解を深めて積極性を増すことができる	L3に加えて特別研究に関する知識の理解度を高め発展させることができる
言語力	特別研究における使用言語や専門用語が理解できない	特別研究における使用言語や専門用語が理解できる	現状にあてはめてさらなる探求を行うことができる	L3に加えて特別研究の関連領域で使用される言語も含めて知識の探求ができる
思考・解決力	教授されたこと以外は考えようとしない	現状把握を行い、状況にあてはめた思考ができる	特別研究の周辺領域の使用言語を理解することができる	L3に加えて特別研究の専門用語を駆使して発表できる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見に耳を傾けて聴いて理解する	思考した結果を周囲の人たちに伝え共有できる	L3に加えて得られた結果を他者と協働しさらなる考察を加えることができる
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	周囲の状況を勘案して自分の考えを発信できる	特別研究の進展に必要な創造力を発揮して展開できる	L3に加えて研究内容の精度を高め関係者に公表、発信できる

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあつては最終学年まで）にあつては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅱ

260156N0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL)

の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができると、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次(長期履修生にあっては最終学年まで)にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅱ

26015600J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質(Quality of Life、QOL)の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができると、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と

関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究 II

260156F0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

酒井 久美子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができると、そのような身近な諸問題を検討することがこれから

の人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深める。

(1) 研究の社会的意義の明確化

(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方

(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方

(4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

本科目は特別研究 I ～ IV として継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅲ

260157A0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

必修

青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導

教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅲ

260157B0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

必修

石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな

質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅲ

260157DOJ

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

必修

牛田 好美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導

教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅲ

260157E0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

必修

加藤 佐千子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな

質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探究し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅲ

260157G0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

必修

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす

(1) 研究の社会的意義の明確化

(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方

(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方

(4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次(長期履修生にあっては最終学年まで)にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅲ

260157H0J
大学院
人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻
2単位 前期集中
その他
—
必修
竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社

会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅲ

260157I0J
大学院
人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻
2単位 前期集中
その他
—
必修
中村 久美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次(長期履修生にあっては最終学年まで)にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅲ

260157J0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

—

必修

萩原 暢子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質(Quality of Life、QOL)の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次(長期履修生にあっては最終学年まで)にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社

会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅲ

260157K0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

必修

畠山 寛

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅲ

260157L0J
大学院
人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻
2単位 前期集中
その他
—
必修
藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社

会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅲ

260157M0J
大学院
人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻
2単位 前期集中
その他
—
必修
三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	特別研究がイメージできない	特別研究がイメージできる	特別研究をさらに探求しイメージを現実化できる	L3に加えて特別研究の結果を発表できる
知識・理解力	特別研究の意味を理解できない	特別研究の意味を理解できる	特別研究でさらに知識を高め、理解を深めて積極性を増すことができる	L3に加えて特別研究に関する知識の理解度を高め発展させることができる
言語力	特別研究における使用言語や専門用語が理解できない	特別研究における使用言語や専門用語が理解できる	現状にあてはめてさらなる探求を行うことができる	L3に加えて特別研究の関連領域で使用される言語も含めて知識の探求ができる
思考・解決力	教授されたこと以外は考えようとしない	現状把握を行い、状況にあてはめた思考ができる	特別研究の周辺領域の使用言語を理解することができる	L3に加えて特別研究の専門用語を駆使して発表できる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見に耳を傾けて聴いて理解する	思考した結果を周囲の人たちに伝え共有できる	L3に加えて得られた結果を他者と協働しさらなる考察を加えることができる
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	周囲の状況を勘案して自分の考えを発信できる	特別研究の進展に必要な創造力を発揮して展開できる	L3に加えて研究内容の精度を高め関係者に公表、発信できる

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅲ

260157N0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

—

必修

矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life, QOL)

の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次(長期履修生にあっては最終学年まで)にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅲ

26015700J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

—

必修

安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質(Quality of Life、QOL)の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅲ

260157F0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

必修

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL)

の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることが出来るか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点を理解したうえで自己の研究に活かす

(1) 研究の社会的意義の明確化

(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方

(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方

(4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究のレビュー等をすすめること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅳ

260158A0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレビューを行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅳ

260158B0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

石井 浩子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL)

の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次(長期履修生にあっては最終学年まで)にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレビューを行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅳ

260158DOJ

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻
2単位 後期集中

その他

—

必修

牛田 好美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質(Quality of Life、QOL)の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレビューを行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅳ

260158E0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

加藤 佐千子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL)

の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることが出来るか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレビューを行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究IV

260158G0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

佐藤 純

〔科目の教育目標（Course Description）〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができると、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合

的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。

(1) 研究の社会的意義の明確化

(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方

(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方

(4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレビューを行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として

企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅳ

260158H0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

竹原 広実

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレビューを行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅳ

260158I0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

中村 久美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合

的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレビューを行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として

企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅳ

260158J0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期集中

その他

—

必修

萩原 暢子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることが出来るか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレビューを行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究IV

260158K0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

島山 寛

〔科目の教育目標（Course Description）〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質（Quality of Life、QOL）の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができると、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合

的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。

(1) 研究の社会的意義の明確化

(2) 先行研究との関連及び独創性のあり方

(3) 研究目的に応じた研究方法のあり方

(4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次（長期履修生にあっては最終学年まで）にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条（教育方法の特例）の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレビューを行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として

企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅳ

260158L0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻
2単位 後期集中

その他

一

必修

藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレビューを行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅳ

260158M0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻
2単位 後期集中

その他

一

必修

三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合

的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	特別研究がイメージできない	特別研究がイメージできる	特別研究をさらに探求しイメージを現実化できる	L3に加えて特別研究の結果を発表できる
知識・理解力	特別研究の意味を理解できない	特別研究の意味を理解できる	特別研究でさらに知識を高め、理解を深めて積極性を増すことができる	L3に加えて特別研究に関する知識の理解度を高め発展させることができる
言語力	特別研究における使用言語や専門用語が理解できない	特別研究における使用言語や専門用語が理解できる	現状にあてはめてさらなる探求を行うことができる	L3に加えて特別研究の関連領域で使用される言語も含めて知識の探求ができる
思考・解決力	教授されたこと以外は考えようとしない	現状把握を行い、状況にあてはめた思考ができる	特別研究の周辺領域の使用言語を理解することができる	L3に加えて特別研究の専門用語を駆使して発表できる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見に耳を傾けて聴いて理解する	思考した結果を周囲の人たちに伝え共有できる	L3に加えて得られた結果を他者と協働しさらなる考察を加えることができる
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	周囲の状況を勘案して自分の考えを発信できる	特別研究の進展に必要な創造力を発揮して展開できる	L3に加えて研究内容の精度を高め関係者に公表、発信できる

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究 I ~IVとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次(長期履修生にあっては最終学年まで)にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレビューを行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅳ

260158NOJ
大学院
人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻
2単位 後期集中
その他
—
必修
矢島 雅子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次 (長期履修生にあっては最終学年まで) にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条 (教育方法の特例) の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社

会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレビューを行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅳ

260158O0J
大学院
人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻
2単位 後期集中
その他
—
必修
安川 涼子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質 (Quality of Life、QOL) の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次(長期履修生にあっては最終学年まで)にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレビューを行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

特別研究Ⅳ

260158F0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期集中

その他

—

必修

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生活福祉文化という分野における教育および研究とは、日々進歩する技術や変化に対応し、生活基盤となる地域における暮らしの中で人間の生活の質(Quality of Life、QOL)の向上を追究する学問である。すなわち、暮らしを文化的な視点で捉え、どのように快適に生活をデザインするか、よりよい安定した福祉的に充実した環境を得ることができるか、そのような身近な諸問題を検討することがこれからの人間生活には必要である。

そこで、生活福祉文化専攻においては、健康でゆたかな質の高い暮らしと自己実現のための理念と方策・技術を研究・修得したことを踏まえ、修士論文の作成を通じて、専門的かつ個別的なテーマを探求し、文化的な視点を背景に、生活と福祉の知識、技能、技術などの素養を総合的、複合的に駆使できる高度な課題解決能力を向上することを目的としている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文作成に向けて、以下の観点について理解を深め自己の研究に応用する。

- (1) 研究の社会的意義の明確化
- (2) 先行研究との関連及び独創性のあり方
- (3) 研究目的に応じた研究方法のあり方
- (4) 研究における倫理的配慮

〔授業計画〕

授業の進行について、また、授業の指導方法については院生個々の研究内容に沿いながら指導教員によって指示がなされる。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目は特別研究Ⅰ～Ⅳとして継続的に修士論文作成に向けてなされる研究指導の中に位置づけられるものである。

研究テーマ、研究方法などについては、「研究方法論」と関連づけながら個別に指導教員より指導を受ける。

指導過程としては1年次前半に研究構想にもとづき主指導教員が決められ、さらに1年次後半で研究テーマ、研究計画を決定し、修士論文に向けての綿密な指導がなされる。

2年次(長期履修生にあっては最終学年まで)にあっては、研究結果の分析、結果を踏まえた考察を明らかにすることを中心として指導がなされる。

研究指導は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)の規定により、昼間部の院生には昼間の時間帯を、また社

会人の院生に対しては夜間、土曜日、あるいはインターネットを活用するなど柔軟に対応して個人指導をおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究への主体的な取り組み姿勢が不可欠である。積極的に既往研究等のレビューを行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究の社会的意義の明確化、先行研究の探索、研究目的に応じた研究方法の検討といった点を中心に修士論文作成に向けた取組状況を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉士として高齢者福祉施設、自治体や社会福祉協議会での業務経験、精神保健福祉士として行政にて勤務経験、医師として病院等での診療経験、幼稚園教員・保育士として、こども園や保育園での実務経験、工学系開発者として企業での業務経験、企業での営業企画に向けての業務経験、これらを有する複数の教員が特別研究を担当できる。

健康生活科学特論

260013N0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期

火曜 3限

萩原 暢子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代生活に潜む様々な健康関連の問題を取り上げ、専門的な講義や、DVDからの問題点の抽出とディスカッション、レポート発表などで、生活に密着した『健康』への認識を深める。

長寿社会での寝たきり防止のために、骨の健康について詳述する。また、「食」が健康の中心的位置を占めており、健康食品に潜む危険性についても述べる。最近話題になっている人獣共通感染症や、ヒトが日常的に受ける環境ホルモン、電磁波、放射線などの外的要因を取り上げ、人体への影響について言及する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 健康の概念
- 2) 骨と健康
- 3) 食と健康
- 4) 人獣共通感染症
- 5) 環境と健康
- 6) 女性と健康

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	身辺の健康関連の事象に興味がない	身辺の健康関連の事象に興味がある	身辺の健康関連の事象をより深く学ぼうとする	レベル3に加えて学んだ事柄を周囲に発表できる。
知識・理解力	身辺の健康関連の事象を理解できない	身辺の健康関連の事象を理解できる	身辺の健康関連の事象をより深く理解できる	レベル3に加えて理解した内容を広く周囲に発表できる
言語力	身辺の健康関連の事象に使用する言語が理解できない	身辺の健康関連の事象に使用する言語が理解できる	身辺の健康関連の事象に使用する言語をより深く理解できる	レベル3に加えて周辺で必要となる言語も含めて幅広く使用できる
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	現実の状況に当てはめて考えようとする	現実で起こりうる健康問題を解決できる	現実から発展させて起こりうる健康問題を解決できる
共生・協働する力	他者の意見を参考にしない	他者の意見をしっかりと聞いて考える	考えた結果を周囲の人たちと共有する	レベル3に加えて自分の考えを深めようとする
創造・発信力	自分勝手な考えを発信する	自ら周囲の状況を踏まえて自分の考えを発信できる	健康関連の問題を自分で考えそれを発信できる	情報モラルを加味しながら健康関連の問題を自分で考えそれを発信できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 (オリエンテーション、「健康の概念」、「ソーシャルキャピタルについて」)
オリエンテーションを行う。「健康の概念」、「ソーシャルキャピタル」を取り上げて詳述する。現在の医療体制全般に対する問題点を抽出する。
- 第 2 回 (前回の問題点発表とディスカッション、骨と健康 I)
前回の医療体制全般に対する問題点を発表し、ディスカッションする。また、レポートを提出する。骨について基本的な知識を詳述する。
- 第 3 回 (骨と健康 II)
骨の測定法、カルシウムの話、骨粗鬆症の話、骨粗鬆症予防の栄養面について詳述する。
- 第 4 回 (骨と健康 III、高齢者と骨折、女性と骨粗鬆症 I)
骨粗鬆症予防の運動面、生活環境面について述べる。

- 高齢者の骨折と、女性の骨粗鬆症について詳述する。
- 第 5 回 (骨と健康 IV、女性と骨粗鬆症 2、骨粗鬆症の治療と最近のトピックス)
女性の骨粗鬆症について詳述する。骨粗鬆症の治療と最近のトピックスについて詳述する。
- 第 6 回 (食と健康 I)
健康食品について詳述する。また、保健機能食品制度について述べる。
- 第 7 回 (食と健康 II)
骨粗鬆症と機能性食品との関係について述べる。アンチエイジングと食について詳述する。
- 第 8 回 (食と健康 III)
「やさしい栄養学」のDVDを見て食の問題点を抽出し、これについてレポートを作成する。
- 第 9 回 (食と健康 IV、人獣共通感染症 I)
食の問題点を発表し、これについてディスカッションする。発表後レポートを提出する。人獣共通感染症について総論を述べ、エキノコックス、インフルエンザについて詳述する。
- 第 10 回 (人獣共通感染症 II)
狂牛病、クロイツフェルト・ヤコブ病、クールーについて詳述する。
生物テロでの感染症について述べる。
- 第 11 回 (内分泌攪乱化学物質 I)
内分泌攪乱化学物質の総論を述べる。
合成女性ホルモン、プラスチックの原料や添加物について詳述する。
- 第 12 回 (内分泌攪乱化学物質 II)
界面活性剤の原料と分解生成物、残留有機塩素化合物、船底塗料の活性成分、植物エストロゲンについて詳述する。
- 第 13 回 (内分泌攪乱化学物質 III、放射線と健康)
ダイオキシンの話、「ベトナム戦争 枯葉剤被害 “いまだ癒されない傷あと”」のDVDを鑑賞する。
放射線と健康について詳述する。
- 第 14 回 (課題発表のための準備)
課題発表のために資料作成などをおこない、最終レポートを作成する。
- 第 15 回 (課題発表会)
各自が興味のあるテーマを選択し、PCなどを用いて発表する。
それぞれの発表内容について質問し、テーマについてのフィードバックを行う。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は講義形式であるが、問題提起をし意見を求めディスカッションを行う。必要に応じてパワーポイント、DVD、ビデオなど適宜使用して学習効果を高める。
それぞれの発表内容について質問し、解答の根拠など、学生に考えさせることで、テーマについてのフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業テーマに関連するテキストや記事を調べて、予備知識を得ておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、提出物・課題のレポート点 (70%)

〔留意事項 (Other Information)〕

・日常生活の中で環境からの健康被害などへの問題意識を持つ。

・授業でのディスカッションには、積極的に参加すること。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 医師として病院等での診療経験あり。

食生活文化特論

260031N0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期

月曜 3限

藤原 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

人類は何を食べてきたか、食事にどのような意義を見いだしてきたかを知り、世界の食文化との相対的比較の中で日本人の伝統的な食文化である「和食」の特徴を合理的に説明することができる。また、和食文化、とくに京都の食文化が様々な場面で果たしてきた役割を歴史的視点、社会学的視点および科学的視点から論じることができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 世界各地の食文化を風土や地理、社会や宗教的な背景から考察する。
2. 日本の伝統的な食文化である和食の成り立ちを歴史的に捉え、和食の特徴を日本の風俗・風習とともに理解する。
3. 京都の食文化を科学的観点から見つめ、日本の食文化に与えた影響について社会学的視点で説明することができる。
4. 人々の日々の営みの中で食文化は流動的であることを理解し、それゆえに発現する種々の事象に対して俯瞰的に観察する姿勢を培う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
思考力・考察力・探求姿勢	日本や世界の食文化に対して、その歴史的背	日本や世界の食文化を尊重し、その歴史的背	レベル2に加えて、積極的にそれぞれの国や	レベル3に加えて、自ら知見を収集し、食文

	景や合理性について理解ができず、尊重もできない。	景や合理性について理解できる。	地域の食文化を紐解き、世界と日本の食文化の相互関係を整理して説明できる。	化に関する新しい考察を導きだすことができる。
--	--------------------------	-----------------	--------------------------------------	------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 世界の食文化（風土・地理と食生活）
- 第 2 回 世界の食文化（社会・宗教と食生活）
- 第 3 回 日本の食文化（日本の歴史と和食の成り立ち）
- 第 4 回 日本の風土と食の思想
- 第 5 回 年中行事と食
- 第 6 回 儀式・祭礼と食
- 第 7 回 和食のしつらえ（食具）
- 第 8 回 和食のしつらえ（空間）
- 第 9 回 和食のマナー
- 第 10 回 日本各地の郷土食
- 第 11 回 京都の食文化（風土・歴史・文化）
- 第 12 回 京都の食素材
- 第 13 回 京菓子の世界観
- 第 14 回 茶の湯と食文化
- 第 15 回 世界の食と和食

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

主に講義形式を取るが、授業の中で予め提示した課題についてはゼミ形式で行い、各テーマごとにレポートを課す。さらにレポートをもとにした質疑応答によって理解度を確認する。

参考文献や資料は授業の中で提示、あるいは配付する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

各授業の終わりに次回までに調べてくる課題を与える。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度（30%）、レポート（70%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・対面で実施する。
 - ・授業内で適宜資料を配付し、参考図書を紹介する。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
- 〔参考URL(URL for Reference) 〕
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕

高齢者食生活特論

260032N0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期

火曜 6限

加藤 佐千子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

現代の日本では、高齢化が急速に進んでいる。いかに、健康寿命を保ち、高齢期を充実させるかが国民全体の課題である。そのような中で、高齢者の心身の健康に及ぼす食の影響は大変大きいといえる。そこで、本講義では、高齢期の食生活の在り方が心身に及ぼす影響や生活機能およびQOLとの関連について理解を深めることを目的とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・高齢者を正しく理解する。
- ・高齢者の食生活に関する先行研究を読み、研究のまとめと発表ができる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	高齢者の食生活に関する知識を理解しようとしていない	高齢者の食生活の知識に関心があり、文献をもとに理解している	文献をもとに知識を身につけ、周辺論文も整理できている	欧文論文をもとに知識をつけ、理解を深めている
言語力	与えられた課題をまとめられず、発表もできない	与えられた課題をプレゼンテーションすることができる	課題をさらに発展させて記述し、発表でき、意見も述べることができる。	高齢者の食生活の課題解決に向けて様々な観点から意見を述べられる
思考・解決力	高齢者の食生活について関心がない	高齢者の食に関する問題について考え、解決策を見つけれ	高齢者の食に影響を及ぼす要因を整理し、調	整理された影響要因をもとに、自身の研究課題に取り組

		ようとして いる	査計画が立 てられる	み、解決で きる
--	--	-------------	---------------	-------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 年をとると何がかわるのか。老化モデルについて
- 第 2 回 日本型「生きがい」とは何か
- 第 3 回 元気な高齢者は増加しているのか 高齢者の食パタン、栄養
- 第 4 回 食事と老化や長寿は関係しているのか
- 第 5 回 体の変化と生活習慣
- 第 6 回 食と栄養の生活の質への関連（生活機能）
- 第 7 回 食と栄養の生活の質への関連（精神機能）
- 第 8 回 食と栄養の生活の質への関連（共食・外食）
- 第 9 回 栄養摂取（エネルギー、タンパク質、脂肪、ビタミン、無機質）
食生活指針、食事バランスガイド
- 第 10 回 発表と討論（身体的要因と食事との関連研究）
- 第 11 回 発表と討論（精神的要因と食事との関連研究）
- 第 12 回 発表と討論（社会的要因と食事との関連研究）
- 第 13 回 高齢者の食物選択動機について
- 第 14 回 野菜の選択と関連する要因
- 第 15 回 総合討論

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・各講義にレポーターを指名する。
- ・テキストを分担で講読し、発表、議論する。また、収集した関連資料をもとに発表や討論により進める。
- ・提出レポートはコメント、評価をつけて個々に返却するので、それをもとにさらに学習を深める。
- ・発表については他の学習者や教員からコメントを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

指定テキストおよび文献をよく読みまとめてくること。プレゼンテーションできるようにまとめておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価基準...テキストおよび関連資料をもとに理解を深め、発表できたか。

議論に積極的に参加できたか。

評価方法...レポーターとしての発表50%、レポート40%、議論への参加度10%。

〔留意事項（Other Information）〕

受講者の状況に合わせて、発表日を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『超高齢社会を生きる-老いに寄り添う心理学』/日本心理学会監修/誠心書房/2017/9.784414311181E12/

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『8割以上の老人は自立している』/柴田博/ビジネス社/2002/4.828409645E9

『食と味覚の人間科学1. 食行動の科学』/斉藤幸子・今田純雄監修/朝倉書店/2017/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

生活デザイン論特論

260036N0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期

木曜 4限

中村 久美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

衣食住の諸相や経営、その根底を支える生活思想や精神性、さらには家族や社会との関係性、それらの総体として生活デザインを考える。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

風土や歴史を背景とした住様式の視点から、ヒト、モノ、空間の相互関係を検証することにより、人間生活の基盤となる住生活のあり方、生活デザインの再構築を検討していく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 地球環境問題と生活デザインー生活の枠組としての地球環境問題
- 第 2 回 " ー自然との応答性ある住まいと住み方
- 第 3 回 " ー住まいの寿命と生活管理
- 第 4 回 " ーモノの保有と管理
- 第 5 回 家族のあり方と生活デザインー近代家族の成立と家庭生活

第 6 回	〃	— 家族関係と住生活の問題
第 7 回	〃	— ライフサイクルの変化と住まい
第 8 回	〃	— 世帯の変化と新しい居住のあり方
第 9 回	社会、地域と生活デザイン	— 住環境と地域・生活
第 10 回	〃	— 地域生活とコミュニティ
第 11 回	〃	— 集合住宅の住生活
第 12 回	〃	— 住民参加とまちづくり
第 13 回	福祉文化と生活デザイン	— 居住福祉の考え方
第 14 回	〃	— 地域で描く居住福祉デザイン
第 15 回	〃	— 現代の「生活デザイン」

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義とゼミ形式を適宜組み合わせる授業を行う。

課題レポートは最終回までに締め切り、最終回でその講評と課題の解説を行う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前配布の論文、資料を読み込んでくること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加状況 (20%) と課題レポート (80%) で評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

毎回授業で資料等、配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

社会福祉運営管理特論

260054N0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期

火曜7限

三好 明夫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会福祉運営管理はソーシャル・アドミニストレーションと呼ばれる。社会福祉を合理的かつ効率的に運営、管理するために行われる方法で、サービス提供を行う組織を単位として、運営管理を推し進める援助活動技術である。領域

は社会福祉活動領域全般に及ぶが、社会福祉法人と特定非営利活動法人の実践活動を中心に関連援助技術の理解とともに考えていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

①社会福祉組織の運営を考察する基本視点を明確にする。

②社会福祉組織の特性を理解する。③専門職員の労働意欲の向上について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	社会福祉運営管理を意識できない	社会福祉現場の運営と管理について考える	福祉現場での運営と管理とはどのようなものかと考える	福祉現場の将来を考えるうえでの運営管理を考える
知識・理解力	運営と管理の区別理解ができない	福祉現場での運営と管理の仕組みについて理解できる	運営と管理について理解し、経営戦略などについても考えられる	運営管理を理解したうえで今日の福祉現場に必要な経営実践の問題提起ができる
言語力	運営管理における専門用語の理解を行えない	運営管理を展開するうえでの専門用語を理解する	簡単な運営管理と経営について説明できる	複雑な運営管理と経営について決算などが理解できる
思考・解決力	教えられたこと以上は理解しようとしめない	運営管理は民間企業でも必須であることを理解する	社会福祉法人と民間企業が経営する運営管理の違いを説明できる	社会福祉法人と民間企業が経営する運営管理の長所、短所を説明できる
共生・協働する力	他者の意見を参考にせず各種文献も参考にしない	各種文献をもとに運営管理について考えようとする	考えた結果を周囲と共有し、自身も考えを深めていく	レベル3に加えて、運営管理の実践方法を管理者の立場で考える
創造・発信力	自分で勝手に想像した発信を行う	周囲の状況も勘案し自らの考えをふりかえる	近年の福祉現場の運営管理の状況から経営戦略を考える	レベル3に加えて、対人援助技術として成立する要件を整理できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 社会福祉の運営管理1
社会福祉運営管理とは何か
- 第 2 回 社会福祉の運営管理2
社会福祉組織の理解
- 第 3 回 社会福祉の運営管理3
社会福祉組織の特性

- 第 4 回 社会福祉の運営管理4
社会福祉組織の専門職
- 第 5 回 社会福祉の運営管理5
社会福祉組織の労働特性
- 第 6 回 社会福祉の運営管理6
社会福祉組織の課題と展望
- 第 7 回 社会福祉の運営管理7
労務管理論、人事管理
- 第 8 回 社会福祉の運営管理8
労務管理論、会計経理
- 第 9 回 社会福祉の運営管理9
労務管理論、労務関係法規
- 第 10 回 社会福祉の運営管理10
ソーシャルワーク・スーパービジョン① 意味
- 第 11 回 社会福祉の運営管理11
ソーシャルワーク・スーパービジョン② 役割
- 第 12 回 社会福祉の運営管理12
ソーシャルワーク・スーパービジョン③ 方法
- 第 13 回 社会福祉の運営管理13
コンサルテーション① 意味
- 第 14 回 社会福祉の運営管理14
コンサルテーション② 方法
- 第 15 回 社会福祉運営管理の総括
まとめ 課題と展望

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

社会福祉運営管理の概念整理を行い、社会福祉機関の現場で出現している課題について議論していく。その後、組織運営の立場で考えながら職員の労働意欲向上について議論していきたい。

課題発表、レポート作成については受講生に十分な説明を行い、レポートの内容についてはフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

受講希望者は各種社会福祉施設の管理および運営の実際について学んでいくので予備学習として関連する新聞記事や近隣の福祉施設に見学に出かけるなどしておくといよい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

出席および参加度 50%、課題発表およびレポート提出 50%で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

テキストとして必要な書類等は印刷して配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要な文献は適宜紹介していく

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

NPOの代表として福祉事業の運営管理実務の経験。

地域生活支援特論

260061N0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 後期

木曜 2限

酒井 久美子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

社会福祉法の改正により、「地域共生社会の実現」が求められる、改めて地域における助け合いの活動が重視されている。地域における多様な課題解決に向けて、住民同士の助け合い、社会福祉協議会、NPO法人、ボランティア団体等民間組織・団体の活動、公私協働、ソーシャルサポートネットワークの重要性が唱えられ、地域福祉を推進することがこれまで以上に問われている。

そこで本科目では、地域福祉の本来の意義と目的を改めて問い直し、近年の社会福祉政策における地域福祉の位置づけ、地域福祉の実践活動について検討し、誰もが安全に安心して暮らせる地域づくりについて何が必要なのか議論する。

以上を通して、地域福祉の本質の理解と、地域生活を支援する専門職に求められる専門的視点の修得を目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 地域福祉の理念、理論、歴史的変遷について理解する。
2. 地域福祉の概要、意義を理解する。
3. 地域活動、地域支援の現状を知り、今後さらに求められる地域活動、地域支援について議論する。
4. 地域活動を発展させるために必要な専門的支援について検討する。
5. 現代社会における公私協働のあり方について検討する。
6. 授業最終日に、フィードバックをおこなう。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	地域福祉を推進するために専門的な視点を持っていない。	地域福祉を推進するために専門的な視点を意識しようとする。	地域福祉を推進するために専門的な視点を持ち、自分にできることを考えることができる。	地域福祉を推進するために専門的な視点を意識して、具体的な取り組みをしようとする。
思考・解決力	地域福祉を推進するため、研究者としての思考を持つことができない。	地域福祉を推進するため、研究者としての思考を持つことができる。	地域福祉を推進するため、研究者としての思考を持ち、地域の課題解決に必要な	地域福祉を推進するため、研究者としての思考があり、解決に向けて取り組む

			なことを考 えることが できる。	ことができ る。
--	--	--	------------------------	-------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 地域福祉とは何か・何故「地域福祉」が必要か
- 第 3 回 地域福祉の理念
- 第 4 回 地域福祉の理論
- 第 5 回 諸外国における地域福祉の歴史の変遷 1－イギリス－
- 第 6 回 諸外国における地域福祉の歴史の変遷 2－アメリカ及びその他の国々－
- 第 7 回 日本における地域福祉の歴史の変遷 1－戦前～1960年代－
- 第 8 回 日本における地域福祉の歴史の変遷 2－1970年代～現在－
- 第 9 回 地域における多様な生活、福祉課題について
- 第 10 回 地域支援の現状と課題について
- 第 11 回 社会福祉協議会の事業内容について
- 第 12 回 社会福祉協議会の現状と課題について
- 第 13 回 日常生活自立支援事業の特徴と実態
- 第 14 回 安全、安心の地域づくりについて
- 第 15 回 総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 地域福祉に関する基礎的な理論、各種法制度の変遷等の基本事項について、資料や文献講読によって理解する。
2. 授業計画のテーマに応じて、発表とディスカッションをおこなう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

地域に暮らす多様な人々がどのような生活問題、福祉課題を抱えて暮らしているのか、また、その解決に向けてどのような取り組みがあるのかなどについて、情報収集しておくこと。

児童、高齢、障がい、生活困窮者等さまざまな福祉領域に関する著書、論文を読み、専門的知識について理解しておくこと。

地域福祉推進の中核組織である社会福祉協議会について理解しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業での報告内容、ディスカッションへの貢献度、最後に課すレポート課題で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画 (活動計画) 策定委員等の経験あり

精神保健福祉特論

260063NOJ

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期

月曜 6限

佐藤 純

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神の「障害」は、病状等に伴い変動しやすく、しかも支援サービスの不足や周囲の誤解や偏見により、地域であたりまえの生活を送ることを困難にさせる。そしてその支援には、様々な分野の専門職と協働するチームアプローチが必要となる。

この科目では、精神に「障害」のある人たちやその家族への支援技術やその技術の基盤となる理念や価値、そしてその技術について考えていく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

精神に「障害」のある人への生活支援のあり方を理解し、実践する力をつける

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・精神保健福祉とは
- 第 2 回 精神「障害」論 精神疾患とは
- 第 3 回 精神「障害」論 疾患と障害
- 第 4 回 精神「障害」論 リハビリテーション
- 第 5 回 精神保健福祉面接技術 面接とは何か
- 第 6 回 精神保健福祉面接技術 解決志向アプローチ工夫と例外
- 第 7 回 精神保健福祉面接技術 解決志向アプローチ スケーリングクエスト
- 第 8 回 精神保健福祉面接技術 解決志向アプローチ 目標の共有
- 第 9 回 精神障害者家族の理解と対応 これまでの家族支援
- 第 10 回 精神障害者家族の理解と対応 家族をどうとらえるか
- 第 11 回 精神障害者家族の理解と対応 何をすることが家族の支援になるのか
- 第 12 回 精神障害者家族の理解と対応 家族の人生を支援する
- 第 13 回 我が国の精神保健医療福祉の課題 未治療・医療中断へのアプローチ

第 14 回 我が国の精神保健医療福祉の課題 重い精神障害のある人への支援

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義及び演習。授業中口頭で適宜フィードバックをする。レポートは採点し、返却して、適宜指導する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に前の授業で示された文献・書籍等を読み、自分なりの考えをまとめておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度50点、最終レポート50点

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 精神保健福祉士として行政での勤務経験あり。

子どもの発達心理学特論

260134N0J

大学院

人間文化研究科 > 生活福祉文化専攻

2単位 前期

火曜 5限

畠山 寛

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

発達に関する基礎的理解をもとに、身体機能、精神機能の諸領域の発達の過程について理解する。さらに、発達に関する諸問題や発達支援の在り方など、文献や資料をもとに理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 発達心理学の基礎的理解について理解する
2. 定型発達の過程について理解する。
3. 発達に関する諸問題について理解する。
4. 発達支援の在り方について理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

発達心理学の基礎的理解	発達心理学における基礎的理論や定型発達について理解できていない	発達心理学における基礎的理論や定型発達について最低限理解できている	発達心理学における基礎的理論や定型発達について理解できている	発達心理学における基礎的理論や定型発達について理解でき、それをもとに発達の諸問題について考えることができる
発達に関する諸問題と支援についての理解	発達に関する諸問題について理解できていない	発達に関する諸問題について最低限理解し、支援について考えようとする	発達に関する諸問題について理解するとともに、支援の在り方について考えることができる	発達に関する諸問題について理解するとともに、適切な支援の在り方について考えることができる

〔授業計画〕

第 1 回 こどもの発達心理学特論とは？：発達心理学について

第 2 回 発達に関する基礎的理解

第 3 回 身体・運動発達

第 4 回 認知の発達

第 5 回 言葉の発達

第 6 回 愛着の発達

第 7 回 自己の発達

第 8 回 社会性の発達

第 9 回 道徳性の発達

第 10 回 青年期の発達

第 11 回 最近の研究の紹介①：認知系の研究

第 12 回 最近の研究の紹介②：社会性に関する研究

第 13 回 最近の研究の紹介③：

第 14 回 発達支援について①

第 15 回 発達支援について②

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

発達心理学の基礎的理論、発達の過程、発達に関する諸問題、発達支援の在り方について、資料や文献購読を行いながら理解する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各授業の終わりにおいて、「次週に向けての課題」を告知する。その課題を行うことで、準備学習とする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

レポート70%、及び、各授業で求める課題等30%として評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

- ・特になし
- ・適宜, プリントを配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

- ・授業内で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アラブ・イスラーム文化史演習

280118NOJ

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

水曜3限

ー

60

選択必修

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

今年度はイスラームの聖典コーランについての理解を深めることを目標とする。コーランは神が西暦7世紀にアラビア語で人類に下した啓示をそのまま書きとめたものであると信じられている。また、現在私たちの手元にあるコーランは、預言者ムハンマドが受けた啓示が人々によって記憶され、後に第3代カリフ、ウスマーンのときに集録されたものである。関連文献資料を参考にしながら、コーランの幾章かを日本語訳で読み解いていく。それらによって、ムスリムの生活と思考の根幹となっているコーラン的規範を探求する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 歴史的背景
2. コーランの構成
3. コーランの内容

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力	目的や問題設定があいまいで、解決法を検討することができない	目的や問題設定が十分でなく、解決法を自ら見出すことができない	目的や問題設定が十分でき、なんらかの解決法を見出すことができる	実現可能な目的や問題設定ができ、適切な解決法を見出すことができる

共生・協働する力				
創造・発信力	新しい物事や見方に関心を持ち、自分の意見を形成しようとする	新しい物事や見方を探求し、自分の意見を形成し、他者へ伝えようとする	新しい物事や見方を生み出し、自分の意見を他者へ伝える	新しい物事や見方を応用し、自分の意見を他者への確に伝える

〔授業計画〕

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 時代背景
- 第3回 預言者ムハンマド
- 第4回 コーランの構成 (オンライン)
- 第5回 神観念
- 第6回 神の唯一性 (オンライン)
- 第7回 天地創造
- 第8回 アダムの創造と樂園追放 (オンライン)
- 第9回 人類の歴史と神の支配
- 第10回 終末 (オンライン)
- 第11回 天国と地獄
- 第12回 礼拝・断食 (オンライン)
- 第13回 巡礼・タブー
- 第14回 婚姻・離婚
- 第15回 発表とまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. テキスト読解
2. 文献読解 (日本語・英語)
3. 発表と討論

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の要約
3. 発表のレジュメ作成
4. 発表のパワーポイント資料作成
5. 課題に対するフィードバックは授業のなかで受ける

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度10%、発表30%、学期末レポート60%により評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。オンラインによる授業回を変更することもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業に必要な資料を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

参考文献は適宜、授業で提示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アラブ・イスラーム文化特論

280032NOJ

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

火曜4限

ー

60

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

アラブ文化とイスラーム文化についての知識と理解を深めることを目的とする。まず「アラブ」とは何か、「イスラーム」とは何かという定義付けの検証から行う。次にアラブとイスラームの人々の生活、宗教、歴史、芸術、文学にかかわる代表的な文化的要素(例: コーラン、アラビア書道、アルハンブラ宮殿)をとりあげて検討し、それらにまつわる歴史的背景や地域の独自性なども明らかにしていく。また、文献を読むことに加えて、映像や実物を目にするすることで、その文化において人々が実際にどのような生活をしているのかをかいまみる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. アラブ・イスラーム文化の共通性
2. アラブ・イスラーム文化の多様性
3. 文献(日本語と英語)講読とそれに関する発表

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力	目的や問題設定があいまいで、解決法を検討することができない	目的や問題設定が十分でなく、解決法を自ら見出すことができない	目的や問題設定が十分でき、なんらかの解決法を見出すことができる	実現可能な目的や問題設定ができ、適切な解決法を見出すことができる
共生・協働する力				

創造・発信力	新しい物事や見方に関心を持ち、自分の意見を形成しようとする	新しい物事や見方を求め、自分の意見を形成し、他者へ伝えようとする	新しい物事や見方を生み出し、自分の意見を他者へ伝える	新しい物事や見方を応用し、自分の意見を他者への確に伝える
--------	-------------------------------	----------------------------------	----------------------------	------------------------------

〔授業計画〕

- 第1回 アラブとイスラームの定義の検証
- 第2回 イスラームの興り
- 第3回 イスラームの発展(オンライン)
- 第4回 コーランとは
- 第5回 コーランの内容(オンライン)
- 第6回 アラブ文学(詩)
- 第7回 アラブ文学(散文)
- 第8回 アラビア書道(オンライン)
- 第9回 アルハンブラ宮殿
- 第10回 イスラーム女性信者のヴェール
- 第11回 アラブのメディア(新聞)(オンライン)
- 第12回 アラブのメディア(テレビ・ラジオ)
- 第13回 もてなしの心(オンライン)
- 第14回 結婚と離婚
- 第15回 最終発表とまとめ

〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義と受講生の発表によって授業をすすめる。
2. 受講生は各授業で決められたテーマに関する日本語と英語の専門書や論文を事前に読み、発表を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 1. の要約および発表
3. 発表のレジюме作成
4. 発表のパワーポイント資料作成
5. 課題に対するフィードバックは授業のなかで受ける

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度(10%)、発表(30%)、学期末レポート(60%)により評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

ゲスト講師による授業を行うこともある。また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。オンラインによる授業回を変更することもある。

〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特に使用しない。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

参考文献は適宜、授業で紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕
 〔実務経験のある教員による実践的科目〕

インターンシップ

280061N0J
 大学院
 人間文化研究科 > 人間文化専攻
 2単位 集中
 その他
 ー
 60
 岩崎 れい 吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

国際組織や国際ビジネスにおいて活躍を志す学生にとって、また図書館や博物館などの文化機関での仕事に従事したいと考えている学生にとって、現場で一定期間を過ごすことは何にもものにも換えがたい経験になる。このインターンシップは、それらの仕事の一部分を体験することで、その仕事の概容を知ること、また他の職種をふくめたさまざまなビジネスシーンや文化活動を理解するため、開講される。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

たとえば、多国籍企業や国際機関などに特有の文化に接し、国際組織での公用文書の作成の実態に触れたりすること。そうした仕事についての認識を確かなものとする。図書館や美術館といった文化機関の所蔵資料・文物を十全に理解すること。それら資料・文物を利用して、閲覧者や観覧者に対する資料提供や展覧のための技術に触れてみる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	実習先について、基本的な知識がない。	実習先についての基本的な知識がある。	実習先の業務について一通りの知識がある。	実習先の業務について十分な知識がある。
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力	指導者の指示を受けて、的確に業務をすることができない。	指導者の指示通りに業務をすることができる。	指導者の指示を的確に把握し、その上で職員や他の実習生と協力して業務を行うことができる。	周囲の状況を見たり、指導者の指示を確認したりしながら、主体的に業務をすることができる。
創造・発信力				

〔授業計画〕

※実習先によって、授業計画が変わってきます。

博物館での実習を希望する場合の担当者は、吉田朋子、図書館及び国際機関での実習を希望する場合の担当者は、岩崎れいです。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

インターンシップの実施先としては、国連広報センター、大阪府立図書館、博物館・美術館などの文化機関を予定している。

事前・事後指導にも必ず出席すること。実習内容等に関するフィードバックは事後指導において行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 基本的な知識・技術を身につけておく。
2. インターンシップ先の概要、業務内容等について、あらかじめ知っておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

インターンシップ先の評価および体験したインターンシップについてのレポートによって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

吉田朋子：兵庫県立美術館で学芸員として勤務

岩崎れい：国立国会図書館で非常勤調査員として勤務

スピーチ・コミュニケーション演習

280153N0J
 大学院
 人間文化研究科 > 人間文化専攻
 2単位 後期
 木曜1限
 ー
 60
 選択必修
 平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本語の話しことば教育・学習に関する内容と研究方法について把握する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

話しことばに関する教育・学習について理解するとともに、関連の研究手法について把握する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解	内容を理解していない。	内容をおおかた理解している。	内容を十分に理解している。	内容を十分に把握し、研究への理解を深めている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
- 第 2 回 音声言語指導の歴史
明治、大正
- 第 3 回 音声言語指導の歴史
昭和、平成
- 第 4 回 音声言語教育に関する技能
コミュニケーションの効果に関する検討
- 第 5 回 音声言語学教育に関する技能
コミュニケーションの方法に関する検討
- 第 6 回 音声言語教育に関する技能
方法に関する検討
- 第 7 回 音声言語教育に関する研究方法
教育実践研究とは何か
- 第 8 回 音声言語教育に関する研究方法
教育実践研究の方法
- 第 9 回 音声言語教育に関する研究方法
授業リフレクシヨンを用いた研究実践研究
- 第 10 回 音声言語教育に関する研究方法
質的研究
- 第 11 回 音声言語教育に関する研究方法
研究デザイン
- 第 12 回 音声言語教育に関する研究方法
データ採取
- 第 13 回 音声言語教育に関する研究方法
研究倫理
- 第 14 回 音声言語教育に関する研究方法
SCAT
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・前半は、話しことば教育・学習に関する技能について把握する。

・後半は、話しことば教育に関する研究に参考になる教育工学の研究手法 (特に質的研究) について把握する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・毎回の課題を準備する。
- ・課題に対してフィードバックがある。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

50

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (50%)、発表 (50%) に基づき、総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

フィールドワークに行く場合がある。その場合、交通費などが必要である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『質的研究の考え方 研究方法論からSCATによる分析まで』
大谷尚/名古屋大学出版会/2019

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『教育工学研究の方法』/清水康敬他編著教育工学会監修/ミネルヴァ書房/2012/4623063631

『プロセス・エジュケーション』/津村俊充/金子書房/2012/4760832548

『現代日本のコミュニケーション研究』/日本コミュニケーション学会/三修社/2011/4384056591

『教育実践論文としての教育工学研究のまとめ方』/吉崎静夫・村川雅弘編著/ミネルヴァ書房/2016/9784623074402

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

スピーチ・コミュニケーション特論

280154N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

火曜 4限

—

60

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コミュニケーションに関する内容を理解し、コミュニケーション教育・学習の在り方を考察する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・コミュニケーションに関する文献を読み、問題点を把握する。

・コミュニケーション教育・学習の在り方を考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
理解と考察	内容を理解していない。	内容をおおかた理解し考察している。	内容を理解し問題点等を把握した上で考察している。	内容を十分に理解し優れた考察をしている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 INTRODUCTION
話しことばの基礎

- 第 2 回 社会生活とコミュニケーション
家庭内コミュニケーション
- 第 3 回 社会生活とコミュニケーション
日本人の傾向
- 第 4 回 社会生活とコミュニケーション
誤解とコミュニケーション
- 第 5 回 社会生活とコミュニケーション
いじめとコミュニケーション
- 第 6 回 ジェンダーとコミュニケーション
西欧
- 第 7 回 ジェンダーとコミュニケーション
日本
- 第 8 回 大衆文化とコミュニケーション
- 第 9 回 ビジネス・コミュニケーション
分類
- 第 10 回 ビジネスコミュニケーション
特色
- 第 11 回 コミュニケーション教育
日本語、国語教育
- 第 12 回 コミュニケーション教育
ディベート
- 第 13 回 オーラル・インタープリテーション
- 第 14 回 フィールドワーク (実施回未定)
- 第 15 回 まとめ
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
・文献を読み、受講者作成のレジюмеをもとに議論する。
・提出された課題に対してフィードバックがある。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
・毎回の課題を準備する。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
50
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
評価は、授業参加度 (50%)、発表 (50%) に基づき、総合的に行う。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
対面で実施する。
フィールドワークに行く場合がある。その場合、交通費などが必要である。
- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
日本コミュニケーション学会 (2000) 日本社会とコミュニケーション 三省堂 ISBN-13: 978-4385359601 学内販売無
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
『現代日本のコミュニケーション研究』/日本コミュニケーション学会編/三修社/2011/9.784384056594E12
『非言語行動の心理学』/V.P.リッチモンド・J.C.マクロスキー/北大路書房/2006/4.762824909E9

『音声言語指導大事典』/高橋俊三 (編) /明治図書出版/
1990/ 4184788041

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

芸術史学演習

280110NOJ

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

月曜 5限

ー

60

選択必修

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

美術作品の研究のために、美術史学は様々なアプローチの方法を蓄積してきた。これから美術作品の研究に取り組むために、具体的な論文を通して方法論を学ぶ。あわせて、美術史研究に必要な外国語読解能力の向上も目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・美術史に関する論文 (欧文) を読み、論理構成と方法論を考察する。関連事項を調査して知識を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	美術史の欧文論文を読んだことがない	美術史の欧文論文を複数読んだことがある	美術史の欧文論文の内容についてレジюмеを作ることが出来る	美術史の欧文論文の内容を批判的に論じることが出来る
言語力	一次資料や専門的な論文に触れたことがない	一次資料や専門的な論文を読み、レジюмеにまとめることが出来る	一次資料や専門的な論文を批判的に検討することが出来る	一次資料や専門的な論文を自分の研究に生かすことが出来る
思考・解決力	様々な学には歴史があることを明確に認識していない	学問や思考の枠組みが歴史的に規定されていることを理解している	自分の研究に関わる分野の学問としての歴史に興味をもち、ある程度知識がある	自分の研究に関わる分野で重要とされる一次資料や専門的な論文を収集することができる
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
- 第 2 回 文献講読 芸術家の伝記
- 第 3 回 文献講読 美術に関わる制度（アカデミー）
- 第 4 回 文献講読 美術に関わる制度（展覧会）
- 第 5 回 文献講読 芸術と経済
- 第 6 回 文献講読 視覚芸術と文学
- 第 7 回 文献講読 イコノロジー
- 第 8 回 文献講読 鑑賞者との関係
- 第 9 回 文献講読 科学的な分析
- 第 10 回 文献講読 社会学的なアプローチ
- 第 11 回 文献講読 心理学的なアプローチ
- 第 12 回 文献講読 芸術と政治
- 第 13 回 文献講読 芸術と宗教
- 第 14 回 文献講読 様式の問題
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- ・ 毎回相当の分量を担当し、レジュメを作成してくることを前提に、議論を通して理解を深める。
- ・ レジュメや準備について毎回講評してフィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

課題となっている論文を読み、担当者はレジュメを作成する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度50%、発表の成績50%で評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『美術史学の歴史』/ウード・クルターマン著 勝 國興・高阪一治訳/中央公論美術出版社/1996年/4.805502894E9

その他適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

出版・情報文化演習

280146N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

金曜 3限

ー

60

選択必修

鎌田 均

〔科目の教育目標（Course Description）〕

識字、読解能力を基礎にした、文字情報などの情報について探求する。それらを人が適切に理解し、利用できるリテラシー能力にみる、文字情報を中心とした様々な書籍、文書、記録などの情報源とそれを読解し、利用する人との関わりについての研究法を学ぶ。「出版・情報文化特論」で検討したテーマの内容、研究動向をもとにして、個別の研究課題を見つけ、小論文を完成させ発表する。これらを通して、文字・活字情報とそれについてのリテラシーに関わる諸分野における研究方法を学ぶ。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

情報と人との関わり、メディア、情報リテラシーに関係する分野についての研究動向を理解し、研究方法について実践する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	基礎的事項についての理解ができていない	基礎的事項についての理解がある程度できている	基礎的事項についての理解が十分にできている	基礎的事項に加えて、それらの背景や関連する事項について理解できる
言語力	論理的な論述が全くできない	論理的な論述が不十分	論理的な論述がある程度できる	論理的な論述が十分にできる
思考・解決力	自分なりの思考がほとんど示されていない	自分なりの思考が不十分	自分なりの思考がある程度できる	自分なりの思考が十分にできる
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 授業内容と授業の進め方についての説明

第 2 回 文字表現と文化：文献講読とディスカッション

第 3 回

インターネットにおける情報とその理解：文献講読とディスカッション

- 第 4 回 出版、活字メディアとその読解：文献講読とディスカッション
- 第 5 回 メディア、情報リテラシー教育の実践と研究：文献講読とディスカッション
- 第 6 回 情報、メディアと現代社会：文献講読とディスカッション
- 第 7 回 研究テーマの探求
- 第 8 回 研究課題の設定
- 第 9 回 研究方法
- 第 10 回 データ、資料収集法
- 第 11 回 データ、資料の分析と議論の展開
- 第 12 回 引用、参考文献の確認
- 第 13 回 個別発表とディスカッション
- 第 14 回 フィードバックの小論文への反映
- 第 15 回 まとめ：小論文の最終講評

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

文献講読、ディスカッションをもとに個別のテーマを同定し、研究課題を設定し、研究方法について実践的に学ぶ。課題へのフィードバックは授業中に行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

指定された文献を講読するとともに各自のテーマに関連する文献を検索し、講読、発表の準備をする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

小論文 (60%)、授業への参加 (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

出版・情報文化特論

280046N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

金曜 2限

ー

60

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

文字による記録、出版を通して、またインターネットを中心とする新しいメディアによって発信される情報の性質と、

それを読み、利用する人との関わりについて検討する。これについて、情報リテラシーと呼ばれる、識字、読解能力を基礎にした、文字情報などの情報を人が適切に理解し、利用できる能力を軸とし、歴史的変遷を踏まえて様々な側面から考察する。以下のテーマに焦点を絞り、テーマに関する基礎事項について講義し、先行研究を紹介、検討する。

1) 文字情報を中心とした書籍、文書などの資料が持つ性質と、それを読解し、受容する人との関係。

2) 情報の伝達と保存、それに関わるメディア、機関の文化と動向。

これらのテーマに関する研究動向、研究方法について理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1) 情報の持つ性質について理解する。

2) 情報が発信されるメディアについて理解する。

3) 情報、メディアを適切に理解して利用するための知識を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	基礎的事項の理解ができていない	基礎的事項の理解がある程度できている	基礎的事項の理解が十分できている	基礎的事項に加えてそれらの背景、関連する事項などを理解できる
言語力				
思考・解決力	与えられた課題について最低限の思考しか示されていない	与えられた課題についてある程度の思考が示されている	与えられた課題について十分な思考ができていく	与えられた課題だけでなく、自発的に新たな課題や関連する課題を見つけたり検討することができる
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 「リテラシー」に関する諸理論と動向

第 2 回 「情報」に関する諸理論と動向

第 3 回 「メディア」に関する諸理論と動向

第 4 回 文字情報の歴史的変遷と人との関わり (書物と読書の歴史)

第 5 回 記録、文書の読解、利用における人の行動

第 6 回 出版メディアと出版物の読解

第 7 回 批判的思考力と情報の読解

- 第 8 回 情報リテラシー教育の理論と動向 (図書館と情報リテラシー教育)
- 第 9 回 メディアリテラシー教育の理論と動向
- 第 10 回 Post-Truth 時代の情報とメディア
- 第 11 回 文化情報資源
- 第 12 回 図書館とリテラシーの関係
- 第 13 回 情報、メディアと権利、倫理の問題 (著作権など)
- 第 14 回 レポート課題について議論
- 第 15 回 まとめ及びレポートの講評

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各テーマ毎に参考文献を提示し、それに基づいた発表、ディスカッションを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

呈示された文献を読み、発表の準備をする。課題へのフィードバックは授業中に行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期末レポート (50%)、授業中の発表 (25%)、授業中のディスカッションへの参加 (25%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

図書館情報文化特論 (子どもとメディア)

280047NOJ

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

火曜1限

ー

60

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

読書や学習や情報探索行動は、人間にとって生涯にわたり欠かせない文化活動の一部である。生涯学習社会において、子ども時代にその習慣や方法を身につけることは重要であり、その支援は図書館の大切な役割の一つである。本特論では、(1) 子どもの読書能力・読書興味の発達段階、(2) 児童書と子どもの発達、(3) 子どもの読書支援のための理論、(4) 現代のメディアが子どもに与える影響などに関する学術研究への理解を深めることで、理論的な土台を築

き、それをもとに、子どもへのよりよい図書館サービスのありかたを探る。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもを取り巻くメディア環境を知る。

2. 児童書と子どもの発達との関係、読書支援に対する理解を深める。

3. 各自のテーマとの接点を見つける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	当該テーマに関する基本的知識がない。	当該テーマに関する概要を理解している。	当該テーマの先行研究についての知識がある。	当該テーマに関する研究について議論をすることができる。
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 序及び1. 子どもの読書とメディア

序 子どもをとりまくメディアの現状

1. 子どもの読書とメディア

1) 子どもの読書の現状と図書館の果たす役割：講義

第 2 回 1. 子どもの読書とメディア

2) 子どもの読書の現状と課題：文献解説と発表

第 3 回 1. 子どもの読書とメディア

3) 子どもの読書の現状と課題：討論

第 4 回 2. 児童書と子どもの発達

1) 児童書と子どもの発達に関する概説：講義

第 5 回 2. 児童書と子どもの発達

2) 児童書と子どもの発達との関係：文献解説と発表

第 6 回 2. 児童書と子どもの発達

3) 児童書と子どもの発達との関係：討論

第 7 回 3. 子どもへの読書支援

1) 子どもへの読書支援の動向：講義

第 8 回 3. 子どもへの読書支援

2) 現代における読書支援の傾向と課題：調査と発表

第 9 回 3. 子どもへの読書支援

3) 現代における読書支援の傾向と課題：討論

第 10 回 4. 子どもとメディアをめぐる諸問題：文献解説と討論

1) テレビゲームをめぐる議論

- 第 11 回 4. 子どもとメディアをめぐる諸問題：文献解読と討論
2) ネット依存といじめ・犯罪
- 第 12 回 4. 子どもとメディアをめぐる諸問題：文献解読と討論
3) 知的自由をめぐる議論
- 第 13 回 4. 子どもとメディアをめぐる諸問題：文献解読と討論
4) ハンディキャップを持つ子どものための情報技術の活用
- 第 14 回 5. まとめ
1) 内容の振り返りと発表
- 第 15 回 5. まとめ
2) 討論

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義、発表と特定のテーマについての討論を組み合わせで実施する。

フィードバックは、口頭及び提出物へのコメント記入によって行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 指定された文献を読み、レジユメを作成する。
2. 自分でも関心のある文献を探索し、読む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業中の取り組み (50%) 及びレポート (50%) を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業に参加することを前提条件とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に指示

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

漢文学特論

280151N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

木曜3限

ー

60

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

1. 漢文資料の読み方を把握する。
2. 漢文資料の文法を把握する。
3. 漢文資料の内容及びその歴史背景を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 授業ごとに短い漢文数編を読む。
2. 漢文の歴史背景と内容を理解した上で、文法をマスターする。
3. 授業の最終回において、提出された課題を返却し、振り返り学習をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	授業で学習した漢文資料についてほとんど理解していない。	授業で学習した漢文資料についてある程度理解している。	授業で学習した漢文資料についてほぼ理解した上で、自分なりの解釈、分析もできる。	授業で学習した漢文資料について独自の解釈、分析力をもっている。さらに、他の漢文資料にも興味を示し、積極的に読解しようと努力している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イン트로ダクション
- 第 2 回 漢文とは何か
- 第 3 回 漢文文法概説
- 第 4 回 『論語』の数編を読む 漢文の助詞について
- 第 5 回 『説苑』の数編を読む 漢文の否定形について
- 第 6 回 『説苑』の数編を読む 漢文の仮定形について
- 第 7 回 『論語』の数編を読むと内容分析 漢文の疑問形について
- 第 8 回 発表
- 第 9 回 『莊子』の数編を読むと内容分析 漢文の反語形について
- 第 10 回 『莊子』の数編を読むと内容分析 漢文の許可表現について
- 第 11 回 『孟子』の数編を読むと内容分析 漢文の使役形について

第 12 回 『孟子』の数編を読むと内容分析 漢文の比較について

第 13 回 『史記』の数編を読むと内容分析 漢文の受身形について

第 14 回 1. 『史記』の数編を読むと内容分析 漢文の命令形について
2. 課題提出

第 15 回 まとめ。提出された課題を返却、振り返り学習。
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

漢文理解においては、繰り返し読解することが基本である。漢文を熟読した上で、歴史背景や文法や、日本語における読み方などを学習していく。漢文の内容を深く読解でき、独自の解釈、分析力を持つことを最終目標とする。また、提出された課題に対する意見と評価は、最終回のまとめで行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 指示に従って予習復習する。
2. 授業の内容と関連する論文を数編読む。分析力を養う。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

50

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (発表を含む、15%)、レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業毎にプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『漢文入門』/小川環樹,西田太一郎著/岩波書店/1957/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

聖書学演習

280129NOJ

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

水曜 1限

ー

60

選択必修

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

新約聖書の書簡の著者であるパウロの生涯と思想を知り、パウロの異邦人への宣教と初期キリスト教への理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 パウロの生涯を知る
- 2 パウロの異邦人への宣教と初期の教会について学ぶ
- 3 パウロの思想を理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	初期キリスト教の歴史や思想を理解しようとする	初期キリスト教の歴史や思想を概ね理解できている	初期キリスト教の歴史や思想を的確に理解できる	初期キリスト教の歴史や思想を詳細な部分までの確に理解し、創造的な問いを以て理解を深めることができる
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力	研究内容をレポートにまとめて発表しようとする	研究内容をレポートにまとめ、的確に発表できる	研究内容を的確にまとめ、わかりやすく発表することができる	研究内容を独創的な視点をもって適格にレポートにまとめ、要点を抑えながらわかりやすく発表することができる

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

第 2 回 聖パウロについて

第 3 回 パウロ解釈について

第 4 回 回心以前のパウロ

第 5 回 パウロのダマスコ体験

第 6 回 パウロのキリスト論

第 7 回 キリスト論的諸テキスト

第 8 回 トーラー論

第 9 回 フィールドワーク

第 10 回 神の義と義化

第 11 回 「ロマ書」7章

第 12 回 パウロの聖霊論

第 13 回 「ロマ書」8章 (聖霊による罪からの自由)

第 14 回 受講者による発表

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポートを提出する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 1 テキストに関連する「パウロ書簡」を読解する
- 2 「パウロ書簡」の中から一つの書簡を選び、その書簡の書かれた背景とパウロの思想をレポートにまとめて発表する
- 3 最後の授業中に、レポートについての講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

受講者は、テキスト『パウロの神秘論』を事前に読み、要約をレジュメにまとめて授業に参加する

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業中の取り組み (50%) 及びレポート (50%) を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『パウロの神秘論』/宮本久雄/東京大学出版会/2019/ISBN978413014142/学内販売予定

『聖書 旧約聖書続編つき (共同訳)』//日本聖書協会/2009/ISBN9784820212713/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

聖書学特論

280029N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

水曜3限

ー

60

中里 郁子

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	聖パウロの宣教とコリントについて知ろうとする	聖パウロの宣教とコリントの町や人々について概ね理解している	聖パウロの宣教とコリントの町の地理的経済的状况と人々の信仰について自ら文献を研究して理解している。	聖パウロの宣教とコリントの町の地理的経済的状况と人々の信仰について自ら文献を研究して理解を深めることができる。
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力	『第二コリント書』の内容を理解しようとする	『第二コリント書』の内容とパウロの言葉の意味を概ね理解している	『第二コリント書』においてパウロが述べた言葉とコリントの信徒との関係について適切に理解し、書簡の言葉の神学的意味を解明しようとしている	『第二コリント書』においてパウロが述べた言葉とコリントの信徒との関係について適切に理解し、書簡の言葉の神学的意味を討議し、自分の独創的な問いを以てレポートにまとめ、発表することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 『第二コリント書』概説
- 第 3 回 コリントの町
- 第 4 回 コリントの教会
- 第 5 回 パウロとコリントの信徒
- 第 6 回 フィールドワーク
- 第 7 回 挨拶と祝福
- 第 8 回 変更された訪問
- 第 9 回 真正な奉仕
- 第 10 回 奉仕の理論と実践
- 第 11 回 奉仕—古いものと新しいもの
- 第 12 回 奉仕と死
- 第 13 回 イエスの命と新しい創造

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

新約聖書のパウロ書簡『コリントの信徒への第二の手紙』の読解を通して、聖パウロの神学を理解することを目的とする。聖パウロは異邦人にキリストの福音を述べ伝えて、異邦人教会を設立した使徒である。聖パウロの創立したコリント教会についての理解を深め、コリントの信徒へのメッセージを理解し、その神学的意義を探究する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 コリントの町を知る
- 2 コリントの教会について理解する
- 3 『コリントの信徒への第二の手紙』の背景を学ぶ
- 4 『コリントの信徒への第二の手紙』の神学を理解する

第 14 回 受講者による発表

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1 『コリントの信徒への第二の手紙』と『Theology of the Second Letter to the Corinthians』を精読する。

2 割り当てられた箇所のメッセージについてディスカッションする。

3 受講生は一つのテーマを選んで参考文献を用いて研究し、学期の後半に発表してレポートにまとめる。

4 最後の授業中に、レポートについての講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

受講生は毎回の授業で割り当てられる聖書と英文テキストを事前に読んで、要約をレジュメする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業中の取り組み (50%) 及びレポート (50%) を総合的に評価する。最後の授業中に、レポートについての講評を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『聖書 旧約聖書続編つき (共同訳)』//日本聖書協会/2009/9.784820212713E12/学内販売予定『Theology of the Second Letter to the Corinthians』/Jerome Murphy-O'Connor/Cambridge University Press/1991/521358981/学内販売予定
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

西洋美術特論

280152N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

月曜 3限

ー

60

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

18世紀フランスの版画について専門的な文献を読むことを通して、美術史の方法論を学び、イメージの複製についての考察を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・美術史に関する英語文献を精読する
- ・イメージの複製について考察を深める

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	ヨーロッパの版画について全く知識がない	ヨーロッパの版画について実際に触れたことがある	ヨーロッパの版画に関する専門的な研究に触れたことがある	前近代のイメージ複製技術について適切な見解を持っている
言語力	英語文献に抵抗がある	辞書を活用しながら英語文献を読み進めることができる	英語文献の内容をわかりやすくレジュメにまとめることができる	英語文献の内容を自分の研究に生かすことができる
思考・解決力	イメージの複製について考察したことがない	イメージの複製にまつわる問題に触れたことがある	イメージの複製に関する文献を読み、自分の意見を述べる事が出来る	自分の研究とイメージの問題の関わりを考察し、自分の見解を説明できる
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

第 2 回 文献講読と議論 (1) Picturing Art History < Introduction 美術史と図版 >

第 3 回 文献講読と議論 (2) Colorful Impressions < 1730年以前の色刷り版画 15世紀 >

第 4 回 文献講読と議論 (3) Colorful Impressions < 1730年以前の色刷り版画 16世紀以降 >

第 5 回 文献講読と議論 (4) Colorful Impressions < 18世紀フランスにおける色刷り版画の販売 広告について >

第 6 回 文献講読と議論 (5) Colorful Impressions < 18世紀フランスにおける色刷り版画の販売 室内装飾への利用 >

第 7 回 文献講読と議論 (6) Colorful Impressions < 18世紀の色刷り図版の技術 >

第 8 回 文献講読と議論 (7) Colorful Impressions < コレクターたちの視線 >

第 9 回 文献講読と議論 (8) Colorful Impressions < 色刷り版画の具体例 >

第 10 回 文献講読と議論 (9) Versified Prints < 詩をつけられた複製版画について >

第 11 回 文献講読と議論 (10) Versified Prints < 具体例 版画化・詩の付与の様々なパターン >

第 12 回

文献講読と議論 (11) Versified Prints<具体例 連作など>

第13回 受講者による発表(各自の研究における図版の位置づけについて)

第14回 受講者による発表(現代の複製図版について)

第15回 まとめ

〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法(Course Methods)〕

・文献をあらかじめ読み、担当者の作成したレジュメをもとに議論する。

・レジュメと準備の内容、または発表内容について、毎回講評してフィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕

課題箇所を読み、担当者はレジュメを作成する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕

45

〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕

授業参加度50%・課題の成果50%とする。

〔留意事項(Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Picturing Art History』/Ingrid R. Vermeulen/Amsterdam University Press/2010/9789089640314/学内販売無

『Colorful Impressions』/Margaret Morgan Grasselli/ National Gallery of Art, Washington/ 2003/ 0853318921/ 学内販売無

『Versified Prints』/W.McAllister Johonson/University of Tronto Press/ 2012/ 9781442642850/ 学内販売無

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 I

280161A0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

水曜1限

ー

必修

岩崎 れい

〔科目の教育目標(Course Description)〕

修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。

〔教育・学習の個別課題(Course Objectives)〕

1. 修士論文の意義について理解する

2. 修士論文のテーマを決定する

3. 研究方法を決定する

4. 研究倫理について理解する

5. 研究計画を策定する

〔授業計画〕

第1回 研究事始め:大学院における研究とは

第2回 修士論文の意義:卒業論文の発展形として

第3回 修士論文の意義:大学院での研究の収斂として

第4回 修士論文における論文テーマの設定

第5回 修士論文における論文テーマの修正と設定

第6回 研究の方法について(文献調査法)

第7回 研究の方法について(アンケート調査法)

第8回 文献調査・情報収集の方法(図書館の利用)

第9回 文献調査・情報収集の方法(文献目録の作成)

第10回 文献調査・情報収集の方法(ノートの記載)

第11回 先行研究を知ることの意義

第12回 先行研究と論文テーマとの関連を知る

第13回 先行研究の論文のモチーフへの応用について

第14回 よい論文のための適切な引用のあり方

第15回 研究倫理について-剽窃のことなど

〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法(Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕

1. 文献読解

2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕

30

〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕

4月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。

〔留意事項(Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

280161B0J
大学院
人間文化研究科 > 人間文化専攻
2単位 前期
金曜1限
一
必修
鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 修士論文の意義について理解する
2. 修士論文のテーマを決定する
3. 研究方法を決定する
4. 研究倫理について理解する
5. 研究計画を策定する

〔授業計画〕

- 第1回 研究事始め：大学院における研究とは
第2回 修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第3回 修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第4回 修士論文における論文テーマの設定
第5回 修士論文における論文テーマの修正と設定
第6回 研究の方法について（文献調査法）
第7回 研究の方法について（アンケート調査法）
第8回 文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第9回 文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第10回 文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第11回 先行研究を知ることの意義
第12回 先行研究と論文テーマとの関連を知る
第13回 先行研究の論文のモチーフへの応用について
第14回 よい論文のための適切な引用のあり方
第15回 研究倫理について－剽窃のことなど

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

4月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅰ

280161C0J
大学院
人間文化研究科 > 人間文化専攻
2単位 前期
月曜1限
一
必修
朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 修士論文の意義について理解する
2. 修士論文のテーマを決定する
3. 研究方法を決定する
4. 研究倫理について理解する
5. 研究計画を策定する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
研究力	大学院での研究について理解できていない。	大学院での研究について少し理解できているが、研究方法はあまり把握していない。	自らの研究力がある。研究方法も一定程度把握している。	自らの研究力がある。研究課題と研究方法をしっかりと把握している。

〔授業計画〕

- 第1回 研究事始め：大学院における研究とは
第2回 修士論文の意義：卒業論文の発展形として
第3回 修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
第4回 修士論文における論文テーマの設定
第5回 修士論文における論文テーマの修正と設定
第6回 研究の方法について（文献調査法）
第7回 研究の方法について（アンケート調査法）
第8回 文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
第9回 文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
第10回 文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
第11回 先行研究を知ることの意義
第12回 先行研究と論文テーマとの関連を知る
第13回 先行研究の論文のモチーフへの応用について

第 14 回 よい論文のための適切な引用のあり方
 第 15 回 研究倫理について－剽窃のことなど
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
 実施しない
 [教育・学習の方法 (Course Methods)]
 各指導教員から個別に指導を受ける。
 [準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]
 1. 文献読解
 2. 読解した文献の整理
 [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]
 30
 [評価方法・評価基準 (Evaluation)]
 4 月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
 [留意事項 (Other Information)]
 授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
 [テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]
 担当の教員の指示による。
 [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 授業の中で随時紹介する。
 [参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

特別研究 I

280161D0J
 大学院
 人間文化研究科 > 人間文化専攻
 2単位 前期
 木曜 4限
 ー
 必修
 鷲見 朗子

[科目の教育目標 (Course Description)]
 修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
 [教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]
 1. 修士論文の意義について理解する
 2. 修士論文のテーマを決定する
 3. 研究方法を決定する
 4. 研究倫理について理解する
 5. 研究計画を策定する
 [授業計画]
 第 1 回 研究事始め：大学院における研究とは
 第 2 回 修士論文の意義：卒業論文の発展形として
 第 3 回 修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
 第 4 回 修士論文における論文テーマの設定
 第 5 回 修士論文における論文テーマの修正と設定
 第 6 回 研究の方法について (文献調査法)

第 7 回 研究の方法について (アンケート調査法)
 第 8 回 文献調査・情報収集の方法 (図書館の利用)
 第 9 回 文献調査・情報収集の方法 (文献目録の作成)
 第 10 回 文献調査・情報収集の方法 (ノートの記載)
 第 11 回 先行研究を知ることの意義
 第 12 回 先行研究と論文テーマとの関連を知る
 第 13 回 先行研究の論文のモチーフへの応用について
 第 14 回 よい論文のための適切な引用のあり方
 第 15 回 研究倫理について－剽窃のことなど
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
 実施しない
 [教育・学習の方法 (Course Methods)]
 各指導教員から個別に指導を受ける。
 [準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]
 1. 文献読解
 2. 読解した文献の整理
 [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]
 30
 [評価方法・評価基準 (Evaluation)]
 4 月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。
 [留意事項 (Other Information)]
 授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
 [テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]
 担当の教員の指示による。
 [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 授業の中で随時紹介する。
 [参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

特別研究 I

280161G0J
 大学院
 人間文化研究科 > 人間文化専攻
 2単位 前期
 水曜 1限
 ー
 必修
 平野 美保

[科目の教育目標 (Course Description)]
 修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。
 [教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]
 1. 修士論文の意義について理解する
 2. 修士論文のテーマを決定する
 3. 研究方法を決定する
 4. 研究倫理について理解する
 5. 研究計画を策定する

〔授業計画〕

- 第 1 回 研究事始め：大学院における研究とは
- 第 2 回 修士論文の意義：卒業論文の発展形として
- 第 3 回 修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
- 第 4 回 修士論文における論文テーマの設定
- 第 5 回 修士論文における論文テーマの修正と設定
- 第 6 回 研究の方法について（文献調査法）
- 第 7 回 研究の方法について（アンケート調査法）
- 第 8 回 文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
- 第 9 回 文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
- 第 10 回 文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
- 第 11 回 先行研究を知ることの意義
- 第 12 回 先行研究と論文テーマとの関連を知る
- 第 13 回 先行研究の論文のモチーフへの応用について
- 第 14 回 よい論文のための適切な引用のあり方
- 第 15 回 研究倫理について－剽窃のことなど

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1. 文献読解
- 2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

4 月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 I

280161H0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

木曜 1限

一

必修

石川 裕之

〔科目の教育目標（Course Description）〕

修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1. 修士論文の意義について理解する
- 2. 修士論文のテーマを決定する
- 3. 研究方法を決定する
- 4. 研究倫理について理解する
- 5. 研究計画を策定する

〔授業計画〕

- 第 1 回 研究事始め：大学院における研究とは
- 第 2 回 修士論文の意義：卒業論文の発展形として
- 第 3 回 修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
- 第 4 回 修士論文における論文テーマの設定
- 第 5 回 修士論文における論文テーマの修正と設定
- 第 6 回 研究の方法について（文献調査法）
- 第 7 回 研究の方法について（アンケート調査法）
- 第 8 回 文献調査・情報収集の方法（図書館の利用）
- 第 9 回 文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
- 第 10 回 文献調査・情報収集の方法（ノートの記載）
- 第 11 回 先行研究を知ることの意義
- 第 12 回 先行研究と論文テーマとの関連を知る
- 第 13 回 先行研究の論文のモチーフへの応用について
- 第 14 回 よい論文のための適切な引用のあり方
- 第 15 回 研究倫理について－剽窃のことなど

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1. 文献読解
- 2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

4 月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 I

280161I0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

月曜1限

ー

必修

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 修士論文の意義について理解する
2. 修士論文のテーマを決定する
3. 研究方法を決定する
4. 研究倫理について理解する
5. 研究計画を策定する

〔授業計画〕

- 第 1 回 研究事始め：大学院における研究とは
- 第 2 回 修士論文の意義：卒業論文の発展形として
- 第 3 回 修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
- 第 4 回 修士論文における論文テーマの設定
- 第 5 回 修士論文における論文テーマの修正と設定
- 第 6 回 研究の方法について (文献調査法)
- 第 7 回 研究の方法について (アンケート調査法)
- 第 8 回 文献調査・情報収集の方法 (図書館の利用)
- 第 9 回 文献調査・情報収集の方法 (文献目録の作成)
- 第 10 回 文献調査・情報収集の方法 (ノートの記載)
- 第 11 回 先行研究を知ることの意義
- 第 12 回 先行研究と論文テーマとの関連を知る
- 第 13 回 先行研究の論文のモチーフへの応用について
- 第 14 回 よい論文のための適切な引用のあり方
- 第 15 回 研究倫理についてー剽窃のことなど

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

4 月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 I

280161J0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

火曜2限

ー

河野 有時

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 修士論文の意義について理解する
2. 修士論文のテーマを決定する
3. 研究方法を決定する
4. 研究倫理について理解する
5. 研究計画を策定する

〔授業計画〕

- 第 1 回 研究事始め：大学院における研究とは
- 第 2 回 修士論文の意義：卒業論文の発展形として
- 第 3 回 修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
- 第 4 回 修士論文における論文テーマの設定
- 第 5 回 修士論文における論文テーマの修正と設定
- 第 6 回 研究の方法について (文献調査法)
- 第 7 回 研究の方法について (アンケート調査法)
- 第 8 回 文献調査・情報収集の方法 (図書館の利用)
- 第 9 回 文献調査・情報収集の方法 (文献目録の作成)
- 第 10 回 文献調査・情報収集の方法 (ノートの記載)
- 第 11 回 先行研究を知ることの意義
- 第 12 回 先行研究と論文テーマとの関連を知る
- 第 13 回 先行研究の論文のモチーフへの応用について
- 第 14 回 よい論文のための適切な引用のあり方
- 第 15 回 研究倫理についてー剽窃のことなど

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

4月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 I

280161E0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

水曜1限

ー

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 修士論文の意義について理解する
2. 修士論文のテーマを決定する
3. 研究方法を決定する
4. 研究倫理について理解する
5. 研究計画を策定する

〔授業計画〕

- 第 1 回 研究事始め：大学院における研究とは
- 第 2 回 修士論文の意義：卒業論文の発展形として
- 第 3 回 修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
- 第 4 回 修士論文における論文テーマの設定
- 第 5 回 修士論文における論文テーマの修正と設定
- 第 6 回 研究の方法について (文献調査法)
- 第 7 回 研究の方法について (アンケート調査法)
- 第 8 回 文献調査・情報収集の方法 (図書館の利用)
- 第 9 回 文献調査・情報収集の方法 (文献目録の作成)

第 10 回 文献調査・情報収集の方法 (ノートの記載)

第 11 回 先行研究を知ることの意義

第 12 回 先行研究と論文テーマとの関連を知る

第 13 回 先行研究の論文のモチーフへの応用について

第 14 回 よい論文のための適切な引用のあり方

第 15 回 研究倫理について－剽窃のことなど

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

4月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162A0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

木曜1限

ー

必修

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 先行研究についてまとめる
2. データや情報を収集する
3. 論文の構想を決定する
4. 論文のフォーマットについて把握する

〔授業計画〕

- 第 1 回 論文テーマと論文作成の手順について
- 第 2 回 論文の構成

- 第 3 回 序論の役割
- 第 4 回 論文の体裁
- 第 5 回 先行研究についてまとめる
- 第 6 回 先行研究について発表する
- 第 7 回 先行研究について批評する
- 第 8 回 論文の文章（文体と表記）
- 第 9 回 論文の文章（表記と用語）
- 第 10 回 論述方法
- 第 11 回 論述の学術性
- 第 12 回 論文の注（注記の原則）
- 第 13 回 論文の注（注の形式）
- 第 14 回 論文の注（欧文・和文の注）
- 第 15 回 修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1. 文献読解
- 2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（A4、900字×5枚）によって評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162B0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

金曜1限

ー

必修

鎌田 均

〔科目の教育目標（Course Description）〕

研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1. 先行研究についてまとめる
- 2. データや情報を収集する
- 3. 論文の構想を決定する
- 4. 論文のフォーマットについて把握する

〔授業計画〕

第 1 回 論文テーマと論文作成の手順について

第 2 回 論文の構成

第 3 回 序論の役割

第 4 回 論文の体裁

第 5 回 先行研究についてまとめる

第 6 回 先行研究について発表する

第 7 回 先行研究について批評する

第 8 回 論文の文章（文体と表記）

第 9 回 論文の文章（表記と用語）

第 10 回 論述方法

第 11 回 論述の学術性

第 12 回 論文の注（注記の原則）

第 13 回 論文の注（注の形式）

第 14 回 論文の注（欧文・和文の注）

第 15 回 修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1. 文献読解
- 2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（A4、900字×5枚）によって評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162C0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

月曜1限

一

必修

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 先行研究についてまとめる
2. データや情報を収集する
3. 論文の構想を決定する
4. 論文のフォーマットについて把握する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	研究テーマについて全く考えていない	研究テーマについて考えているが、文献調査は不十分である。	研究テーマについて考えている。文献調査もほぼ出来ている。	ユニークな研究テーマを考へることができ、文献調査も十分に出来ている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 論文テーマと論文作成の手順について
 - 第 2 回 論文の構成
 - 第 3 回 序論の役割
 - 第 4 回 論文の体裁
 - 第 5 回 先行研究についてまとめる
 - 第 6 回 先行研究について発表する
 - 第 7 回 先行研究について批評する
 - 第 8 回 論文の文章 (文体と表記)
 - 第 9 回 論文の文章 (表記と用語)
 - 第 10 回 論述方法
 - 第 11 回 論述の学術性
 - 第 12 回 論文の注 (注記の原則)
 - 第 13 回 論文の注 (注の形式)
 - 第 14 回 論文の注 (欧文・和文の注)
 - 第 15 回 修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書 (A4、900字×5枚) によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162D0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

木曜3限

一

必修

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 先行研究についてまとめる
2. データや情報を収集する
3. 論文の構想を決定する
4. 論文のフォーマットについて把握する

〔授業計画〕

- 第 1 回 論文テーマと論文作成の手順について
- 第 2 回 論文の構成
- 第 3 回 序論の役割
- 第 4 回 論文の体裁
- 第 5 回 先行研究についてまとめる
- 第 6 回 先行研究について発表する
- 第 7 回 先行研究について批評する
- 第 8 回 論文の文章 (文体と表記)
- 第 9 回 論文の文章 (表記と用語)
- 第 10 回 論述方法
- 第 11 回 論述の学術性
- 第 12 回 論文の注 (注記の原則)
- 第 13 回 論文の注 (注の形式)
- 第 14 回 論文の注 (欧文・和文の注)
- 第 15 回 修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書 (A4、900字×5枚) によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162G0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

金曜 4限

ー

必修

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 先行研究についてまとめる
2. データや情報を収集する
3. 論文の構想を決定する
4. 論文のフォーマットについて把握する

〔授業計画〕

- 第 1 回 論文テーマと論文作成の手順について
- 第 2 回 論文の構成
- 第 3 回 序論の役割
- 第 4 回 論文の体裁
- 第 5 回 先行研究についてまとめる
- 第 6 回 先行研究について発表する
- 第 7 回 先行研究について批評する
- 第 8 回 論文の文章 (文体と表記)

第 9 回 論文の文章 (表記と用語)

第 10 回 論述方法

第 11 回 論述の学術性

第 12 回 論文の注 (注記の原則)

第 13 回 論文の注 (注の形式)

第 14 回 論文の注 (欧文・和文の注)

第 15 回 修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書 (A4、900字×5枚) によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162H0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

月曜 1限

ー

必修

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 先行研究についてまとめる
2. データや情報を収集する
3. 論文の構想を決定する
4. 論文のフォーマットについて把握する

〔授業計画〕

- 第 1 回 論文テーマと論文作成の手順について

- 第 2 回 論文の構成
 - 第 3 回 序論の役割
 - 第 4 回 論文の体裁
 - 第 5 回 先行研究についてまとめる
 - 第 6 回 先行研究について発表する
 - 第 7 回 先行研究について批評する
 - 第 8 回 論文の文章（文体と表記）
 - 第 9 回 論文の文章（表記と用語）
 - 第 10 回 論述方法
 - 第 11 回 論述の学術性
 - 第 12 回 論文の注（注記の原則）
 - 第 13 回 論文の注（注の形式）
 - 第 14 回 論文の注（欧文・和文の注）
 - 第 15 回 修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（A4、900字×5枚）によって評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162IOJ

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

火曜 2限

—

必修

河野 有時

〔科目の教育目標（Course Description）〕

研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 先行研究についてまとめる
2. データや情報を収集する
3. 論文の構想を決定する
4. 論文のフォーマットについて把握する

〔授業計画〕

第 1 回 論文テーマと論文作成の手順について

第 2 回 論文の構成

第 3 回 序論の役割

第 4 回 論文の体裁

第 5 回 先行研究についてまとめる

第 6 回 先行研究について発表する

第 7 回 先行研究について批評する

第 8 回 論文の文章（文体と表記）

第 9 回 論文の文章（表記と用語）

第 10 回 論述方法

第 11 回 論述の学術性

第 12 回 論文の注（注記の原則）

第 13 回 論文の注（注の形式）

第 14 回 論文の注（欧文・和文の注）

第 15 回 修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（A4、900字×5枚）によって評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅱ

280162E0J
大学院
人間文化研究科 > 人間文化専攻
2単位 後期
木曜1限
—
中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 先行研究についてまとめる
2. データや情報を収集する
3. 論文の構想を決定する
4. 論文のフォーマットについて把握する

〔授業計画〕

- 第1回 論文テーマと論文作成の手順について
第2回 論文の構成
第3回 序論の役割
第4回 論文の体裁
第5回 先行研究についてまとめる
第6回 先行研究について発表する
第7回 先行研究について批評する
第8回 論文の文章（文体と表記）
第9回 論文の文章（表記と用語）
第10回 論述方法
第11回 論述の学術性
第12回 論文の注（注記の原則）
第13回 論文の注（注の形式）
第14回 論文の注（欧文・和文の注）
第15回 修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（A4、900字×5枚）によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅱ

280162J0J
大学院
人間文化研究科 > 人間文化専攻
2単位 後期
木曜1限
—
石川 裕之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 先行研究についてまとめる
2. データや情報を収集する
3. 論文の構想を決定する
4. 論文のフォーマットについて把握する

〔授業計画〕

- 第1回 論文テーマと論文作成の手順について
第2回 論文の構成
第3回 序論の役割
第4回 論文の体裁
第5回 先行研究についてまとめる
第6回 先行研究について発表する
第7回 先行研究について批評する
第8回 論文の文章（文体と表記）
第9回 論文の文章（表記と用語）
第10回 論述方法
第11回 論述の学術性
第12回 論文の注（注記の原則）
第13回 論文の注（注の形式）
第14回 論文の注（欧文・和文の注）
第15回 修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書 (A4、900字×5枚) によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究III

280163A0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

必修

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
2. 文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
3. 中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する

〔授業計画〕

- 第 1 回 修士論文作成事始め:「特別研究I~II」の学習内容を振り返る
- 第 2 回 論文テーマの明確な設定
- 第 3 回 論文作成の手順の確認
- 第 4 回 論文構成の確認
- 第 5 回 先行研究の文献資料収集
- 第 6 回 先行研究の文献資料収集:先行研究と論文テーマの関連の確認
- 第 7 回 書誌情報の分析
- 第 8 回 書誌情報の整理
- 第 9 回 論文テーマに適合した論述方法とは:客観的論述を考える
- 第 10 回 論証の方法としての客観的論述(論文の目的の明確化)
- 第 11 回 論証の方法としての客観的論述(概念と定義の重要性)

第 12 回 論証の方法としての客観的論述(概念化の重要性)

第 13 回 論証の方法としての客観的論述(定義づけ)

第 14 回 論証の方法としての客観的論述(まとめ)

第 15 回 自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表(30分...口頭発表25分+質疑5分)の成績によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究III

280163B0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

必修

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
2. 文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
3. 中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する

〔授業計画〕

- 第 1 回 修士論文作成事始め:「特別研究I~II」の学習内容を振り返る

- 第 2 回 論文テーマの明確な設定
- 第 3 回 論文作成の手順の確認
- 第 4 回 論文構成の確認
- 第 5 回 先行研究の文献資料収集
- 第 6 回 先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
- 第 7 回 書誌情報の分析
- 第 8 回 書誌情報の整理
- 第 9 回 論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
- 第 10 回 論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
- 第 11 回 論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
- 第 12 回 論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
- 第 13 回 論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
- 第 14 回 論証の方法としての客観的論述（まとめ）
- 第 15 回 自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（30分...口頭発表25分+質疑5分）の成績によって評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅲ

280163C0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

必修

朱 鳳

〔科目の教育目標（Course Description）〕

修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
2. 文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
3. 中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	中間発表に向けての文献調査、論文執筆の意欲がまったくない。	中間発表に向けての文献調査、論文執筆の意欲はあるが、創造力、発信力は不十分である。	中間発表に向けて文献調査、論文執筆の意欲がある。中間発表もほぼできている。	中間発表に向けて文献調査、論文執筆の意欲がある。質の高い中間発表ができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 修士論文作成事始め：「特別研究Ⅰ～Ⅱ」の学習内容を振り返る
- 第 2 回 論文テーマの明確な設定
- 第 3 回 論文作成の手順の確認
- 第 4 回 論文構成の確認
- 第 5 回 先行研究の文献資料収集
- 第 6 回 先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
- 第 7 回 書誌情報の分析
- 第 8 回 書誌情報の整理
- 第 9 回 論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
- 第 10 回 論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
- 第 11 回 論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
- 第 12 回 論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
- 第 13 回 論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
- 第 14 回 論証の方法としての客観的論述（まとめ）
- 第 15 回 自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表 (30分...口頭発表25分+質疑5分) の成績によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究III

280163D0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

必修

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
2. 文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
3. 中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する

〔授業計画〕

第1回 修士論文作成事始め:「特別研究I~II」の学習内容を振り返る

第2回 論文テーマの明確な設定

第3回 論文作成の手順の確認

第4回 論文構成の確認

第5回 先行研究の文献資料収集

第6回

先行研究の文献資料収集:先行研究と論文テーマの関連の確認

第7回 書誌情報の分析

第8回 書誌情報の整理

第9回 論文テーマに適合した論述方法とは:客観的論述を考える

第10回 論証の方法としての客観的論述(論文の目的の明確化)

第11回 論証の方法としての客観的論述(概念と定義の重要性)

第12回 論証の方法としての客観的論述(概念化の重要性)

第13回 論証の方法としての客観的論述(定義づけ)

第14回 論証の方法としての客観的論述(まとめ)

第15回 自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表 (30分...口頭発表25分+質疑5分) の成績によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅲ

280163G0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

木曜5限

一

必修

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
2. 文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
3. 中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する

〔授業計画〕

- 第 1 回 修士論文作成事始め：「特別研究Ⅰ～Ⅱ」の学習内容を振り返る
 - 第 2 回 論文テーマの明確な設定
 - 第 3 回 論文作成の手順の確認
 - 第 4 回 論文構成の確認
 - 第 5 回 先行研究の文献資料収集
 - 第 6 回 先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
 - 第 7 回 書誌情報の分析
 - 第 8 回 書誌情報の整理
 - 第 9 回 論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
 - 第 10 回 論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
 - 第 11 回 論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
 - 第 12 回 論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
 - 第 13 回 論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
 - 第 14 回 論証の方法としての客観的論述（まとめ）
 - 第 15 回 自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（30分...口頭発表25分+質疑5分）の成績によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅲ

280163H0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

必修

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
2. 文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
3. 中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する

〔授業計画〕

- 第 1 回 修士論文作成事始め：「特別研究Ⅰ～Ⅱ」の学習内容を振り返る
- 第 2 回 論文テーマの明確な設定
- 第 3 回 論文作成の手順の確認
- 第 4 回 論文構成の確認
- 第 5 回 先行研究の文献資料収集
- 第 6 回 先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
- 第 7 回 書誌情報の分析
- 第 8 回 書誌情報の整理
- 第 9 回 論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
- 第 10 回 論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
- 第 11 回 論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
- 第 12 回 論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）

第 13 回 論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
 第 14 回 論証の方法としての客観的論述（まとめ）
 第 15 回 自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
 [定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート]
 実施しない
 [教育・学習の方法（Course Methods）]
 各指導教員から個別に指導を受ける。
 [準備学習の具体的な方法（Class Preparation）]
 論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
 [準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）]
 30
 [評価方法・評価基準（Evaluation）]
 研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（30分...口頭発表25分+質疑5分）の成績によって評価する。
 [留意事項（Other Information）]
 授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
 [テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）]
 担当の教員の指示による。
 [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 授業の中で随時紹介する。
 [参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

特別研究III

280163IOJ
 大学院
 人間文化研究科 > 人間文化専攻
 2単位 前期集中
 その他
 ー
 必修
 河野 有時

[科目の教育目標（Course Description）]
 修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。
 [教育・学習の個別課題（Course Objectives）]
 1. 論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
 2. 文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
 3. 中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する
 [授業計画]
 第 1 回 修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
 第 2 回 論文テーマの明確な設定
 第 3 回 論文作成の手順の確認

第 4 回 論文構成の確認
 第 5 回 先行研究の文献資料収集
 第 6 回 先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
 第 7 回 書誌情報の分析
 第 8 回 書誌情報の整理
 第 9 回 論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
 第 10 回 論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
 第 11 回 論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
 第 12 回 論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
 第 13 回 論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
 第 14 回 論証の方法としての客観的論述（まとめ）
 第 15 回 自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
 [定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート]
 実施しない
 [教育・学習の方法（Course Methods）]
 各指導教員から個別に指導を受ける。
 [準備学習の具体的な方法（Class Preparation）]
 論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
 [準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）]
 30
 [評価方法・評価基準（Evaluation）]
 研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（30分...口頭発表25分+質疑5分）の成績によって評価する。
 [留意事項（Other Information）]
 授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
 [テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）]
 担当の教員の指示による。
 [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 授業の中で随時紹介する。
 [参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

特別研究Ⅲ

280163E0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
2. 文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
3. 中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する

〔授業計画〕

- 第 1 回 修士論文作成事始め：「特別研究Ⅰ～Ⅱ」の学習内容を振り返る
- 第 2 回 論文テーマの明確な設定
- 第 3 回 論文作成の手順の確認
- 第 4 回 論文構成の確認
- 第 5 回 先行研究の文献資料収集
- 第 6 回 先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
- 第 7 回 書誌情報の分析
- 第 8 回 書誌情報の整理
- 第 9 回 論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
- 第 10 回 論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
- 第 11 回 論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
- 第 12 回 論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
- 第 13 回 論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
- 第 14 回 論証の方法としての客観的論述（まとめ）
- 第 15 回 自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（30分...口頭発表25分+質疑5分）の成績によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅲ

280163J0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

水曜3限

一

石川 裕之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
2. 文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
3. 中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する

〔授業計画〕

- 第 1 回 修士論文作成事始め：「特別研究Ⅰ～Ⅱ」の学習内容を振り返る
- 第 2 回 論文テーマの明確な設定
- 第 3 回 論文作成の手順の確認
- 第 4 回 論文構成の確認
- 第 5 回 先行研究の文献資料収集
- 第 6 回 先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
- 第 7 回 書誌情報の分析
- 第 8 回 書誌情報の整理
- 第 9 回 論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
- 第 10 回 論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
- 第 11 回 論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
- 第 12 回 論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
- 第 13 回 論証の方法としての客観的論述（定義づけ）

第 14 回 論証の方法としての客観的論述（まとめ）
 第 15 回 自己の修士論文の客観的論証方法を振り返る
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
 実施しない
 [教育・学習の方法 (Course Methods)]
 各指導教員から個別に指導を受ける。
 [準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]
 論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。
 [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]
 30
 [評価方法・評価基準 (Evaluation)]
 研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（30分...口頭発表25分+質疑5分）の成績によって評価する。
 [留意事項 (Other Information)]
 授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
 [テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]
 担当の教員の指示による。
 [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 授業の中で随時紹介する。
 [参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

特別研究Ⅳ

280164A0J
 大学院
 人間文化研究科 > 人間文化専攻
 2単位 後期集中
 その他
 一
 必修
 岩崎 れい

[科目の教育目標 (Course Description)]
 修士論文を完成し、成果発表を行う。
 [教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]
 1. フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
 2. 剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
 3. 修士論文を完成し、成果発表を行う
 [授業計画]
 第 1 回 修士論文作成に向けて「特別研究Ⅰ～Ⅲ」の学習内容を振り返る
 第 2 回 論文テーマとこれまでの論術内容の確認
 第 3 回 先行研究と論文テーマとの関連の再確認
 第 4 回 論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
 第 5 回 論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
 第 6 回 論文の論述と内容の確認（起承転結）

第 7 回 論文の論述と内容の確認（引用の表示）
 第 8 回 論文の論述と内容の確認（注の表示）
 第 9 回 論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
 第 10 回 論文の論述と内容の確認（図表の表示）
 第 11 回 論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
 第 12 回 論文の論述と内容の確認（本論）
 第 13 回 論文の論述と内容の確認（序論・結論）
 第 14 回 書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
 第 15 回 論文を完成する
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]
 実施しない
 [教育・学習の方法 (Course Methods)]
 各指導教員から個別に指導を受ける。
 [準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]
 論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。
 [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]
 30
 [評価方法・評価基準 (Evaluation)]
 提出された論文に対し、主査および副査の計3名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。
 [留意事項 (Other Information)]
 授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
 [テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]
 担当の教員の指示による。
 [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]
 授業の中で随時紹介する。
 [参考URL(URL for Reference)]
 [実務経験のある教員による実践的科目]

特別研究Ⅳ

280164B0J
 大学院
 人間文化研究科 > 人間文化専攻
 2単位 後期集中
 その他
 一
 必修
 鎌田 均

[科目の教育目標 (Course Description)]
 修士論文を完成し、成果発表を行う。
 [教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]
 1. フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
 2. 剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
 3. 修士論文を完成し、成果発表を行う

〔授業計画〕

- 第 1 回 修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
- 第 2 回 論文テーマとこれまでの論術内容の確認
- 第 3 回 先行研究と論文テーマとの関連の再確認
- 第 4 回 論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
- 第 5 回 論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
- 第 6 回 論文の論述と内容の確認（起承転結）
- 第 7 回 論文の論述と内容の確認（引用の表示）
- 第 8 回 論文の論述と内容の確認（注の表示）
- 第 9 回 論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
- 第 10 回 論文の論述と内容の確認（図表の表示）
- 第 11 回 論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
- 第 12 回 論文の論述と内容の確認（本論）
- 第 13 回 論文の論述と内容の確認（序論・結論）
- 第 14 回 書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
- 第 15 回 論文を完成する

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

提出された論文に対し、主査および副査の計3名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。

〔留意事項（Other Information）〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

280164C0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

朱 鳳

〔科目の教育目標（Course Description）〕

修士論文を完成し、成果発表を行う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
2. 剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
3. 修士論文を完成し、成果発表を行う

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
修士論文の完成度	修士論文を完成できない。	文献調査、論文執筆に取り込んでいるが、修士論文の完成度が低い。	積極的に文献調査、論文執筆に取り込んで、一定レベルの修士論文が完成できる。	積極的に文献調査、論文執筆に取り込んで、質の高い修士論文が完成できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る
- 第 2 回 論文テーマとこれまでの論術内容の確認
- 第 3 回 先行研究と論文テーマとの関連の再確認
- 第 4 回 論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
- 第 5 回 論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
- 第 6 回 論文の論述と内容の確認（起承転結）
- 第 7 回 論文の論述と内容の確認（引用の表示）
- 第 8 回 論文の論述と内容の確認（注の表示）
- 第 9 回 論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
- 第 10 回 論文の論述と内容の確認（図表の表示）
- 第 11 回 論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
- 第 12 回 論文の論述と内容の確認（本論）
- 第 13 回 論文の論述と内容の確認（序論・結論）
- 第 14 回 書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
- 第 15 回 論文を完成する

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文に対し、主査および副査の計3名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究IV

280164D0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文を完成し、成果発表を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
2. 剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
3. 修士論文を完成し、成果発表を行う

〔授業計画〕

- 第 1 回 修士論文作成に向けて「特別研究I~III」の学習内容を振り返る
- 第 2 回 論文テーマとこれまでの論術内容の確認
- 第 3 回 先行研究と論文テーマとの関連の再確認
- 第 4 回 論文の論述と内容の確認 (論文全体の構成)
- 第 5 回 論文の論述と内容の確認 (章・節の構成)
- 第 6 回 論文の論述と内容の確認 (起承転結)
- 第 7 回 論文の論述と内容の確認 (引用の表示)
- 第 8 回 論文の論述と内容の確認 (注の表示)
- 第 9 回 論文の論述と内容の確認 (引用文献と参考文献)
- 第 10 回 論文の論述と内容の確認 (図表の表示)
- 第 11 回 論文の論述と内容の確認 (剽窃等の有無)
- 第 12 回 論文の論述と内容の確認 (本論)

第 13 回 論文の論述と内容の確認 (序論・結論)

第 14 回 書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化

第 15 回 論文を完成する

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート)〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文に対し、主査および副査の計3名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究IV

280164G0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

金曜 5限

一

必修

平野 美保

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文を完成し、成果発表を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
2. 剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
3. 修士論文を完成し、成果発表を行う

〔授業計画〕

- 第 1 回 修士論文作成に向けて「特別研究I~III」の学習内容を振り返る
- 第 2 回 論文テーマとこれまでの論術内容の確認
- 第 3 回 先行研究と論文テーマとの関連の再確認
- 第 4 回 論文の論述と内容の確認 (論文全体の構成)

- 第 5 回 論文の論述と内容の確認 (章・節の構成)
- 第 6 回 論文の論述と内容の確認 (起承転結)
- 第 7 回 論文の論述と内容の確認 (引用の表示)
- 第 8 回 論文の論述と内容の確認 (注の表示)
- 第 9 回 論文の論述と内容の確認 (引用文献と参考文献)
- 第 10 回 論文の論述と内容の確認 (図表の表示)
- 第 11 回 論文の論述と内容の確認 (剽窃等の有無)
- 第 12 回 論文の論述と内容の確認 (本論)
- 第 13 回 論文の論述と内容の確認 (序論・結論)
- 第 14 回 書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
- 第 15 回 論文を完成する

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文に対し、主査および副査の計 3 名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究IV

280164H0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文を完成し、成果発表を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する

2. 剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する

3. 修士論文を完成し、成果発表を行う

〔授業計画〕

第 1 回 修士論文作成に向けて「特別研究I~III」の学習内容を振り返る

第 2 回 論文テーマとこれまでの論術内容の確認

第 3 回 先行研究と論文テーマとの関連の再確認

第 4 回 論文の論述と内容の確認 (論文全体の構成)

第 5 回 論文の論述と内容の確認 (章・節の構成)

第 6 回 論文の論述と内容の確認 (起承転結)

第 7 回 論文の論述と内容の確認 (引用の表示)

第 8 回 論文の論述と内容の確認 (注の表示)

第 9 回 論文の論述と内容の確認 (引用文献と参考文献)

第 10 回 論文の論述と内容の確認 (図表の表示)

第 11 回 論文の論述と内容の確認 (剽窃等の有無)

第 12 回 論文の論述と内容の確認 (本論)

第 13 回 論文の論述と内容の確認 (序論・結論)

第 14 回 書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化

第 15 回 論文を完成する

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文に対し、主査および副査の計 3 名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

280164IOJ
大学院
人間文化研究科 > 人間文化専攻
2単位 後期集中
その他
—
必修
河野 有時

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文を完成し、成果発表を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
2. 剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
3. 修士論文を完成し、成果発表を行う

〔授業計画〕

- 第 1 回 修士論文作成に向けて「特別研究Ⅰ～Ⅲ」の学習内容を振り返る
- 第 2 回 論文テーマとこれまでの論術内容の確認
- 第 3 回 先行研究と論文テーマとの関連の再確認
- 第 4 回 論文の論述と内容の確認 (論文全体の構成)
- 第 5 回 論文の論述と内容の確認 (章・節の構成)
- 第 6 回 論文の論述と内容の確認 (起承転結)
- 第 7 回 論文の論述と内容の確認 (引用の表示)
- 第 8 回 論文の論述と内容の確認 (注の表示)
- 第 9 回 論文の論述と内容の確認 (引用文献と参考文献)
- 第 10 回 論文の論述と内容の確認 (図表の表示)
- 第 11 回 論文の論述と内容の確認 (剽窃等の有無)
- 第 12 回 論文の論述と内容の確認 (本論)
- 第 13 回 論文の論述と内容の確認 (序論・結論)
- 第 14 回 書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
- 第 15 回 論文を完成する

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文に対し、主査および副査の計3名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅳ

280164EOJ
大学院
人間文化研究科 > 人間文化専攻
2単位 後期集中
その他
—
中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文を完成し、成果発表を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
2. 剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
3. 修士論文を完成し、成果発表を行う

〔授業計画〕

- 第 1 回 修士論文作成に向けて「特別研究Ⅰ～Ⅲ」の学習内容を振り返る
- 第 2 回 論文テーマとこれまでの論術内容の確認
- 第 3 回 先行研究と論文テーマとの関連の再確認
- 第 4 回 論文の論述と内容の確認 (論文全体の構成)
- 第 5 回 論文の論述と内容の確認 (章・節の構成)
- 第 6 回 論文の論述と内容の確認 (起承転結)
- 第 7 回 論文の論述と内容の確認 (引用の表示)
- 第 8 回 論文の論述と内容の確認 (注の表示)
- 第 9 回 論文の論述と内容の確認 (引用文献と参考文献)
- 第 10 回 論文の論述と内容の確認 (図表の表示)
- 第 11 回 論文の論述と内容の確認 (剽窃等の有無)
- 第 12 回 論文の論述と内容の確認 (本論)
- 第 13 回 論文の論述と内容の確認 (序論・結論)
- 第 14 回 書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
- 第 15 回 論文を完成する

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文に対し、主査および副査の計3名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究IV

280164J0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

火曜3限

—

石川 裕之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文を完成し、成果発表を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
2. 剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
3. 修士論文を完成し、成果発表を行う

〔授業計画〕

- 第1回 修士論文作成に向けて「特別研究I~III」の学習内容を振り返る
- 第2回 論文テーマとこれまでの論術内容の確認
- 第3回 先行研究と論文テーマとの関連の再確認
- 第4回 論文の論述と内容の確認 (論文全体の構成)
- 第5回 論文の論述と内容の確認 (章・節の構成)
- 第6回 論文の論述と内容の確認 (起承転結)
- 第7回 論文の論述と内容の確認 (引用の表示)
- 第8回 論文の論述と内容の確認 (注の表示)
- 第9回 論文の論述と内容の確認 (引用文献と参考文献)
- 第10回 論文の論述と内容の確認 (図表の表示)
- 第11回 論文の論述と内容の確認 (剽窃等の有無)
- 第12回 論文の論述と内容の確認 (本論)
- 第13回 論文の論述と内容の確認 (序論・結論)
- 第14回 書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
- 第15回 論文を完成する

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解、およびその整理を行い、客観的論述の技術を学習し、論文の構成を含め、全体を点検する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文に対し、主査および副査の計3名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

読書支援プログラム演習

280117N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

火曜1限

—

60

選択必修

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この演習では、子どもたちに対する読書支援として、どのようなプログラムが実施されているかを知り、その特徴や課題について考察することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 日本・米国・英国を中心に、子どもへの読書支援のために現在実施されている国の施策や民間の取組について学ぶ。
2. 図書館を中心に行われている子どもたちへの読書支援のプログラムについて学ぶ。
3. 国語科教育と読書支援との関連性について学び、考察する。
4. 子どもたちへの読書支援の取組が、現在抱えている課題について考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	子どもの読書に関する基本的な知識がない。	子どもの読書に関する基本的な知識がある。	子どもの読書の背景にある社会状況について理解している。	子どもの読書について、社会背景や教育と結び付けて考察することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 1. 日本における読書支援プログラムの現状と課題
(1) 法律と行政施策
- 第 2 回 1. 日本における読書支援プログラムの現状と課題
(2) 学校での取り組み
- 第 3 回 1. 日本における読書支援プログラムの現状と課題
(3) 地域社会の取り組み
- 第 4 回 1. 日本における読書支援プログラムの現状と課題
(4) 発表・問題提起
- 第 5 回 2. 諸外国における読書支援プログラムの現状と課題
(1) 社会背景と行政施策
- 第 6 回 2. 諸外国における読書支援プログラムの現状と課題
(2) 家族支援の意義
- 第 7 回 2. 諸外国における読書支援プログラムの現状と課題
(3) 貧困家庭・少数民族の子どもたちへの支援
- 第 8 回 2. 諸外国における読書支援プログラムの現状と課題
(4) 発表・問題提起
- 第 9 回 3. 英国におけるブックスタート
(1) 行政施策とブックスタート
- 第 10 回 3. 英国におけるブックスタート
(2) ハンディキャップを持つ子どもたちへの支援
- 第 11 回 3. 英国におけるブックスタート
(3) 学力向上政策との関わり
- 第 12 回 3. 英国におけるブックスタート
(4) 発表・問題提起
- 第 13 回 4. 図書館における読書支援プログラムの現状と課題
- 第 14 回 国語科教育と読書支援の関連性とその課題
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 基本的な事項や事例を文献等で学ぶ。
2. 各自が関心を持った読書支援プログラムについて、法律・施策・取組事例及びその研究について調べ、その特徴と課題について考察する。
3. 提出物に対するフィードバックは、口頭および提出物へのコメント記入によって行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 法律やニュース報道などに、日頃から関心を持つ。
2. 文献をできるだけ多く読む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点及び授業中の課題発表50%、学期末レポート50%で評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

フィールドワークやゲスト講師による授業を行うこともある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

京都市、福知山市、大阪府などの自治体において、委員長または委員として、子ども読書活動推進計画の策定に携わっている。

日中言語交流史演習

280119N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

木曜1限

ー

60

選択必修

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

中国では宣教師たちの尽力によって、早くから辞書の編纂と聖書の翻訳が手がけられた。これらの成果は当然日本の英学及び西洋知識の学習に影響を与えた。この科目は幕末と明治初期の和英字典と翻訳書づくりにおける英華字典の影響について研究し、多文化理解における漢語と漢字の重要性を明らかにしたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 和英字典と華英字典の語彙比較とお互いの影響に関する文献を講読する。

2. 和製漢語作りにおける日本人の漢語力とその役割を把握する。
3. 授業の最終回において、レポートを返却し、振り返り学習をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	日中間の漢字語彙交流について全く理解していない。	日中間の漢字語彙交流について少し理解出来る。発表にも参加する。	日中間の漢字語彙交流について理解し、発表にも参加する。その上、議論にも積極的に参加する。	日中間の漢字語彙交流について理解し、議論にも積極的に参加する。質の高い発表ができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
- 第 2 回 日中言語交流における宣教師の役割
- 第 3 回 宣教師の翻訳と漢語の役割ーRobert Morrisonと「華英・英華字典」(1815-1823)
- 第 4 回 モリソン (Robert Morrison)「華英・英華字典」(1815-1823)の日本への影響ー唐通事の場合
- 第 5 回 モリソン (Robert Morrison)「華英・英華字典」(1815-1823)の日本への影響ー蘭通詞の場合
- 第 6 回 ロブシャイト (W. Lobscheid)『英華字典』(1866-1869)の日本への影響
- 第 7 回 発表1ー日本の西書伝来と在華宣教師の関係について
- 第 8 回 福沢諭吉の『増訂華英通話』(1860)
- 第 9 回 堀達之助と『英和対訳袖珍辞書』(1862)
- 第 10 回 中村敬字と『英華和訳字典』(1879)
- 第 11 回 発表2ー幕末明治期の日本人と洋学
- 第 12 回 英華字典、英和字典を通して、日中共通語彙について考察
- 第 13 回 英華字典、英和字典を通して、宣教師と日中共通語彙について考察
- 第 14 回 発表3ー宣教師と洋学者の交流について、レポート提出
- 第 15 回 まとめ。レポート返却、振り返り学習

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

資料の講読を中心とするが、受講生の発表も重視する。また、発表後に提出されたレポートに対する意見と評価は、最終回のまとめで行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 日中近代語彙に関する文献と論文を丁寧に読む。
2. 関連する研究会に参加することを推奨する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

50

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (発表を含む、15%)、レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業毎にプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『近代日中学術用語の形成と伝播 地理学用語を中心に』/荒川清秀/白帝社/ 1997年/

『近代日中新語の創出と交流』/朱京偉/白帝社/ 2003年/

『モリソンの「華英・英華字典」と東西文化交流』/朱鳳/白帝社/2009年/

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語学演習

280115N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

月曜 4限

ー

60

選択必修

蜂矢 真弓

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

日本最古の和歌集である『萬葉集』の中で用いられている場所を表す語彙について、どのような意味で用いられているのかを調査・検討し、発表することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 担当語彙について、辞書を引いて調査する。
2. 担当語彙について、索引を引いて、担当語彙が含まれている和歌番号を調査する。
3. 担当語彙が表す場所について調査・検討し、発表する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
文献を読み、研究課題にとりくむ	文献を読むことができず、研究課題にとりくむことができない。	文献をある程度読むことができ、研究課題にとりくむことができる。	文献をかなり読むことができ、研究課題に積極的にとりくむことができる。	文献を深く詳細に読むことができ、研究課題にきわめて積極的にとりくむことができる。

〔授業計画〕

第 1 回 萬葉集概説

第 2 回 漢字概説 (正音)

第 3 回 漢字概説 (正訓)

- 第 4 回 万葉仮名概説（借音）
- 第 5 回 万葉仮名概説（借訓）
- 第 6 回 万葉仮名を読む練習
- 第 7 回 上代を中心とした辞書を引く練習
- 第 8 回 万葉仮名表記の索引を引く練習
- 第 9 回 萬葉集から用例を採取する練習
- 第 10 回 レジюме作成方法の説明
- 第 11 回 受講者による発表と討議1「ミナト〔港〕」
- 第 12 回 受講者による発表と討議2「アリソ〔荒磯〕」
- 第 13 回 受講者による発表と討議3「ヲカ〔丘〕」
- 第 14 回 受講者による発表と討議4「ミヤコ〔京〕」
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 万葉仮名を読む練習をする。
2. 担当語彙について辞書を引く。
3. 担当語彙について索引を引く。
4. 担当語彙について用例を採取する。
6. 口頭発表する。
7. 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。
8. 受講生の専攻分野を考慮し、その方面の文献講読等を行うこともある。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

担当語彙についてのレジюмеを作成し、口頭発表の準備を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業参加度30点、口頭発表70点による総合評価である。

〔留意事項（Other Information）〕

受講学生数や進捗状況等により、内容や順序が変更になる場合がある。

受講生の専攻分野や関心領域を考慮し、授業予定を変更する場合がある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

プリントを配布する

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本語学特論

280034NOJ

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

木曜3限

—

60

蜂矢 真弓

〔科目の教育目標（Course Description）〕

どのような歴史の変遷の末に現在我々が話し聞き読み書きする日本語に至ったかという観点から、国語学の内、音韻・表記・語彙の分野について修得出来るようになることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 日本語の文字、表記の特徴・歴史について学習する。
2. 日本語の音声、音韻の歴史について学習する。
3. 日本語の語彙に関する知識について学習する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	日本語の文字・音韻の歴史について、まったく理解していない。	日本語の文字・音韻の歴史について、ある程度理解している。	日本語の文字・音韻の歴史について、よく理解している。	日本語の文字・音韻の歴史について、深く理解している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 漢字
- 第 2 回 音読み
- 第 3 回 訓読み
- 第 4 回 漢字音
- 第 5 回 表意文字
- 第 6 回 表音文字
- 第 7 回 万葉仮名
- 第 8 回 上代特殊仮名遣
- 第 9 回 あめつちの詞
- 第 10 回 たみへの歌
- 第 11 回 いろは歌
- 第 12 回 五十音図
- 第 13 回 母音の連続
- 第 14 回 音便
- 第 15 回 被覆形・露出形

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 講義を受ける。
2. 小テストを受験する。
3. 次週に公開される小テストの解答を受けて、復習する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
配布プリントを熟読し、辞典類で調べ、講義までに準備してくる。
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
評価は、授業参加度30点、小テスト70点による総合評価である。

〔留意事項 (Other Information)〕
受講学生数や進捗状況等により、内容や順序が変更になる場合がある。
受講生の専攻分野や関心領域を考慮し、授業予定は変更する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本文学演習

280120N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

木曜 4限

ー

60

選択必修

河野 有時

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

私たちが文学作品に対するとき、私たちは何らかの立場や見方によって解釈を行っている。私たちは多くの場合そのことを意識して読書しないが、この授業ではそういう立場や見方に自覚的なことを目標とする。それにより、文学研究における多様な立場や見方としての方法や理論への理解を深めることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 文学研究の方法を理解する。
2. 文学研究に用いられる術語の意味を理解する。
3. 読書行為と作品の関係性を理解する。
4. 文学研究の方法や術語について解説し、課題を論述する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力	課題に主体的に取り組もうとすることができていない。	課題に主体的に取り組んでいる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考察することができる。
文学研究に関する知識	文学研究に用いられている術語について理解できていない。	文学研究に用いられている術語について理解している。	文学研究に用いられている術語について理解し、他の文献や術語を調べることができる。	文学研究に用いられている術語について理解し、他の文献や述語とのかかわりから背景を理解できている。
文学研究に対する理解力	文学研究の方法について理解することができていない。	文学研究の方法について理解している。	文学研究の方法について理解し、他の文献や術語を調べることができる。	文学研究の方法について理解し、他の文献や述語とのかかわりから背景を理解できている。
課題について発表する力	課題を整理し解説することができない。	課題を整理し解説することができる。	課題を整理し解説し、問題点を見つげることができる。	課題を整理し解説し、問題点を論述することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 批評理論の展開
- 第 3 回 作家と作者
- 第 4 回 作者と読者
- 第 5 回 作品とテキスト
- 第 6 回 語りと語り手
- 第 7 回 フェミニズム批評
- 第 8 回 都市と文学
- 第 9 回 図像と文学
- 第 10 回 詩と散文
- 第 11 回 文学史とは
- 第 12 回 出版とメディア
- 第 13 回 文学研究とサブカルチャー
- 第 14 回 国語教育と文学研究
- 第 15 回 まとめと今後の課題

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業は演習形式で行う。
2. 担当者は発表にあたって資料を収集し準備する。
3. 準備した資料に即して発表し、他の受講者と議論する。
4. 授業の終了時に発表内容にかかわる感想、意見を提出

する。

4. 議論によって明らかになった課題について次回に補足説明する。

5. 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 担当箇所に出てくる術語の意味を調べる。
2. 担当箇所に関連する参考文献や資料を読み、自分の考えをまとめておく。
3. 担当箇所を分かりやすく解説するためにはどのように表現すべきか検討する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度(40%)と発表内容(60%)とに基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

文化学研究実践論

280015N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

水曜3限

ー

60

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業では、研究方法や研究発表の方法について学び、それをもとに自分でも研究発表をしてみることによって、研究を進めていく上での適切なプロセスを身につける。そして、M1の1月に実施される「構想発表会」を成功させることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 自分の研究に適した研究方法を見つける。
2. 他の人の研究発表から、適切な研究方法や効果的な研究発表の方法を学ぶ。
3. よりよい形での研究発表を実践する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

創造・発信力	研究実践論について全く理解していない。研究実践しようとしてもしない。	研究実践論について、ある程度の理解があるが、授業での研究発表、議論にあまり参加しない。構想発表の完成度が低い	研究実践論について理解がある。授業での研究発表、議論にも参加する。構想発表はある程度できる。	研究実践論について理解があり、授業での研究発表、議論にも参加し、構想発表の完成度が高い。
--------	------------------------------------	--	--	--

〔授業計画〕

- 第1回 前期の「研究方法論」の授業内容の復習
- 第2回 論文テーマの発表(各自)とその研究方法に関する議論
- 第3回 研究テーマと研究発表方法の関連について整理(サンプル論文利用)
- 第4回 自分が選んだ文献の紹介(1)図書
- 第5回 自分が選んだ文献の紹介(2)論文
- 第6回 自分が研究発表する可能性のある「学会・研究会」の種類の調査と報告
- 第7回 自分の研究分野に関する「学会・研究会」の参加報告
- 第8回 授業内における模擬研究発表(1)導入
- 第9回 授業内における模擬研究発表(2)運用
- 第10回 授業内における模擬研究発表(3)応用
- 第11回 「学会・研究会」での研究発表(1)導入
- 第12回 「学会・研究会」での研究発表(2)応用
- 第13回 各自の修士論文に関する研究方法の決定と具体的な作業予定の確定
- 第14回 修士論文の構想発表会の実施
- 第15回 構想発表会の報告とこれからの見通しを発表(その内容は、この授業の最終レポートとして提出すること)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業時の議論、研究発表を組み合わせで行う。発表に対するフィードバックは発表時の質疑応答において行い、レポートへのフィードバックは提出後学生に口頭で行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業の講義対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、構想発表を含む研究発表とレポート80%、授業時の議論への参加20%とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

特に第1回~3回は、前期における研究の導入とそれを今後の研究に発展させていく接続の意義を持つ内容である。院

生一人ひとりが大学院の研究についての明確な意識をもって臨むことが求められる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

文化学研究方法論

280014NOJ

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

火曜2限

ー

60

必修

鷲見 朗子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、大学院において修士論文を書くための明確な理念をたて、必要な心構えと作法を学び、しっかりと方法論を構築することである。そのことにより、各自が論文の基本構想を組み立て、それに沿って大学院における研究成果としての修士論文を書き上げられるようにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.問題提起
- 2.論文の内容・形式
- 3.先行研究の調査・整理の意義
- 4.方法論の選択と確立
- 5.結果・成果のまとめ
- 6.引用・参考文献の重要性

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	研究方法の基本が理解できている。	研究方法を理解し、記述ができるが、詳細が不明。	研究方法を明瞭に記述でき、詳細や全体像を把握している。	研究方法を明瞭に記述し、目的を達成する過程が明らかにできる。
言語力				

思考・解決力	研究目的と結論があいまいである。参考文献リストを作成できない。	研究目的と結論が記述できる。引用や参考文献の体裁が不十分である。	研究目的と結論が対応している。引用や参考文献の体裁が正しい。	研究目的と結論が対応し、論点が決まっている。引用や参考文献の量が十分に適切である。
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
 第 2 回 研究に関わる様々な組織 (学会、学術誌、研究機関など)
 第 3 回 論文テーマの選び方、問題意識 (オンライン)
 第 4 回 先行研究の調査、検索、収集の重要性と実践
 第 5 回 収集文献の整理 (オンライン)
 第 6 回 方法論1 (担当教員の例)
 第 7 回 方法論2 (教育学など ゲスト・スピーカー) (オンライン)
 第 8 回 方法論3 (日本文学など ゲスト・スピーカー)
 第 9 回 論文の基本コンセプト発表・議論 第1段階
 第 10 回 論文の形式 (オンライン)
 第 11 回 論文の表現
 第 12 回 プレゼンテーションの方法 (オンライン)
 第 13 回 中間の研究経過報告に求められる内容 (オンライン)
 第 14 回 論文の基本コンセプト発表・議論 第2段階
 第 15 回 論文の執筆計画とまとめ
 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義
- ・論文読解
- ・オンライン検索
- ・資料収集
- ・発表

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・文献読解
- ・読解したものの要約
- ・発表用のレジュメ作成
- ・発表用のパワーポイント資料作成
- ・課題に対するフィードバックは授業のなかで受ける

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ・レポート (60%)
- ・発表 (20%)
- ・授業参加・課題 (20%)

〔留意事項 (Other Information)〕

研究分野別の視点から方法、先行研究、書誌情報、あるいは分野の特殊なアカデミックな姿勢などについての導入を行うため、ほかの教員がゲストスピーカーとして参加することもある。また、外部講師による授業やワークショップを行ったり、授業で学外フィールドワークへ出かけたりすることもある。オンラインによる授業回を変更することもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『文章を論理で読み解くためのクリティカル・リーディング』 / 福澤 一?? / NHK 出版新書 / 2012 / ASIN: B07DHBCZ6T 学内販売無

『最新版 大学生のためのレポート・論文術』 / 小笠原喜康 / 講談社現代新書 / 2018 / 978-4065135020 学内販売無

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本近代文学特論

280030N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

木曜 4限

河野 有時

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は近現代の短編小説を、これまでの研究や注釈を参照しながら講読していく。講読にあたっては、小の題材や構成、言葉や表現を分析し、短編小説固有の世界について考える。また、分析や考察した内容および自分が気づいた作品の魅力を表現し、人に伝えられる力を養う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 短編小説に対する研究文献を読み、文学研究の方法について学ぶ。
2. 短編小説の言葉や表現から、近代小説の方法について学ぶ。
3. 短編小説を社会文化背景を視野に入れながら分析を試みる。
4. 短編小説読み、自身が考えたことを論述する力を養う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力	課題に主体的に取り組もうとすることができていない。	課題に主体的に取り組んでいる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考察することができる。
文学研究に関する知識	文学研究に用いられている術語について理解できていない。	文学研究に用いられている術語について理解している。	文学研究に用いられている術語について理解し、他の文献や術語を調べることができる。	文学研究に用いられている術語について理解し、他の文献や述語とのかかわりから背景を理解できている。
文学研究に対する理解力	文学研究の方法について理解することができていない。	文学研究の方法について理解している。	文学研究の方法について理解し、他の文献や術語を調べることができる。	文学研究の方法について理解し、他の文献や述語とのかかわりから背景を理解できている。
課題について発表する力	課題を整理し解説することができない。	課題を整理し解説することができる。	課題を整理し解説し、問題点を見つげることができる。	課題を整理し解説し、問題点を論述することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 長編小説と短編小説
- 第 3 回 夏目漱石「倫敦塔」
- 第 4 回 森?外「高瀬舟」
- 第 5 回 田山花袋「一兵卒」
- 第 6 回 国木田独歩「窮死」
- 第 7 回 国木田独歩「竹の木戸」
- 第 8 回 芥川龍之介「六の宮の姫君」
- 第 9 回 芥川龍之介「一塊の土」
- 第 10 回 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」
- 第 11 回 太宰治「走れメロス」
- 第 12 回 宮沢賢治「注文の多い料理店」
- 第 13 回 村上春樹「夜中の汽笛について、あるいは物語の効用について」
- 第 14 回 短編小説史を考える
- 第 15 回 まとめと今後の課題

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

レポートを実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業は講義形式と演習形式で行う。
2. 担当者は発表にあたって資料を収集し準備する。
3. 準備した資料に即して発表し、他の受講者と議論する。

4. 授業の終了時に発表内容にかかわる感想、意見を提出する。

4. 議論によって明らかになった課題について次回に補足説明する。

5. 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 担当箇所に出てくる術語の意味を調べる。

2. 担当箇所に関連する参考文献や資料を読み、自分の考えをまとめておく。

3. 担当箇所を分かりやすく解説するためにはどのように表現すべきか検討する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (40%) と発表及びレポートの内容 (60%) とに基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本伝統文化特論

280037N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

金曜 3限

鳥居本 幸代

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

衣、食、住の視点から、京都をキーワードにした日本の伝統文化について探求する。衣の視点では大袖が発達した平安朝から、小袖中心と変貌した江戸時代にいたる変遷をたどる。食の視点からは、現代の和食が確立した江戸時代の食生活までの経緯を探る。住の視点においては、平安朝から町屋が確立した江戸時代の住生活までを概観し、衣との関わりについても明らかにする。これらを通して、修士論文のテーマを選択する方向へ、研究を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1 時代背景の理解

2 文献資料および、絵画資料による理解

3 体験による理解 絵画資料から伝統文化を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 日本の伝統文化について概説

第 2 回 平安朝ファッションと有職故実

第 3 回 平安朝ファッションと有職文様

第 4 回 小袖の発達と染織文化

第 5 回 小袖雛型本にみる流行の発信

第 6 回 衣にまつわる伝統行事

第 7 回 食文化の変遷を概観する

第 8 回 精進料理とは

第 9 回 京料理の発達と京都の食文化

第 10 回 茶懐石について

第 11 回 食にまつわる伝統行事

第 12 回 寝殿造にみる平安朝の住環境

第 13 回 茶室建築と茶の湯

第 14 回 名物裂について

第 15 回 住環境の変化とインテリア

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

数回のレポートの提出を求め、提出翌週の授業においてフィードバックを行う。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義形式とゼミ形式を併用し、フィールドワークを実施することもある

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

第1回講義以後、次回講義のプリントを配布して課題を提示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度 (30%)、授業内での発表 (20%)、学期末レポート (50%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

280049NOJ

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

木曜3限

蜂矢 真弓

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

古典文法における助動詞について学習する。そして、学校文法の教育方針の変更点について学習することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 古典文法の助動詞の活用表について学習する。
2. 助動詞の文法的意味について学習する。
3. 助動詞の文法的意味の判別方法について学習する。
4. 学校文法の教育方針の変更点について学習する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
助動詞の文法的意味	助動詞の文法的意味について理解していない	助動詞の文法的意味について、おおむね理解している	助動詞の文法的意味について、正しく理解している	助動詞の文法的意味を判別することができる
助動詞の活用表	助動詞の活用表が書けない	助動詞の活用表が、おおむね書ける	助動詞の活用表が正しく書ける	助動詞の活用表の、学校文法の教育方針の変更点について理解できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 品詞の分類
- 第 2 回 活用の種類
- 第 3 回 活用形
- 第 4 回 文法的意味
- 第 5 回 受身の助動詞
- 第 6 回 使役の助動詞
- 第 7 回 過去の助動詞
- 第 8 回 完了の助動詞
- 第 9 回 推量の助動詞
- 第 10 回 推定の助動詞
- 第 11 回 断定の助動詞
- 第 12 回 打消の助動詞
- 第 13 回 希望の助動詞
- 第 14 回 その他の助動詞
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義により、学校文法の助動詞の活用表の書き方を学習する。
2. 講義により、助動詞の文法的意味と判別法について学習する。
3. 小テストを受験する。
4. 次週に公開される小テストの解答を受けて、復習する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

小テストに向けて、講義内容について復習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度30点、小テスト70点による総合評価である。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講学生数や進捗状況等により、内容や順序が変更になる場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配布する。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理統計学特論（多変量解析）

270013NOJ
大学院
心理学研究科
2単位 集中
その他
後藤 伸彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理学における研究対象の中から、多様で多くの変量（変数）を含むデータの統計的解析法である多変量解析について、その技法の基本的理論と応用的実践的技法を理解、習得する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

本特論では、多変量解析の基本としてデータ構造とその表現について習得するとともに、主要な変数を抽出する為の方法として因子分析を、変数間の関係を検討する為の方法として重回帰分析、共分散構造分析を習得する。また、これらの分析を用いた論文内容の理解が深まることを目的とする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	多変量解析の知識がなく、その分析方法も知らない	多変量解析の方法が理解できる	多変量解析を用いた研究の理解ができる	多変量解析による研究の問題点を批判的に検討できる
言語力				分析結果について文章や口頭で説明できる
思考・解決力	多変量解析を用いて研究する意味がわからない	多変量解析の方法が研究に用いられる利点が見える	多変量解析を用いた研究の意義を考察することができる	多変量解析を用いた研究計画を立てることができる

〔授業計画〕

- 第1回目 因子分析の基本
- 第2回目 因子分析のサンプルサイズ
- 第3回目 直交回転と斜交回転、主因子法と最小二乗法、最尤法
- 第4回目 因子分析のためのデータ収集
- 第5回目 因子分析の実施
- 第6回目 因子分析の結果の解釈
- 第7回目 因子分析の実践
- 第8回目 探索的因子分析と確認的因子分析
- 第9回目 質問紙の信頼性と妥当性
- 第10回目 相関と共分散による因果関係の検討
- 第11回目 単回帰と重回帰
- 第12回目 媒介分析
- 第13回目 調整分析

第14回目 重回帰分析とパス解析

第15回目 研究にパス解析を用いるときに注意すべきこと
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

多変量解析の基本的理論に関する講義とともに、データを用いて分析方法についても学ぶ。使用ソフトは、SPSS、AMOS、HADを使用する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

SPSSやAMOS、HADの使用方法について事前に把握しておくことが望ましい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への参加度（100%）により評価する

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

「SPSSとAmosによる心理・調査データ解析---因子分析・共分散構造分析まで」（東京図書, 2018年）

「実践形式で学ぶ SPSSとAmosによる心理・調査データ解析」（東京図書, 2007年）

「研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析」（東京図書, 2005年）

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

認知心理学特論

270016NOJ
大学院
心理学研究科
2単位 前期
月曜3限
廣瀬 直哉

〔科目の教育目標（Course Description）〕

人間の認知のメカニズムを科学的に分析し、その過程を理解するには、心理学のみならず、幅広い学問を含んだ学際的な研究に触れることが必要である。特に、認知神経科学の研究は以前は仮説構成体でしかなかった認知モジュールの神経基盤を解明しつつある。本特論では、認知心理学だけでなく、認知神経科学の最近の知見に触れ、人間の認知のメカニズムについての理解を深めることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 認知過程の神経基盤についての理解
2. 知覚・記憶などの基礎的認知メカニズムについての理解
3. 言語・思考などの高次の認知過程についての理解

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	人の認知メカニズムに関する概念・知識を理解し、説明することができない。	人の認知メカニズムに関する概念・知識を理解し、説明することができる。	レベル2に加えて、その概念・知識の応用を理解し、説明することができる。	レベル3に加えて、その概念・知識を活用して問題解決をすることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 認知機構の神経基盤
- 第 3 回 視覚
- 第 4 回 聴覚
- 第 5 回 認知
- 第 6 回 記憶
- 第 7 回 学習
- 第 8 回 知識
- 第 9 回 言語
- 第 10 回 意識
- 第 11 回 感情
- 第 12 回 概念
- 第 13 回 意思決定
- 第 14 回 問題解決
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主として演習形式で授業を進める。受講生にあらかじめ決められたテーマに関する英語文献を読んでもらい、議論行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

予習用の英語文献を指定するので、それを授業前に読んでおくことが求められる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

テストは実施せず、授業参加度(100%)により評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

英語の書籍、論文を読み進めるので、英文読解が得意でない学生は予習に時間がかかることを覚悟した上で受講すること。

なお、受講生の人数や関心により、授業内容や課題を変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『Cognitive Neuroscience: A Very Short Introduction』/Richard Passingham/Oxford Univ Press/2016/0198786220

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理統計学特論

270017N0J

大学院
心理学研究科
2単位 後期
金曜 5限
森下 正修

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代の多くの心理学研究は数量的研究です。研究テーマに沿った実験や調査をおこない、得られたデータを分析して、自説を検証するための材料を得ます。したがって、研究者は自分のデータにふさわしい統計手法を選び、使うことができなければなりません。これは、心理学の研究者だけでなく、実証データをカウンセリングに生かそうという臨床家や、生徒のデータなどから適切な教育評価をしようという教育者にとっても欠かせないスキルといえます。

本講義では、こうした統計手法の理論的背景を学ぶとともに、サンプルデータに対して実際にコンピュータで分析をおこないます。こうした実習を通じて、分析の手順や留意点に関して体験的に理解することをめざします。

統計ソフトとしては主にSPSSを使用しますが、分析に応じて他のソフトも随時取り上げて使い方を説明します。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

記述統計全般と、相関分析 (積率相関係数、順位相関係数)、t検定、1要因~3要因分散分析、順序尺度データの分析、名義尺度データの分析といった推測統計、さらに多変量解析 (因子分析、重回帰分析) について、理論的枠組を理解しコンピュータ上で実施する際の手順を身につけること。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
心理統計に関する全体的理解	心理統計の基礎的な概念がわからない	心理統計で示される結果の意味がある程度わかる	心理統計の手法まで含めてある程度わかる	自身や先行研究のデータに適した統計手法がわかる
統計前のデータ処理	実験・調査で得たローデータの処理がわからない	ローデータを統計ソフトに入力・管理することができる	ローデータを統計にかけられるようにある程度処理できる	ローデータを統計に適した形に処理しておくことができる
記述統計全般の知識・スキル	記述統計の意味がよくわからない	記述統計で示される結	記述統計の様々な指標	自身のデータに対し必要な記述統

		果がある程度わかる	の意味がわかる	計を実施できる
推測統計全般の知識・スキル	推測統計の意味がよくわからない	推測統計で示される結果がある程度わかる	推測統計の結果がきちんと理解できる	自身のデータに対し必要な推測統計を実施できる
多変量解析の知識・スキル	多変量解析の意味がよくわからない	多変量解析で示される結果がある程度わかる	多変量解析の結果がきちんと理解できる	自身の質的データに対し必要な多変量解析を実施できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、イントロダクション
本講義の進め方、評価方法と、統計全般に関わる説明事項（2つの統計、統計的仮説検定、尺度、効果量など）について説明します
- 第 2 回 統計前の処理、SPSSの基本操作
実験、調査データを得て統計に入る前に必要なデータ整理の基礎と、本講義で最もよく使用するSPSSの操作や機能全般について説明します
- 第 3 回 記述統計
度数分布、代表値、散布度、データの標準化に関して、概念も踏まえつつ統計の方法を実習します
- 第 4 回 相関分析① 積率相関係数
ピアソンの積率相関係数と無相関検定について説明します
- 第 5 回 相関分析② 順位相関係数、偏相関係数
順位相関係数と偏相関係数について、概念と分析手順をあわせて説明します
- 第 6 回 t検定① 対応のある場合
データの対応の有無について説明し、対応のある場合のt検定を実習します。
- 第 7 回 t検定② t検定（対応のない場合）、1サンプルのt検定
対応のない場合のt検定と、1サンプルのt検定を実習します
- 第 8 回 分散分析① 1 要因分散分析（対応のある場合、ない場合）
1 要因の分散分析の流れを説明し、対応のある場合とない場合の実施手順を実習します
- 第 9 回 分散分析② 2 要因分散分析（分析の流れ）
2 要因分散分析の考え方、分析の流れに関して、詳しく説明します
- 第 10 回 分散分析③ 2 要因分散分析（実施手順）
2 要因分散分析の実施手順を実習します
- 第 11 回 分散分析④ 3 要因分散分析
3 要因分散分析の分析の流れと実施手順について説明します
- 第 12 回 順序尺度データの分析
順序尺度データの比較のための、対応のない場合と対応のある場合の検定を実習します
- 第 13 回 名義尺度データの分析

名義尺度データの分析のうち、基本となるカイニ乗検定とコクランのQ検定について説明します

第 14 回 多変量解析① 因子分析、主成分分析
分類型の変量解析である、因子分析と主成分分析について説明します

第 15 回 多変量解析② 重回帰分析
予測型の変量解析である、重回帰分析について説明します

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

期末に、自身の研究計画に即した模擬データを作成し、それに対して必要な分析をおこない、レポートにまとめてもらいます。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

独自に作成した講義プリントを配布します。また、サンプルデータを配布し、その分析手順を実演するとともに、受講生にも自分でコンピュータ上での分析を実習してもらいます。

・レポートに対するフィードバック：メール提出されたレポートに対し、個別にコメントを返しますので、今後の参考にして下さい

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

自分が普段から読んでいる論文でどのような分析手法が使われているかを意識し、自分がその理論や手法をどの程度知っているかを確認しておいてください。また、自身の研究にとくに必要になりそうな手法を意識して受講してください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は授業参加度（30%）、レポート（70%）の比率とします。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

人格心理学特論

270071N0J

大学院
心理学研究科
2単位 前期
木曜2限
村松 朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

パーソナリティの理解は、心理臨床の実践や研究を進める上で重要である。

心理臨床において効果的な援助を行うためには、面接・観察・心理検査を通して、経過と現状・生育歴・環境や対人関係・人格など多角的な視点から背景にある心の仕組み（パーソナリティ）を見立てること（心理アセスメント）が必須である。

本講義では、パーソナリティの理解を深め、実践と結び付けることができるように考えていきたい。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

心理臨床においてパーソナリティを理解するとはどのような意味があるのか、またパーソナリティを理解するための理論に基づきそれらを実践に結びつける力を養成する。心理アセスメントを用いて、パーソナリティの構造について理解する力を養成する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション 本講義の目的と進め方について
- 第 2 回 パーソナリティ研究の歴史
- 第 3 回 臨床場面で多く用いられている心理検査（1）
ロールシャッハテストの解釈戦略について
- 第 4 回 臨床場面で多く用いられている心理検査（2）
事例に基づくロールシャッハテストの解釈について
- 第 5 回 臨床場面で多く用いられている心理検査（3）
MMPI
- 第 6 回 臨床場面で多く用いられている心理検査（4）
TAT
- 第 7 回 多角的アセスメントの実際（1）
ケースを通してテストバッテリーの意味を理解する
投映法の解釈
- 第 8 回 多角的アセスメントの実際（2）
ケースを通してテストバッテリーの意味を理解する
質問紙法の解釈
- 第 9 回 多角的アセスメントの実際（3）
ケースを通してテストバッテリーの意味を理解する
作業検査法の解釈
- 第 10 回 多角的アセスメントの実際（4）
ケースを通してテストバッテリーの意味を理解する
複数の検査を統合した解釈
- 第 11 回 パーソナリティを理解するとは
- 第 12 回 パーソナリティ研究法
- 第 13 回 アセスメントレポートの書き方(1)
本人あて
- 第 14 回 アセスメントレポートの書き方(2)
他職種あて
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

担当となったテーマでのレポートの提出を課す。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義と、受講生による発表・ディスカッションを連動させながら進める。講義から得た問題意識や自らの関心に沿って、受講生が特定のテーマについて発表し、これをもとにディスカッションを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

受講者は、心理検査のデータ化やスコアリングを事前にしていくことになる。そのデータに基づいてパーソナリティの解釈を授業中に行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

<授業参加度・発表内容・ディスカッションへの参加（60%）>、<レポート（40%）>により評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

講義内容は受講生の知識や理解度および講義の進捗状況、受講人数に応じて、変更される場合がある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

ロールシャッハ・テスト/John E.Exner /金剛出版
MMPI活用ハンドブック/日本MMPI研究会監修/金剛出版
面接技術としての心理アセスメント/津川律子/金剛出版

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

医療機関、教育機関で臨床心理士、公認心理師としての勤務経験あり。

特別研究

270153B0J

大学院

心理学研究科

4単位 集中

その他

向山 泰代

〔科目の教育目標（Course Description）〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握し

ていること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153E0J

大学院

心理学研究科

4単位 集中

その他

中藤 信哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握し

ていること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

老年心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開 b)

270406N0J

大学院

心理学研究科

2単位 後期

水曜1限

伊藤 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

生涯発達の後半部にあたる中年期から高齢期について、身体機能面の変化、認知・学習・記憶といった精神機能面の変化、パーソナリティや対人関係などの心理社会的変化をとらえる。そのうえで、人生の統合期にある主体的存在としての高齢者について、老いへの適応と人生の再構築について学ぶ。さらに、認知症をはじめとした精神疾患について、アセスメントや心理的支援の方法について、事例を通して実践的に学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 中年期から高齢期にかけての心理的变化に関して、諸研究の知見を踏まえながら外観を捉える。
2. 高齢期の心理アセスメントについて、知能検査や認知症に関連する神経心理学的検査、パーソナリティ検査などを学び、支援計画に結びつける方法について学ぶ。
3. 高齢期における地域参加や多世代との交流など社会関係や社会活動について、心理社会的適応との関連で学ぶ。
4. 老いや人生の終末期について実践的体験的に学ぶことで、若年層も含めた心理教育について学ぶ。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	課題に必要な知識を理解できない	課題に必要な知識を理解できる	課題に必要な知識を理解し、問題意識をもって課題に取り組む	課題に必要な知識を理解し、積極的に問題意識と批判的視点を持って課題に取り組む
言語・思考・解決力	課題に取り組まない	課題に取り組み、考えを表現する	課題に取り組み、自分なりの考えを練り、表現する	課題に対して自分の考えに他者の多様な考えも取り入れながら問題解決する
創造・発信力	課題に取り組まない	課題に取り組み、発信する	課題に取り組み、自分の考えに他者の多様な考えを取り入れる	自分の考えに他者の多様な考えを取り入れ、さらに創造的発想で発信する

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 生涯発達における中年期・高齢期
- 第 3 回 高齢期における身体的変化
- 第 4 回 高齢期における認知的変化 (1) 感覚レベルでの変化
- 第 5 回 高齢期における認知的変化 (2) 記憶を中心に
- 第 6 回 高齢期における心理アセスメント (1) 認知症テストを中心に
- 第 7 回 高齢期における心理アセスメント (2) パーソナリティ検査など
- 第 8 回 高齢期における心理療法とアクティビティ (1) 回想法を中心に
- 第 9 回 高齢期における心理療法とアクティビティ (2) さまざまなアクティビティ
- 第 10 回 高齢期におけるアイデンティティ再構築—老いへの適応について—
- 第 11 回 人生の終末期の迎え方
- 第 12 回

高齢期の心理的支援の計画—個人アセスメントに基づく支援計画—

第 13 回 高齢期の心理的支援の計画—家族やコミュニティを含めた支援計画—

第 14 回 老いと死の心理教育について—人生の語りを受け止める—

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

期末レポートを実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 生涯発達の観点からの中年期・高齢期に関する文献を取り上げ、代表的な知見に触れる。
2. 個人心理面接だけでなく、グループでの回想法、学習療法、アクティビティも含めての心理的支援の方法について実習形式で学び、現場での心理的支援の方法につなげる。
3. 個人レベルでの横断的アセスメントだけでなく、家族や地域といった背景要因、また長い人生という縦断的な視点も含めての包括的なアセスメントについて学ぶ。
3. 体験的な学習を通じて、自身のライフパースペクティブについて考察する。

授業中の発問やディスカッションに対しては、適宜口頭でフィードバックする。提出されたワークシートやレポートについては、記述コメントおよび適宜口頭でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・日ごろから、超高齢化社会における社会問題や個人レベルでの高齢者の営みについて、アンテナを張るように努力する。
- ・基本的な知見について文献を読んだり、外国語も含めた最新の知見に触れるようにする。
- ・福祉施設や医療機関における高齢者の暮らしや、死の迎え方について、直接あるいは間接的に触れるようにする。
- ・高齢者を取り巻く法令や制度、社会状況にも目を向けるようにする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加態度 (20%)、授業中の発表および実習ワーク等 (50%)、期末レポート (30%) に基づき、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目は、公認心理師受験資格取得のための指定科目のひとつでもある。

具体的事例も取り上げながらの授業となるため、職業倫理を守り、心理的支援の専門家を目指すものとしての自覚を持ち、受講してほしい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『成人発達とエイジング』/シャイエ/ウィリス/ブレン出版/2006/4892528345

『高齢期の心理と臨床心理学』/下仲順子/培風館/2007/4563057061

『神経心理学的アセスメント・ハンドブック』/小海宏之/金剛出版/2015/4772414207

『認知症の心理アセスメント はじめの一步』/黒川由紀子・扇澤史子(編)/医学書院/2018/4260032623

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

心理実践実習 (学内) I

270438NOJ

大学院

心理学研究科

5単位 前期集中

その他

空間 美智子 伊藤 一美 向山 泰代 三好 智子
佐藤 睦子 村松 朋子 中藤 信哉 長田 洋和 鶴田 薫 福山 幸子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、「心理相談の基本」と「心理相談の実践」の2つから成る。

「心理相談の基本」では、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の習得を目的とし、個人面接を軸とした心理相談を実施している学内実習施設「心理臨床センター心理相談室」での業務を行う上での基本的事項を学ぶ。

そのうえで「心理相談の実践」として、心理臨床センター心理相談室の来談者に対し、受講者自身が心理相談や心理検査等の実践を行う。その際、心理相談室の運営(受付対応、インテーク面接への陪席、相談室やプレイルーム設えの整備など)に携わり、心理相談を行う上での基本的な事項を踏まえてそれらを実践する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

「心理相談の基本」では、以下を課題とする。

1) 心理相談における基本的マナーやふるまいなどコミュニケーション技術を習得する。

2) 心理アセスメントの実施・運用に関する基本的知識を習得する。

3) 心理相談面接における基本的な応答技法を習得する。

4) 心理相談への来談者のニーズを知り、アセスメントやケース運営について学ぶ。

5) 地域支援を視野に、心理相談室の社会的位置づけを理解し、多職種連携および地域連携を視野にいれた社会的資源等に関する知識を習得する。

6) 心理相談を開始するための、受付・受理からインテーク面接、治療契約から面接開始までの一連の流れについて理解する。

7) 心理相談の運営を成り立たせるための治療構造の理解とその運用について理解する。

8) 心理的支援における公認心理師の職業倫理及び法的義務について学習・理解する。

また、「心理相談の実践」においては、本学附設の心理相談室の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。

1. 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の習得

2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成

3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践

4. 多職種連携および地域連携の理解と実践

5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。
思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	公認心理師の職業倫理を理解できておらず、不適切なふるまいが見られる。	公認心理師の職業倫理を理解し、基本的なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：空間・村松・向山・三好・佐藤・伊藤・中藤

(ケース担当については、各実習生にスーパーバイザーを配置し、そのほか実習課題に応じて指導担当を調整する)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

「心理相談の基本」として、大学に附設されている「心理臨床センター心理相談室」におけるケース担当のための基本的事項を学ぶため、実習担当教員および心理相談室の実習指導者のもと、前期・後期各30時間 (60時間) の実習を行う。具体的には、受付業務などの相談室運営業務を実践したり、仮想事例等についてワークやグループディスカッションを用いながらの検討等を行う。実習内容は「実習記録ノート」に記載し、実習担当教員や実習指導者 (心理臨床センター専門相談員を含む) の指導を受ける。課題に対するフィードバックの方法としては、実習中の発問に対し適宜口頭でフィードバックするとともに、「実習記録ノート」に個別にコメントして返却する。

また、「心理相談の実践」については、本学附設の心理相談室における「担当ケースに関わる実習」として、100時間以上の実習を行う。具体的内容は以下のとおり。

1. インテーク面接に関する陪席・報告
2. ケース (心理相談) 担当とそれに伴う準備・事後対応 (記録など)
3. ケース担当に伴うスーパービジョンとそれに伴う準備・事後対応 (所見作成など)
4. 心理検査担当 (フィードバック面接を含む) とそれに伴う準備・事後対応
5. 心理相談室カンファレンス等での発表
6. 担当ケースに関する関係機関とのカンファレンス等への陪席

実践内容は「実習記録ノート」に記載、担当ケースについては心理相談室のカルテ管理ルールに則り、記録作成および保管を行う。それら実習ノートおよび記録に基づき、実習指導者および実習担当教員の指導を受けること。フィードバックは、担当ケース運営の指導の中で、個別あるいはディスカッションの形式で、適宜口頭や記述コメントにより行われる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

ケース運営に関する継続的な経験を通じて、社会常識的な知識やふるまい等について自分自身を振り返ったり、他の受講生の言動を見聞きしたりして、自身の課題を整理し、心理的支援の実践に必要な知識や態度について考えること。また、担当ケースに関わる実習においては、「心理相談の基本」での学びに基づき、社会常識的な知識やふるまいについて、教員・指導者や他の受講生とのディスカッションを通じて、自己省察し自身の課題を整理しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

50

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習課題の遂行 (ディスカッションやワークへの参加度など) (70点)、その他提出物・実習ノートなど (30点) によって、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目での取り組み状況から、博士前期課程2年次における実習の進め方について個別に相談し、学習計画の見直しを行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

◀実践的科目▶ 公認心理師・臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習 (学外) I A

270439A0J

大学院

心理学研究科

4単位 後期集中

その他

伊藤 一美 村松 朋子 中藤 信哉 長田 洋和

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている保健医療等に関する学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

保健医療分野等の特徴および特殊性と関連付けて、以下を課題とする。

1. 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
4. 多職種連携および地域連携
5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解でき	心理支援に要する基本的知識・スキルを理	心理支援に要する知識・スキルを理解・習	心理支援に要する知識・スキルを理解・習

	ず、習得できていない。	解・習得している。	得し、場面に応じて活用できる。	得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。
思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	公認心理師の職業倫理を理解できておらず、不適切なふるまいが見られる。	公認心理師の職業倫理を理解し、基本的なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

- 第1回 学外実習：全体オリエンテーション（大学内）
 - 第2回 保健医療分野等の学外実習オリエンテーション（大学内）
 - 第3回 各実習施設についての事前指導（大学内）
 - 第4回 事前オリエンテーション（実習先）
- これらを経て、各実習施設で実地の実習を開始する。

実習中は、実習担当教員による巡回指導のほか、大学での中間指導も適宜実施される。

実習終了後、学内において、実習期間全体を振り返っての実習生の自己評価や実習指導者の講評を踏まえ、事後指導が実施される。

それ以外の具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 指定された保健医療分野等に関する学外実習施設における実習（原則毎週1日・8時間以上、但し実習施設により変更あり）、および、実習担当教員による大学等での事前・中間・事後指導を含めて、計120時間以上の実習を行う。
2. 心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケースについては実習指導者又は実習

担当教員による指導の下で支援を実践する。

3. 担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。

4. 担当ケースの実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。

5. 実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。

6. 実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。

7. 実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

配属先の実習機関に関する情報（沿革、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

80

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

実習施設での実習課題の遂行（60点）、実習施設（実習指導者）による評価（15点）、実習担当教員による評価（15点）、その他提出物・実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

実務経験等：あり。臨床心理士・公認心理師・精神科医として、医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習（学外）ⅡA

270440A0J

大学院

心理学研究科

4単位 後期集中

その他

薦田 未央 三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 空間 美智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている福祉・教育分野等に関する学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

福祉・教育分野等の特徴および特殊性と関連付けて、以下を課題とする。

1. 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
4. 多職種連携および地域連携
5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	福祉・教育分野等での専門的な心理的支援に関する学びを通して自分を育てる動機が十分でない	福祉・教育分野等での専門的な心理的支援に関する学びを通して自分を育てる動機がある	福祉・教育分野等での専門的な心理的支援に関する学びを通して自分を育てる動機がかなりある	福祉・教育分野等での専門的な心理的支援に関する学びを通して自分を育てる動機が非常にある
知識・理解力	福祉・教育分野等での専門的な心理的支援に必要な知識・理解力が十分でない	福祉・教育分野等での専門的な心理的支援に必要な知識・理解力がある	福祉・教育分野等での専門的な心理的支援に必要な知識・理解力がかなりある	福祉・教育分野等での専門的な心理的支援に必要な知識・理解力が非常にある
言語力	福祉・教育分野等での専門的な心理的支援に必要な言語力が十分でない	福祉・教育分野等での専門的な心理的支援に必要な言語力がある	福祉・教育分野等での専門的な心理的支援に必要な言語力がかなりある	福祉・教育分野等での専門的な心理的支援に必要な言語力が非常にある
思考・解決力	与えられた課題について考える力が十分でない	与えられた課題について考える力がある	与えられた課題について考える力がかなりある	与えられた課題について考える力が非常にある
共生・協働する力	他者と協力して活動する力が十分でない	他者と協力して活動する力がある	他者と協力して活動する力がかなりある	他者と協力して活動する力が非常にある
創造・発信力	自分の考えを表現する力が十分でない	自分の考えを表現する力がある	自分の考えを表現する力がかなりある	自分の考えを表現する力が非常にある

〔授業計画〕

- 第1回 学外実習：全体オリエンテーション (大学内)
- 第2回 福祉・教育分野等の学外実習オリエンテーション

(大学内)

第3回 各実習施設についての事前指導 (大学内)

第4回 事前オリエンテーション (実習先)

これらを経て、各実習施設で実地の実習を開始する。

実習中は、実習担当教員による巡回指導のほか、大学での中間指導も適宜実施される。

実習終了後、学内において、実習期間全体を振り返っての実習生の自己評価や実習指導者の講評を踏まえ、事後指導が実施される。

それ以外の具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 指定された福祉・教育分野等に関する学外実習施設における実習 (原則毎週1日・8時間以上、但し実習施設により変更あり)、および、実習担当教員による大学等での事前・中間・事後指導を含めて、計120時間以上の実習を行う。

2. 心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケースについては実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。

3. 担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。

4. 担当ケースの実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。

5. 実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。

6. 実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。

7. 実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配属先の実習機関に関する情報 (沿革、理念、概要、利用者等) について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

80

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設での実習課題の遂行 (60点)、実習施設 (実習指導者) による評価 (15点)、実習担当教員による評価 (15点)、その他提出物・実習ノートなど (10点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

実務経験等：あり

臨床心理士・公認心理師として、医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理学特殊研究 A（認知機構）

270801N0J

大学院
心理学研究科
2単位 前期
月曜 5限
廣瀬 直哉

〔科目の教育目標（Course Description）〕

ヒト以外の動物を含めて生物の行動を研究する場合の基本的な方法論を概観し、それぞれの方法論に特化された研究法を学習することで大学院生が何を対象にして研究をおこなうのかについて具体的な計画を立案する手順を理解する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

『認知』という研究領域はかなり包括的な概念としてイメージされていることが多いが実際には嘗て『知覚』『感覚』『記憶』『発達』『認識』等に代表される個別の領域で研究・蓄積された知識が基礎になっており、それらの研究領域に特有な実験手技が背景にあったし現在もある。それらの実験手法を研究目的に応じて使い分けるための基礎的な訓練を通して研究とは何かについて個々の事例に則して深く理解し習熟することをもつばらの課題とする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	人の認知機構に関する概念・知識を理解し、説明することができない。	人の認知機構に関する概念・知識を理解し、説明することができる。	レベル2に加えて、その概念・知識の応用を理解し、説明することができる。	レベル3に加えて、その概念・知識を活用して研究課題に取り組むことができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 生物科学が受け持つ領域（1）認知
- 第 2 回 生物科学が受け持つ領域（2）行動
- 第 3 回 生物科学の中における動物実験の意味
- 第 4 回 動物実験と分子生物学の接点
- 第 5 回 動物実験とヒトを対象にした研究の接点
- 第 6 回 ヒトを対象にした行動科学研究のレポーター（1）知覚と行為
- 第 7 回 ヒトを対象にした行動科学研究のレポーター（2）カップリング
- 第 8 回 行動科学で用いる研究法（1）実験
- 第 9 回 行動科学で用いる研究法（2）観察
- 第 10 回 行動科学で用いる研究法（3）調査
- 第 11 回 認知と行動を決定する生物科学的要件（1）遺伝
- 第 12 回 認知と行動を決定する生物科学的要件（2）成熟

第 13 回 研究法の実際（1）量的研究の例

第 14 回 研究法の実際（2）質的研究の例

第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

複数の代表的な実験研究を紹介し、それらの研究が隣接諸科学とどのように関連しているかを理解することでサイエンスとしての心理学が科学全体のなかで置かれた立場を理解しなければならないが、その為にいくつかの研究例を紹介し、更に具体的な実験手法に触れることをおこなう。このように実習や演習を部分的に導入することで研究の実際が多様な技術の習得と修練の累積が必要であることを理解するような教育の方法を実施する。

課題等のフィードバックは授業時に行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

予習用の文献を指定するので、それを授業前に読みこんでおくことが求められる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

提出するレポートの総合的な評価によって成績を決定する。

〔留意事項（Other Information）〕

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。また、状況によっては、授業の一部または全部をオンラインで行うことがある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊研究 C（学校心理学）

270803N0J

大学院
心理学研究科
2単位 後期
月曜 5限
松島 るみ

〔科目の教育目標（Course Description）〕

学校教育に関わる諸問題について考察することを通して、学校および学校教育のあり方を探究する問題意識を養う。

本科目では、特に、学習、パーソナリティ、人間関係に関する様々な知見を取り上げて論じる。具体的には、教授・学習法、学習の動機づけ、学習と自己効力感、パーソナリティの形成と発達、自己形成、進路選択・進路意識、自己と他者との諸問題など、学校における人間の営みを様々な角度から捉えて考察する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 学校心理学の諸相について理解を深める。
2. 学校教育に関わる諸問題を考察する。
3. 学校心理学に関する各自の問題意識を追究する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 学習に関する問題 (教授・学習法)
- 第 3 回 学習に関する問題 (動機づけ)
- 第 4 回 学習に関する問題 (自己効力感)
- 第 5 回 パーソナリティに関する問題 (パーソナリティ理論)
- 第 6 回 パーソナリティに関する問題 (パーソナリティ形成)
- 第 7 回 パーソナリティに関する問題 (自己認知)
- 第 8 回 人間関係に関する問題 (親子関係)
- 第 9 回 人間関係に関する問題 (友人関係)
- 第 10 回 人間関係に関する問題 (対人行動)
- 第 11 回 受講者の研究テーマに関連する問題 (学習)
- 第 12 回 受講者の研究テーマに関連する問題 (パーソナリティ)
- 第 13 回 受講者の研究テーマに関連する問題 (人間関係)
- 第 14 回 受講者の研究テーマに関連する問題 (学校教育)
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

受講者各自の問題意識に基づいて専門論文を講読し、概要と考察を発表して討論を行う。

授業中のディスカッションでは、適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

発表に際しては、論文を精読し、レジュメを作成して、周到に準備すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表と討論参加 (50%)、レポート (30%)、授業態度 (20%) を総合して評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊研究 E (心理療法)

270805N0J

大学院

心理学研究科

2単位 後期

木曜 2限

伊藤 一美 森谷 寛之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、個人の内面の力動や変容に焦点を置く来談者中心療法や精神分析、個人の行動の変容に力点を置く行動療法や認知行動療法、集団のダイナミクスから治療を考えるシステム論的アプローチや家族療法など、臨床心理学における代表的な治療理論を俯瞰しつつ、受講生自身のオリエンテーションや支援の対象者像ともすり合わせながら、諸理論の特徴を有効に生かし統合的に心理療法を活用していく方法を研究していく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 各種の心理療法について、歴史的背景も含めて理論を学ぶ。

(2) 心理療法の実際について、具体的事例を踏まえながら、技法とその実際の適用方法とを学ぶ。

(3) (3) 受講者が自身の心理療法スタイルやオリエンテーションを探索・熟考し、心理臨床の専門家としての資質と実践力を高める。

(4) いずれの心理療法にも共通する倫理的姿勢や社会的責任について学び、身につける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	課題に必要な知識を理解できない	課題に必要な知識を理解できる	課題に必要な知識を理解し、問題意識をもって課題に取り組む	課題に必要な知識を理解し、積極的に問題意識と批判的視点を持って課題に取り組む
言語・思考・解決力	課題に取り組まない	課題に取り組む、考えを表現する	課題に取り組む、自分なりの考えを練り、表現する	課題に対して自分の考えに他者の多様な考えも取り入れながら問題解決する
創造・発信力	課題に取り組まない	課題に取り組む、発信する	課題に取り組む、自分の考えに他者の多様な考えを取り入れる	自分の考えに他者の多様な考えを取り入れ、さらに創造的発想で発信する

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション・心理療法のひろがり
(担当：伊藤)
- 第 2 回 科学史における心理学の登場
(担当：森谷)
- 第 3 回 無意識仮説をどう理解するかー力学と精神力動論ー
(担当：森谷)
- 第 4 回 さまざまなアプローチ無意識か意識かー
(担当：森谷)
- 第 5 回 測定から始まった近代科学ーこころの測定とは
(担当：森谷)
- 第 6 回 夢の理解
(担当：森谷)
- 第 7 回 こころを形にあらわすー芸術療法・描画法
(担当：森谷)
- 第 8 回 さまざまな芸術の利用（1）箱庭療法
(担当：森谷)
- 第 9 回 さまざまな芸術の利用（2）コラージュ療法
(担当：森谷)
- 第 10 回 臨床心理学の現在
(担当：森谷)
- 第 11 回 理論と事例から学ぶー子どもの発達と遊戯療法ー
(担当：伊藤)
- 第 12 回 理論と事例から学ぶー認知行動療法を用いた事例からー
(担当：伊藤)
- 第 13 回 理論と事例から学ぶー家族療法や家族支援に関わる事例からー
(担当：伊藤)
- 第 14 回 理論と事例から学ぶー統合的アプローチを用いた事例からー?
(担当：伊藤)
- 第 15 回 心理療法の実践における倫理と社会的責任
(担当：伊藤)

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

なし

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

心理療法に関するさまざまな文献について、創始者の原著やそれらの技法を適用した事例論文などを講読する。それらについての、受講者による発表と討論を中心とする。時に、実際の事例（ただし、プライバシーの保護などの倫理的配慮を十分加えた上で）と関連付けながら、実践に還元できるように授業を進めていく。

授業中のディスカッションや提出された課題については、適宜口頭でフィードバックを行う。

なお、遠隔（オンライン）による授業形態をとる場合もあり、その際には事例の扱いなどについては守秘などの情報管理については十分留意する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

担当事例についての振り返りと、学会や研究会での事例発表やその聴講、事例研究の文献に触れ、自身の担当するク

ライアントについてのアセスメントとそれに基づく治療方針についての省察を怠らないこと。芸術療法の実習を行うことがある。必要な準備は前もって指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

受講者自身の自発的な学びと討論とを中心とするため、発表と討論（70%）、適宜実施されるレポート等（30%）によって、総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

取り上げる内容として、時に具体的事例を扱う場合もあるため、受講者のケースに対する倫理的配慮については厳格さと真摯な姿勢を求める。

また、受講者自身の問題意識に沿って特定の理論や技法についてより深めていくなど、受講者の積極的関与を希望する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

森谷寛之 2018 臨床心理学への招待ー無意識の理解から心の健康へー サイエンス社

森谷寛之 2012 コラージュ療法の実践の手引き 金剛出版

森谷寛之 2005 子どものアートセラピー 金剛出版

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫／伊藤：臨床心理士・公認心理師として医療機関、教育機関での勤務経験あり。／森谷：臨床心理士として医療機関、教育・産業機関での勤務経験あり。

家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践

270422N0J

大学院

心理学研究科

2単位 集中

その他

ー

60

村松 朋子 中藤 信哉 森谷 寛之

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目は、集団に焦点をあてた心理学的支援に関する理論とそれに基づく心理実践の実際について学ぶ。すなわち、家族や集団内力動および地域援助などへの理論的理解を深め、心理学的支援の方法を習得する。

そこで本科目では、以下のことを目標とする。

①家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法と実践について説明できる

②地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について説明できる

③心理に関する相談、助言、指導等へ、上記①及び②を応用することができる

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ①家族の心理的支援における理論と方法について説明できる。
- ②家族関係などの集団の関係性と地域社会や集団・組織に働きかける心理的援助に関する理論と方法について説明できる。
- ③家族関係、地域社会に焦点を当てた心理的支援に関する相談・援助・指導などについて学び、包括的に理解し、説明することができる。
- ④さまざまな家族関係がある。それを具体的に理解する手段として描画法をもとに家族の在り方についてとその心理的支援について説明できる。
- ⑤地域社会における不登校などのひきこもり対策、自殺と心理的支援について説明できる。
- ⑥集団におけるパワーの問題—いじめ、虐待、DV、パワハラについて、「被害者意識・加害者意識」モデルから説明できる。
- ⑦集団に焦点を当てた心理的支援の理論と方法について説明できる。
- ⑧集団への心理的支援の特徴を、個人への心理的支援との比較において理解し、説明できる。
- ⑨集団を活用した地域社会の心理的支援の実際について理解し、説明できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 家族システムと心理的支援 (村松)
- 第 2 回 家族を理解するための概念と家族療法 (村松)
- 第 3 回 家族への臨床的アプローチ (1) 思春期・青年期の問題と家族への心理的支援 (村松)
- 第 4 回 家族への臨床的アプローチ (2) 夫婦の問題と心理的支援 (村松)
- 第 5 回 個人へのエンパワメントと集団 (家族)・コミュニティへのエンパワメント (村松)
- 第 6 回 描画法による家族理解 (1) (森谷)
家族の在り方は様々である。その姿をどのように捉えるのか。代表的な描画法 (家族画, 丸と家

族, 動的家族画など) について実習も含めて紹介したい。

- 第 7 回 描画法による家族理解 (2) (森谷)
ここでは別の家族画を紹介したい。一つは筆者が1983年春頃に開発した九分割統合絵画法を家族画に応用する方法である。もう一つは、バーンズ(1990)によって開発された円枠家族描画法である。どちらもマンダラから発想されたところで共通している。
- 第 8 回 不登校・いじめ・DV・パワハラ・自殺への理解と支援 (森谷)
不登校は子どもが社会と出会う場面での葛藤として理解できる。筆者は不登校を精神力動モデルで説明し、理解することができることを示した。また、このモデルは、単純ではあるが、多くの不登校現象を説明できる。また、自殺対策などいろいろ複雑な心理現象に応用でき、理解できやすくなり、支援につなげることができる。
- 第 9 回 衝突の心理学—いじめにおける被害者意識と加害者意識 (森谷)
不登校といじめ、虐待、DV、パワハラを比較すると、その性格の違いがはっきりする。いじめなどの場合、いじめっ子、いじめられっ子という二つの対立する立場が、あたかも「衝突」しているようにみえる。一方が加害者で、他方が被害者とみなされる。この2人の微妙な相互関係を理解するために、筆者は1990年代半ば頃に「心理衝突モデル」を構想した。「加害者“意識”」と「被害者“意識”」という鍵概念で説明する。
- 第 10 回 いじめなどの事例研究 (森谷)
心理療法のかかわりから得られたいじめや不登校の事例を取り上げる。夢や描画などからその心理を考える。
- 第 11 回 個人と集団の関係性 (中藤)
- 第 12 回 集団への心理的支援の諸理論 (中藤)
- 第 13 回 集団への心理的支援の特徴 (中藤)
- 第 14 回 集団を活用した地域社会の心理的支援 (1) (中藤)
- 第 15 回 集団を活用した地域社会の心理的支援 (2) (中藤)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と討論で授業を進める。講義では問題解決に向けた思考力を養い、討論では実践的方法を主体的に考察する。森谷担当の場合、描画法の紹介のために実習を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

家族関係・集団・地域社会さまざま問題や葛藤に関心を持ち、関連する文献を参照して講義でのディスカッションに参加できるよう準備すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度60%、レポート40%で評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

講義の日程および講義の予定 (順序) は決まり次第公表する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

森谷寛之 2005 子どものアートセラピー 金剛出版

森谷寛之 2018 臨床心理学への招待―無意識の理解から心の健康へ― サイエンス社

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『家族心理学：家族システムの発達と臨床的援助』中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子 (著) 有斐閣ブックス
森谷寛之 2012 コラージュ療法の実践の手引き 金剛出版

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》村松朋子 実務経験あり：公認心理師・臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり

中藤信哉 実務経験あり：公認心理師・臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり

森谷寛之 実務経験あり：臨床心理士として教育機関・医療機関・産業領域での勤務経験あり

学校カウンセリング特論(教育分野に関する理論と支援の展開)

270416N0J

大学院

心理学研究科

2単位 前期

金曜 4限

ー

90

福山 幸子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

学校カウンセリングは、現在、急速にその守備範囲を拡げてきている。学校現場では、児童生徒自身の問題はもとより、学校の抱える問題、家庭（保護者）の問題、社会・地域の問題などが互いに関連して表面化する。いじめ、学級崩壊、校内暴力、不登校、家庭内暴力、ひきこもり、児童虐待も大きな問題である。また、特別支援教育として、発達障害の児童生徒への支援も注目されている。本講義においては、学校カウンセリングに必要な種々の技法の実習を行い、その習得を目指す。また、受講生の事例発表なども通して、学校カウンセリングのあり方についての理解を深めていきたい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・学校カウンセリングとは何かを学ぶ

・学校における心理士の存在意義について学ぶ

・学校カウンセリングにおいて使用できる各種療法に関して、実習を通じて学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 学校心理士とは何か

第 2 回 学校心理士が行う仕事を学ぶ

第 3 回 学校におけるカウンセリングについて (小学校)

第 4 回 学校におけるカウンセリングについて (中学校・高校)

第 5 回 学校におけるコンサルテーションについて

第 6 回 学校におけるコンサルテーションに関する問題点について

第 7 回 コーディネーション/チーム学校

第 8 回 学校における緊急対応について

第 9 回 査定と見立て

第 10 回 フィールドワーク (適応指導教室見学①)

第 11 回 フィールドワーク (適応指導教室見学②)

第 12 回 学校で施行する技法を学ぶ (箱庭療法)

第 13 回 学校で施行する技法を学ぶ (描画)

第 14 回 事例研究を行う

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

学校とは、独特な場である。学校で働く心理師 (士) は、学校で出会うクライアントを理解する前に学校を理解する必要がある。そのため、本講義では、実習・フィールドワークも併用しながら、学校における心理師 (士) のあり方を探索していきたい。

講義・実習・フィールドワークを行なうごとにレポートの提出を求める。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学校心理士とは何かについて、文献検索・熟読の後、講義に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

講義への参加態度（授業内でのディスカッション参加態度を含む）40％・課されたレポートの内容60％の評価とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

教育・心理検査特論

270054N0J

大学院

心理学研究科

2単位 前期集中

その他

ー

60

松島 るみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、臨床発達心理学的、心理・教育的アセスメントについて理解を深め、多様なアセスメントの方法を学ぶのと同時に、心理検査についての実施や採点、解釈や支援の方法について学ぶことを目的とする。また、発達の視点にもとづく支援について、フォーマルアセスメント（面接、行動観察、検査、成績など）および家庭環境や家族関係、人間関係などに見られるインフォーマルアセスメントを理解し、検査結果の支援への活用について学ぶ。心理検査は、人間の心的諸側面の個人差を測定するために作成された心理学的手法を用いた測定手段である。検査者は、心理検査を活用する明確な目的を持ち、使用する検査の実施方法や理論的な背景等を習得することが必要である。心理検査の中には、幼児・児童・生徒の発達に対する理解や学級づくり、教育相談等、教育活動を効果的に行うことを目的に開発されたものもある。この科目においては、心理検査や教育評価の理解を深めるとともに、臨床発達や学校教育場面で使用される心理検査の理解と基本的な技術の習得を目指す。なお、本科目は、臨床発達心理士指定科目の「臨床発達心理学の基礎に関する科目」の6、7、9を含む。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・臨床発達心理学的、心理・教育的アセスメントの目的や方法、アセスメントから支援の方法について理解すること。
- ・教育・心理検査や教育評価に関する基礎的な知識を習得すること。
- ・教育・心理検査の基本的な技術を習得すること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	心理・教育的アセスメントに関する知識や方法が身についていない。	ある程度、心理・教育的アセスメントに関する知識や方法について身につけている。	おおむね心理・教育的アセスメントに関する知識や方法について身につけている。	心理・教育的アセスメントに関する知識や方法について十分身につけている。
言語力	心理アセスメントの結果について適切に言語化できる力が身についていない。	ある程度、心理アセスメントの結果について適切に言語化できる力が身についている。	おおむね心理アセスメントの結果について適切に言語化できる力が身についている。	心理アセスメントの結果について適切に言語化できる力が十分身についている。
思考・解決力	分析結果にもとづき、考察したり、問題解決出来るスキルが身についていない。	ある程度、分析結果にもとづき、考察したり、問題解決出来るスキルを身につけている。	おおむね分析結果にもとづき、考察したり、問題解決出来るスキルを身につけている。	分析結果にもとづき、考察したり、問題解決出来るスキルを十分身につけている。
共生・協働する力	学習者と協働しながら、問題解決しようとする力が身についていない。	ある程度、学習者と協働しながら、問題解決しようとする力を身につけている。	おおむね学習者と協働しながら、問題解決しようとする力を十分身につけている。	学習者と協働しながら、問題解決しようとする力を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを自身の研究や実習に活せる力が身についていない。	ある程度、学習したことを自身の研究や実習に活せる力を身につけている。	おおむね学習したことを自身の研究や実習に活せる力を身につけている。	学習したことを自身の研究や実習に活せる力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 臨床発達支援の基本的視点と心理・教育的アセスメント
- 第 2 回 臨床発達心理学および心理・教育的アセスメントの方法
- 第 3 回 心理検査の活用
- 第 4 回 学級・学校アセスメント
- 第 5 回 教育評価

第 6 回 個別知能検査(ウェクスラー式知能検査:WISC-IV を中心に)の概要/フォーマルアセスメントとインフォーマルアセスメント

第 7 回 VCI検査の実施方法

第 8 回 PRI検査実施の実施方法

第 9 回 WMI検査の実施方法

第 10 回 PSI検査の実施方法

第 11 回 WISC-IV結果の処理(基礎)および心理検査の統計基礎知識

第 12 回 WISC-IV結果の処理(応用)

第 13 回 支援活動の展開(検査結果による指導計画への発展)

第 14 回 その他の個別知能検査(K-ABC II等)の実施

第 15 回 その他の個別知能検査(K-ABC II等)の解釈
[定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法(Course Methods)]

受講生による発表とディスカッション、心理検査の実習を中心に授業を進める。

[準備学習の具体的な方法(Class Preparation)]

・発表に関して事前に関連文献に目を通したり、心理検査の背景や方法について調べておくこと。

[準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))]

30

[評価方法・評価基準(Evaluation)]

発表やディスカッションへの参加状況から総合的に評価する。

[留意事項(Other Information)]

[テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無]

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

健康心理学特論(心の健康教育に関する理論と実践)

270424NOJ

大学院

心理学研究科

2単位 後期

金曜 3限

ー

60

鶴田 薫

[科目の教育目標(Course Description)]

健康心理学は、心理学がいかに関わりの健康で幸福な生活に貢献できるか、その可能性を究める実践的な学問である。そしてそれは、心理職の国家資格である公認心理師に期待される、大きな役割の一つであるとも言える。

そのような時代の社会的なニーズを背景に、本講義では心

の健康教育についての理論を学び、その技法について体験実習を通して習得する。

[教育・学習の個別課題(Course Objectives)]

・心の健康とは何かについて学ぶ

・心の健康に影響を与えるストレス、パーソナリティ、行動(認知を含む)についての理論を学ぶ

・心の健康教育とは何か、その理論と目的について学ぶ

・心の健康教育の技法について、体験実習を通して学ぶ

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
心の健康についての理解	心の健康とは何か、またその重要性を理解できない	心の健康を理解し、心の健康が私たちの生活に与える影響について知る	心の健康とストレスの関係、また心の健康に影響を与えるパーソナリティや行動があることを知る	レベル3の知識をもとに、心の健康を保持・増進する方法を考え、助言できる
心の健康教育についての理解	心の健康教育とは何か、またその目的について理解できない	心の健康教育とその目的について理解する	どのような健康教育が各ライフステージで必要か、またそれがどのような場で行われるかを知る	レベル3の知識をもとに、支援する対象者に必要な心の健康教育を考えることができる
心の健康教育を実践する力	心の健康教育の体験実習に積極的に参加しない	心の健康教育の技法について、体験実習を通して積極的に学ぼうとする	各技法の目的や効果について、体験を通して理解する	支援する対象者にどのような心の健康教育の技法が適しているかを考え、実施できる

[授業計画]

第 1 回 オリエンテーション

健康とは?

健康心理学とは?

第 2 回 健康とストレス

第 3 回 健康とパーソナリティ

第 4 回 健康と行動

第 5 回 健康心理アセスメント

第 6 回 心の健康教育とは?

第 7 回 心の健康教育の現状と課題

第 8 回 心の健康教育の実践 1

人間関係トレーニング①ピア・サポート

第 9 回 心の健康教育の実践 2

- 第 10 回 ストレスマネジメント①リラクセーション
心の健康教育の実践 3
ストレスマネジメント②アンガーコントロール
- 第 11 回 心の健康教育の実践 4
人間関係トレーニング②アサーション
- 第 12 回 心の健康教育の実践 5
人間関係トレーニング③コンセンサス
- 第 13 回 心の健康教育の実践 6
ストレスマネジメント③認知行動療法
- 第 14 回 心の健康教育の実践 7
ストレスマネジメント④マインドフルネス
- 第 15 回 まとめ
健康心理学の可能性
公認心理師への期待

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

健康心理学および心の健康教育の理論の学習は講義形式で行い、心の健康教育の技法の学習は体験実習で行う

授業中の学生の発問に対して、適宜口頭でフィードバックを行う

また授業全体に対しては、最終回で授業内容をふりかえり、フィードバックを行う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

心の健康に影響を与えるストレス・パーソナリティ・行動について、文献を検索し、熟読して講義に臨むこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業態度(50%)、課されたレポートの内容(50%)に基づいて総合的に行う

〔留意事項 (Other Information)〕

授業内で資料を配布する

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特定のテキストは使用しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『心の健康教育』/松本剛・岡崎圭子(編著)/木立の文庫/2019/9784909862051

『健康心理学概論』/日本健康心理学会/実務教育出版/2002/9784788960916

『ベーシック健康心理学』/山蔦圭輔/ナカニシヤ出版/2015/9784779509186

『ライフコースの健康心理学』/森和代・石川利江・松田与理子/晃洋書房/2017/9784771028876

『健康心理学』/太田信夫・竹中晃二/北大路書房/2017/9784762829956

『よくわかる健康心理学』/森和代・石川利江・茂木俊彦/ミネルヴァ書房/2012/9784623061570

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理士・公認心理師として教育機関や医療機関などで勤務経験あり

児童精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開 b)

270103N0J

大学院

心理学研究科

2単位 後期

木曜 6限

ー

60

久保田 泰考

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

児童精神医学領域の主要な精神疾患について学び、思春期の精神病理についても広く学習する。精神科医としての実務経験をもとに臨床的な観点を解説するほか、さらに神経科学の知識も必要に応じて講義し、神経科学と精神分析の双方向的視野に立脚するニューロサイコアナリシスの観点から、精神・神経発達障害の実像を理解することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

古典的な精神病理学：神経症・精神病概念の整理

子どもの神経症・不安障害：精神分析理論と社会・情動発達モデルの関連

脳の発達と精神障害：OCD、AD/HD、トゥレット障害などの神経学的基盤

子どもの精神疾患：うつ病、統合失調症、双極性障害

自閉スペクトラム症：自閉症、アスペルガー症候群、特定不能型

子どもの精神療法：精神分析モデル、トラウマ論、無意識の概念化

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション：児童精神医学とはどんな学問か

- 第 2 回 神経症 1：古典的な神経症論、精神病圏との病態水準の違い、今日の診断基準について
- 第 3 回 神経症 2：愛着理論から神経症概念を見直す、社会・情動アセスメントの考え方と実際
- 第 4 回 精神病論：統合失調症の精神病理、自閉症との関係
- 第 5 回 症例検討 1：面接法による思春期・青年期の危機のアセスメント
- 第 6 回 自閉スペクトラム症：自閉症の概念、自閉スペクトラム症（ASD）について
- 第 7 回 症例検討 2：ASDの社会・情動発達の支援、ケース報告とフィードバックのすすめ方
- 第 8 回 感情障害：うつ病、躁うつ病、児童における特性
- 第 9 回 PTSD：トラウマへの対応、社会・情動発達の観点からの具体的支援のすすめ方
- 第 10 回 強迫性障害：強迫性障害、トゥレット症候群、その他児童における関連障害について
- 第 11 回 境界型パーソナリティ障害：ボーダーラインの概念、治療について
- 第 12 回 臨床精神薬理：児童精神医学における薬物療法の理論・実際
- 第 13 回 臨床心理学（4）学校における児童生徒の問題
- 第 14 回 臨床心理学（5）心理臨床などの専門家と専門機関
- 第 15 回 症例検討 3：関係の障害、情動の失調への介入の考え方、特に古典症例から学ぶ（関係性の病理と支援）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

レポート課題を実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

Covid-19のパンデミックを鑑み、オンライン形式の講義とします。短時間のライブとオンデマンドをミックスする。毎回PDF形式資料を配布し、動画リンクを提供する予定であり、オンデマンド部分のみ受講でも後からのフィードバックに回答することで十分履修が可能となるように配慮する。症例検討も必要に応じて行う。課題レポートに対するフィードバックは、授業中に解説する他、個別にWebシステムを通じて行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

日常生活から生まれる人間の精神活動についての素朴な疑問、あるいは実習などの活動から生じた臨床的な問題意識を折に触れて整理しておくことが求められる。特に専門的な知識の予習は全く必要ない。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への参加度、特に積極的な質問や問題提起（30%）、レポート2回（70%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

映画や小説、マンガなどで精神障害を扱った作品を各自積極的に鑑賞しておくことが求められます。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ニューロサイコアナリシスへの招待』/岸本寛史編/誠信書房/2015/9784414400984

『ニューロラカン: 脳とフロイト的無意識のリアル』/久保田泰考/誠信書房/2017/9784414416305

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」 精神科医師および臨床心理士として医療機関、専門相談施設での勤務経験あり。

社会心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)

270408NOJ

大学院

心理学研究科

2単位 前期

金曜3限

ー

60

後藤 伸彦

〔科目の教育目標（Course Description）〕

職場における自己（self）の影響について学び、議論する。自己効力感、自尊心感情、自己制御、アイデンティティの問題などについて、産業組織心理学、組織行動、社会心理学の観点からの最新の研究成果について知識を獲得する。また社会心理学の知識をこれらの分野に応用することの限界について理解を目指す。それらを通じて産業・労働分野に関わる公認心理師として、科学的な証拠に基づいた実践を行うための、基盤となる知識を身につける。産業・労働分野における問題と、各自の研究との接点を見出し、発展に繋げられるよう目指す。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・自己概念の基礎的な理論、知識を理解する。
- ・職場における様々な問題・課題について基礎的な知識を得る。
- ・社会心理学の知見が職場の問題解決にいかに応用・活用されてきたかを学び、その限界についても理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	産業組織心理学・社会心理学の諸概念について理解していない	産業組織心理学・社会心理学の諸概念について理解している	産業組織心理学・社会心理学の諸概念について理解して説明ができる	産業組織心理学・社会心理学の諸概念について理解して論文等を通じて説明ができる
思考・解決力				臨床にかかわる問題に

				ついて産業組織心理学・社会心理学の諸概念を使って解決ができる
--	--	--	--	--------------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 職場における自己について
- 第 2 回 自己効力感
- 第 3 回 自尊心感情
- 第 4 回 職場における自己同一視
- 第 5 回 自己高揚動機
- 第 6 回 自己制御
- 第 7 回 自己決定動機
- 第 8 回 職場における罪悪感の役割
- 第 9 回 職場内の社会的地位の影響
- 第 10 回 文化の研究と産業組織の研究の相互作用
- 第 11 回 印象操作
- 第 12 回 自己評価とアルコールの影響
- 第 13 回 フィードバックの影響
- 第 14 回 産業・労働分野に関わる心理士の実践
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

社会・産業組織心理学の新たな動向に関連する教科書を教材とし、各自が担当部分をまとめて報告し、そこに含まれる問題をディスカッションする形で授業を進める。必要に応じて、研究手法や分析手法について講義する。授業中わからない点があれば積極的に質問をし、またオフィスアワー等を利用して解決できるようにすること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間に次回以降の課題を指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業時間中の発表と質疑への取り組み (40%)、レポート (60%) を基に総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講生の人数、予備知識に応じて、授業内容、講義形式は柔軟に変更する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『The Self at Work: Fundamental Theory and Research』/D. L. Ferris, R. E. Johnson, and C. Sedikides/Taylor & Francis Group/2017/9781138648234/学内販売をしない予定
授業内で教材を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で適宜、紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学研究法特論

270015N0J
大学院
心理学研究科
2単位 前期
金曜 5限
—
60
森下 正修

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現在、心理学の研究法には、実験、調査、検査や面接などがあります。手法は様々ですが、多くの研究に共通しているのは、科学的な態度です。すなわち、実証性や客観性をできる限りそなえ、過去の知見を整合的に説明し、なおかつ新しい成果を得ようとするのが、現代の心理学研究には必須です。

そうした研究を自分で行うためには、事前計画の段階で、自説の論理構成を検討することと、データの収集方法を最適化することが大事になります。たとえば実験室実験において、妨害となる要素を可能な限り排除し、適切な実験方法を考えるにはどうすればよいか。大学の授業やオンラインで調査を行う場合、妥当性と信頼性のあるデータをどのように集めればよいか。臨床場面においてクライアントを対象とした研究を行う際に、研究計画や倫理の面でどのようなことに気をつけなければいけないか。事前計画の段階でいろいろなことに気を配らねばなりません。

さらに、データを得た後では、自説と照らし合わせて検証を行い、論文等にまとめることも必要です。論理的で説得的な実証研究論文を執筆するには、どういった点に留意すべきでしょうか。

本講義では、これらの問題に共通する理論的、実践的なポイントについて、実際の研究・論文の例をもとに解説してゆきます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文を見すえて、心理学研究における実験・調査に必要な基礎的知識とスキルを身につけ、実験室での実験や、学校・教育現場、臨床場面での調査において活用できる研究計画を立てられるようになること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、イントロダクション
本講義の進め方、評価方法と、全体の内容について説明します
- 第 2 回 心理学研究における科学性と倫理
心理学研究が科学研究としておこなわれるために必要とされる要素、および研究上の倫理を説明します
- 第 3 回 研究計画の基礎① 独立変数と従属変数
研究計画上の根幹をなす2つの変数について解説します
- 第 4 回 研究計画の基礎② 参加者間計画と参加者内計画
研究計画における参加者間計画と参加者内計画の違いを解説します
- 第 5 回 研究計画の基礎③ 統制
参加者間、参加者内計画の場合に必要な剰余変数の統制について説明します
- 第 6 回 研究・統計の批判的検討① 統制の不備、論理的矛盾
先行研究の方法上の不備や論理的な矛盾について検討しながら、自分の研究計画を考えるやり方について説明します
- 第 7 回 研究・統計の批判的検討② 構成要素の置換、新規要素の追加
先行研究の構成要素を抽出し、その置換や追加を検討しながら、自分の研究計画を考えるやり方について説明します
- 第 8 回 クリティカル・リーディング
これまでに説明した批判的検討の姿勢をもとに、実際の論文を読む練習をします
- 第 9 回 研究論文の執筆法① 「問題」の構成
研究論文の執筆に関し、まず「問題」をどのように構成していくのか、実例をもとにしながら解説します
- 第 10 回 研究論文の執筆法② 「方法」～「考察」の構成
研究論文の執筆に関し、「方法」「結果」「考察」「引用文献」の項で必要となる要素について解説します
- 第 11 回 研究実践① 実験法
実験研究を実施する際に具体的に留意すべき点について解説します。
- 第 12 回 研究実践② 質問紙調査法
質問紙による調査研究を実施する際に具体的に留意すべき点について解説します。
- 第 13 回 研究実践③ 質的研究法
面接や観察による質的研究を実施する際に具体的に留意すべき点について解説します。

第 14 回 レポート発表① 先行研究に対する批判的検討の報告

出席者が自分の研究のベースとなる先行研究を批判的に検討した結果を発表してもらい、討議します

第 15 回 レポート発表② 先行研究に対する批判的検討についての評価

出席者が自分の研究のベースとなる先行研究を批判的に検討した結果を発表してもらい、討議します

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

第14回、第15回にレポート発表があります。各自がクリティカルリーディングをおこなった結果を発表してもらい、その内容によって成績を評価します。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

独自に作成した講義プリントを配布します。実際の論文の読み方・まとめ方を指導するクリティカル・リーディングなどの実習も行います。

受講生の皆さんと対話しながら授業を進めていきます。

・レポート発表に対するフィードバック：その場で教員も含めて討論をしますので、今後の研究の参考にして下さい。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

自分自身の研究テーマに関し、どのような先行研究があるのか、わかっていないことは何か、どのような方法でそれを解明すればよいか、代表的な研究論文はどのような構成で書かれているかなどを普段から意識して学ぶようにしてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

講義内容を踏まえ、先行研究に対して批判的検討を加えたレポート発表を行ってもらいます。評価の比率は、授業参加度 (30%)、レポート発表 (70%) です。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊演習 I

270831NOJ

大学院
心理学研究科
1単位 前期

木曜6限
ー
30

向山 泰代 伊藤 一美 廣瀬 直哉 松島 るみ 高井 直美 尾崎 仁美 三好 智子 村松 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学特殊演習Iは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。

院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べるなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。

院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (各主指導・副指導教員)
- 第 2 回 演習 (課題の設定) (1) (各主指導・副指導教員)
- 第 3 回 演習 (課題の設定) (2) (各主指導・副指導教員)
- 第 4 回 演習 (課題の設定) (3) (各主指導・副指導教員)

- 第 5 回 演習 (課題の設定) (4) (各主指導・副指導教員)
- 第 6 回 演習 (課題の設定) (5) (各主指導・副指導教員)
- 第 7 回 演習 (課題の設定) (6) (各主指導・副指導教員)
- 第 8 回 演習 (課題の設定) (7) (各主指導・副指導教員)
- 第 9 回 演習 (課題の設定) (8) (各主指導・副指導教員)
- 第 10 回 経過発表 (1) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 11 回 経過発表 (2) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 12 回 経過発表 (3) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 13 回 経過発表 (4) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 14 回 経過発表 (5) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 15 回 経過発表 (6) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。

通常は、専門に近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科前期課程との合同で演習を実施し、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。

すなわち、授業中に重要事項について発問したり、回答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献にも十分目を通して参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊演習Ⅱ

270832NOJ

大学院
心理学研究科
1単位 後期

木曜6限

ー

30

向山 泰代 伊藤 一美 廣瀬 直哉 松島 るみ 高井 直美 尾崎 仁美 三好 智子 村松 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学特殊演習Ⅱは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。

院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べるなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。

院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 経過発表 (1) (各主指導・副指導教員)
- 第 2 回 経過発表 (2) (各主指導・副指導教員)
- 第 3 回 経過発表 (3) (各主指導・副指導教員)
- 第 4 回 経過発表 (4) (各主指導・副指導教員)
- 第 5 回 経過発表 (5) (各主指導・副指導教員)
- 第 6 回 経過発表 (6) (各主指導・副指導教員)
- 第 7 回

経過発表 (1) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)

第 8 回 経過発表 (2) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)

第 9 回 経過発表 (3) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)

第 10 回 経過発表 (4) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)

第 11 回 経過発表 (5) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)

第 12 回 経過発表 (6) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)

第 13 回 経過発表 (7) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)

第 14 回 経過発表 (8) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)

第 15 回 経過発表 (9) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。

通常は、専門の近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科前期課程との合同で演習を実施し、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。

すなわち、授業中に重要事項について発問したり、回答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊演習Ⅲ

270833NOJ
 大学院
 心理学研究科
 1単位 前期
 木曜6限
 ー
 30
 向山 泰代 伊藤 一美 廣瀬 直哉 松島 るみ 高
 井 直美 尾崎 仁美 村松 朋子 三好 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学特殊演習Ⅲは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。

院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べるなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。

院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。すなわち、査読つき論文2編以上の投稿を目指す。また、国内外において学術的な交流が可能になるよう、十分な英語能力の習得を目指す。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (各主指導・副指導教員)
- 第 2 回 演習 (課題の設定) (1) (各主指導・副指導教員)
- 第 3 回

- 演習 (課題の設定) (2) (各主指導・副指導教員)
- 第 4 回 演習 (課題の設定) (3) (各主指導・副指導教員)
- 第 5 回 演習 (課題の設定) (4) (各主指導・副指導教員)
- 第 6 回 演習 (課題の設定) (5) (各主指導・副指導教員)
- 第 7 回 演習 (課題の設定) (6) (各主指導・副指導教員)
- 第 8 回 演習 (課題の設定) (7) (各主指導・副指導教員)
- 第 9 回 演習 (課題の設定) (8) (各主指導・副指導教員)
- 第 10 回 経過発表 (1) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 11 回 経過発表 (2) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 12 回 経過発表 (3) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 13 回 経過発表 (4) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 14 回 経過発表 (5) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 15 回 経過発表 (6) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。通常は、専門に近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科前期課程との合同で演習を実施し、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。

すなわち、授業中に重要事項について発問したり、回答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊演習Ⅳ

270834NOJ

大学院

心理学研究科

1単位 後期

木曜6限

ー

30

向山 泰代 伊藤 一美 廣瀬 直哉 松島 るみ 高井 直美 尾崎 仁美 三好 智子 村松 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学特殊演習Ⅳは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。

院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べるなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。

院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。すなわち、査読つき論文2編以上の投稿を目指す。また、国内外において学術的な交流が可能になるよう、十分な英語能力の習得を目指す。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 経過発表 (1) (各主指導・副指導教員)
- 第 2 回 経過発表 (2) (各主指導・副指導教員)
- 第 3 回 経過発表 (3) (各主指導・副指導教員)
- 第 4 回 経過発表 (4) (各主指導・副指導教員)

- 第 5 回 経過発表 (5) (各主指導・副指導教員)
- 第 6 回 経過発表 (6) (各主指導・副指導教員)
- 第 7 回 経過発表 (1) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 8 回 経過発表 (2) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 9 回 経過発表 (3) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 10 回 経過発表 (4) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 11 回 経過発表 (5) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 12 回 経過発表 (6) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 13 回 経過発表 (7) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 14 回 経過発表 (8) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 15 回 経過発表 (9) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。

通常は、専門に近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科前期課程との合同で演習を実施し、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。

すなわち、授業中に重要事項について発問したり、回答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理実践実習Ⅱ a (学内実習)

270428NOJ
大学院
心理学研究科
1単位 後期集中
その他
—
15
三好 智子 向山 泰代 村松 朋子 空間 美智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、「心理相談の基本」と題し、「心理実践実習Ⅰ」での体験学習の上に成り立ち、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、個人面接を軸とした心理相談を実施している学内実習施設「心理臨床センター心理相談室」での業務を行う上での基本的事項を学ぶことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 心理相談における基本的マナーやふるまいなどコミュニケーション技術を習得する。
- 2) 心理アセスメントの実施・運用に関する基本的知識を習得する。
- 3) 心理相談面接における基本的な応答技法を習得する。
- 4) 心理相談への来談者のニーズを知り、アセスメントやケース運営について学ぶ。
- 5) 地域支援を視野に、心理相談室の社会的位置づけを理解し、多職種連携および地域連携を視野にいたした社会的資源等に関する知識を習得する。
- 6) 心理相談を開始するための、受付・受理からインターク面接、治療契約から面接開始までの一連の流れについて理解する。
- 7) 心理相談の運営を成り立たせるための治療構造の理解とその運用について理解する。
- 8) 心理的支援における公認心理師の職業倫理及び法的義務について学習・理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。

思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	公認心理師の職業倫理を理解できておらず、不適切なふるまいが見られる。	公認心理師の職業倫理を理解し、基本的ふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：空間・村松・三好・向山

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

大学に附設されている「心理臨床センター心理相談室」におけるケース担当のための基本的事項を学ぶため、30時間の実習を行う。受付業務などの相談室運営業務を実践し、「心理実践実習Ⅱ b」におけるケース担当の実例や仮想事例等について、ワークやグループディスカッションを用いながらの検討等を行う。また、本科目での学びについては、「実習記録ノート」に記載し、実習指導教員や実習指導者(心理臨床センター専門相談員を含む)の指導を受ける。課題に対するフィードバックの方法としては、実習中の発問に対し適宜口頭でフィードバックするとともに、「実習記録ノート」に個別にコメントして返却する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

「心理実践実習Ⅱ b」においてケース担当する中で、社会常識的な知識やふるまいについて、教員・指導者や他の受講生とのディスカッションを通じて、自己省察し自身の課題を整理しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習課題の遂行(ディスカッションやワークへの参加度など)(70点)、その他提出物・実習ノートなど(30点)によって、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅲ a (学内実習)

270430N0J

大学院

心理学研究科

2単位 前期集中

その他

—

22.5

三好 智子 向山 泰代

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、「心理相談の展開」と題し、「心理実践実習Ⅰ・Ⅱa・Ⅱb」、「心理実践実習ⅤAあるいはⅤA」、「心理実践実習Ⅶ」での体験学習の上に成り立っている。ケース検討会で、カウンセリング、心理療法、心理検査、心理臨床家としての基本的態度や倫理などについて指導を受ける。また、センターにおいて、センターの運営、業務内容などについても現場で体験を通して学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) センターにおいて、電話受付等、相談室の周辺業務について学ぶ。

(2) 事例検討会を通して、自分や他の実習者のケースの流れの見方、治療関係の見方などについて学ぶ。

(3) 事例報告の書き方について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。

思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	公認心理師の職業倫理を理解できておらず、不適切なふるまいが見られる。	公認心理師の職業倫理を理解し、基本的ふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：三好・向山

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

大学に附設の「心理臨床センター心理相談室」でのケース担当に必要な事項を学ぶため、67.5時間の実習を行う。受付業務などの相談室運営業務を実践し、「心理実践実習Ⅲb」におけるケース担当の実例や仮想事例等について、ワークやグループディスカッションを用いながらの検討等を行う。また、本科目での学びについては、「実習記録ノート」に記載し、実習指導教員や実習指導者（心理臨床センター専門相談員を含む）の指導を受ける。

フィードバックは、グループディスカッションや個別指導の中で、適宜口頭によりなされる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

「心理実践実習Ⅲb」のケース担当に関連して、心理的支援を実践するために必要な社会常識的な知識やふるまいについて自己省察し、相談室のさまざまなケースに触れて教員・指導者や他の受講生とのディスカッションを行う中で、自身の課題を整理しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

22

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習課題の遂行（ディスカッション、心理相談室運営に関わるワークへの参加、記述課題など）(70点)、その他提出物・実習ノートなど(30点)によって、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

センター業務は、基本的に長期休暇にかかわらず継続して行われる。

社会人として、また実習生として責任ある行動をとることが求められる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

臨床心理士・公認心理師として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅲ b (学内実習)

270431NOJ

大学院

心理学研究科

2単位 前期集中

その他

ー

16

伊藤 一美 三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 村松 朋子 中藤 信哉 空間 美智子 鶴田 薫 福山 幸子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、「心理相談の実践」と題し、「心理実践実習Ⅰ・Ⅱ a・Ⅱ b・Ⅴ AもしくはⅥ A・Ⅶ」での体験学習の上に成り立ち、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中で、本学附設の心理臨床センターの来談者に対し、受講者自身が心理相談や心理検査等の実践を行う。また、心理相談室の運営(受付対応、インテーク面接への陪席、相談室やプレイルーム設えの整備など)に携わり、心理相談を行う上での基本的な事項を踏まえてそれらを実践することを目的とする。

さらには、それまでの実践を踏まえ、自身が担当するケースについて、個々のクライアントへのより深い理解、また関係機関や他スタッフとの連携も視野に入れて支援計画を練り実践していくことを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

本学附設の心理相談室の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。

1. 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
4. 多職種連携および地域連携の理解と実践
5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。
思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	公認心理師の職業倫理を理解できておらず、不適切なふるまいが見られる。	公認心理師の職業倫理を理解し、基本的ふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：伊藤・三好・向山・佐藤・空間・村松・中藤

(ケース担当については各実習生にスーパーバイザーを配置し、そのほか実習課題に応じて指導担当を調整する)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学附設の心理相談室において、担当ケースに関わる実習として、74時間以上の実習を行う。具体的内容は以下のとおり。

1. インテーク面接に関する陪席・報告
2. ケース (心理相談) 担当とそれに伴う準備・事後対応 (記録など)
3. ケース担当に伴うスーパービジョンとそれに伴う準備・

事後対応（所見作成など）

4. 心理検査担当（フィードバック面接を含む）とそれに伴う準備・事後対応

5. 心理相談室カンファレンス等での発表

6. 担当ケースに関する関係機関とのカンファレンス等への陪席

実践内容は「実習記録ノート」に記載、担当ケースについては心理相談室のカルテ管理ルールに則り、記録作成および保管を行う。それら実習ノートおよび記録に基づき、実習指導者および実習担当教員の指導を受けること。フィードバックは、担当ケース運営の指導の中で、個別あるいはディスカッションの形式で、適宜口頭や記述コメントにより行われる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

M1段階での実習や「心理実践実習Ⅲ a」での学びと連動し、ケース運営に関する継続的な経験を通じて、社会常識的な知識やふるまい等について自分自身を振り返ったり、他の受講生の言動を見聞きしたりして、心理的支援の実践に必要な知識や態度について考えること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

実習課題の遂行（70点）、その他提出物・実習ノート・など（30点）によって、総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

心理臨床センターでの実習計画は、それまでの個々の実習状況を見ながら、実習指導者および実習担当教員と相談して個別に示される。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 臨床心理士・公認心理師として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅳ a (学内実習)

270432N0J

大学院

心理学研究科

2単位 後期集中

その他

ー

22.5

村松 朋子 空間 美智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目は、「心理相談の展開」と題し、「心理実践実習Ⅰ・Ⅱa～Ⅲa、Ⅱb～Ⅲb・Ⅴ～Ⅷ」での体験学習の上に成り立っている。ケース検討会で、カウンセリング、心理療法、心理検査、心理臨床家としての基本的態度や倫理などにつ

いて指導を受ける。また、学内実習施設「心理臨床センター」において、心理的支援を実践するために必要なセンターの運営、業務内容などについても現場で体験を通して学ぶ。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

(1) 心理臨床センターにおいて、電話受付等、相談室の周辺業務について学ぶ。

(2) ケース検討会を通して、自分や他の実習者のケースの流れの見方、治療関係の見方などについて学ぶ。

(3) ケース報告の書き方について学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。
思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	公認心理師(or臨床心理士)の職業倫理を理解できておらず、不適切なふるまいが見られる。	公認心理師(or臨床心理士)の職業倫理を理解し、基本的ふるまいができる。	公認心理師(or臨床心理士)の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	公認心理師(or臨床心理士)の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：村松・空間

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

大学に附設の「心理臨床センター心理相談室」でのケース担当に必要な事項を学ぶため、67.5時間の実習を行う。受付業務などの相談室運営業務を実践し、「心理実践実習IV b」におけるケース担当の実例や仮想事例等について、ワークやグループディスカッションを用いながらの検討等を行う。また、本科目での学びについては、「実習記録ノート」に記載し、実習指導教員や実習指導者（心理臨床センター専門相談員を含む）の指導を受ける。

フィードバックは、グループディスカッションや個別指導の中で、適宜口頭によりなされる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

「心理実践実習IV b」のケース担当に関連して、心理的支援を実践するために必要な社会常識的な知識やふるまいについて自己省察し、相談室のさまざまなケースに触れて教員・指導者や他の受講生とのディスカッションを行う中で、自身の課題を整理しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習課題の遂行（ディスカッションや心理相談室運営に関わるワークへの参加、記述課題など）(70点)、その他提出物・実習ノートなど（30点）によって、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

ケース検討会は履修生全員が一堂に会しての実施を含む。心理臨床センターでの実習計画は個別に示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

◀実践的科目▶ 臨床心理士・公認心理師として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習IV b (学内実習)

270433NOJ

大学院

心理学研究科

2単位 後期集中

その他

一

15

伊藤 一美 三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 村松 朋子 中藤 信哉 空間 美智子 鶴田 薫 福山 幸子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、「心理相談の実践」と題し、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中で、本学附設の心理臨床センターの来談者に対し、受講者自身が心理相談や心理検査等の実践を行う。また、心理相談室

の運営（受付対応、インテーク面接への陪席、相談室やブレイルーム設えの整備など）に携わり、心理相談を行う上での基本的な事項を踏まえてそれらを実践することを目的とする。

さらには、それまでの実践を踏まえ、自身が担当するケースについて、個々のクライアントへのより深い理解、また関係機関や他スタッフとの連携も視野に入れて支援計画を練り実践していくことを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

本学附設の心理相談室の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。

1. 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
4. 多職種連携および地域連携の理解と実践
5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。
思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。

職業倫理	公認心理師の職業倫理を理解できておらず、不適切なふるまいが見られる。	公認心理師の職業倫理を理解し、基本的ふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。
------	------------------------------------	-----------------------------	--	--

〔授業計画〕

授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：伊藤・三好・向山・佐藤・空間・村松・中藤

(ケース担当については各実習生にスーパーバイザーを配置し、そのほか実習課題に応じて指導担当を調整する)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学附設の心理相談室において、担当ケースに関わる実習として、30時間以上の実習を行う。具体的内容は以下のとおり。

1. ケース (心理相談) 担当とそれに伴う準備・事後対応 (記録など)
2. ケース担当に伴うスーパービジョンとそれに伴う準備・事後対応 (所見作成など)

そのほか、担当ケースの状況に応じて、心理検査担当、心理相談室カンファレンス等での発表、担当ケースに関する関係機関とのカンファレンス等への陪席などを行う場合もある。

実践内容は「実習記録ノート」に記載、担当ケースについては心理相談室のカルテ管理ルールに則り、記録作成および保管を行う。それら実習ノートおよび記録に基づき、実習指導者および実習担当教員の指導を受けること。

フィードバックは、担当ケース運営の指導の中で、個別あるいはディスカッションの形式で、適宜口頭や記述コメントにより行われる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

M2前期までの心理実践実習を踏まえ、「心理実践実習IVa」での学びと連動し、ケース運営に関する継続的な経験を通じて、社会常識的な知識やふるまい等について自分自身を振り返ったり、他の受講生の言動を見聞きしたりして、心理的支援の実践に必要な知識や態度について考えること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習課題の遂行 (70点)、その他提出物・実習ノート・など (30点) によって、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

心理臨床センターでの実習計画は、それまでの個々の実習状況を見ながら、実習指導者および実習担当教員と相談して個別に示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習V(学外実習)A

270434A0J

大学院

心理学研究科

2単位 後期集中

その他

—

34

薦田 未央 空間 美智子 高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている福祉分野等の学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

福祉分野等の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。

- 1.心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
- 2.心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
- 3.心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
- 4.多職種連携および地域連携の理解と実践
- 5.公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的

				に活用できる。
思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	公認心理師の職業倫理を理解できておらず、不適切なふるまいが見られる。	公認心理師の職業倫理を理解し、基本的なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 指定された福祉分野等に関する学外実習施設において56時間以上（原則毎週1日、8時間以上、但し実習施設により変更あり）、実習担当教員による大学等での指導を含めて、計60時間以上の実習を行う。
2. 心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケース等については実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
3. 担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
4. 担当ケース等の実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
5. 実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
6. 実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。
7. 実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配属先の福祉機関に関する情報（歴史、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでい

る、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設での実習課題の遂行（60点）、実習施設（実習指導者）による評価（15点）、実習担当教員による評価（15点）、その他提出物・実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 臨床心理士・臨床発達心理士として、福祉機関・医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習 V (学外実習) B

270434B0J

大学院

心理学研究科

2単位 前期集中

その他

—

34

薦田 未央 空間 美智子 高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている福祉分野等の学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

福祉分野等の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。

1. 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
4. 多職種連携および地域連携の理解と実践
5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。
思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	公認心理師の職業倫理を理解できておらず、不適切なふるまいが見られる。	公認心理師の職業倫理を理解し、基本的ふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 指定された福祉分野等に関する学外実習施設において56時間以上（原則毎週1日、8時間以上、但し実習施設により変更あり）、実習担当教員による大学等での指導を含めて、計60時間以上の実習を行う。
2. 心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケース等については実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
3. 担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
4. 担当ケース等の実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
5. 実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
6. 実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受

け、また実習記録により振り返りを行う。

7. 実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配属先の福祉機関に関する情報（歴史、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設での実習課題の遂行（60点）、実習施設（実習指導者）による評価（15点）、実習担当教員による評価（15点）、その他提出物・実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 臨床心理士・臨床発達心理士として、福祉機関・医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習VI(学外実習)A

270435A0J

心理学研究科
2単位 後期集中
その他

34

三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、心理実践実習Iで学習した知識と体験を踏まえ、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている教育分野等の学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

教育分野等の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。

1. 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践

4. 多職種連携および地域連携の理解と実践
 5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
 [ループリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	教育分野等での心理的支援に関する学びを通して自分を育てる動機が十分でない	教育分野等での心理的支援に関する学びを通して自分を育てる動機がある	教育分野等での心理的支援に関する学びを通して自分を育てる動機がかなりある	教育分野等での心理的支援に関する学びを通して自分を育てる動機が非常にある
知識・理解力	教育分野等での心理的支援に必要な知識・理解力が十分でない	教育分野等での心理的支援に必要な知識・理解力がある	教育分野等での心理的支援に必要な知識・理解力がかなりある	教育分野等での心理的支援に必要な知識・理解力が非常にある
言語力	教育分野等での心理的支援に必要な言語力が十分でない	教育分野等での心理的支援に必要な言語力がある	教育分野等での心理的支援に必要な言語力がかなりある	教育分野等での心理的支援に必要な言語力が非常にある
思考・解決力	与えられた課題について考える力が十分でない	与えられた課題について考える力がある	与えられた課題について考える力がかなりある	与えられた課題について考える力が非常にある
共生・協働する力	他者と協力して活動する力が十分でない	他者と協力して活動する力がある	他者と協力して活動する力がかなりある	他者と協力して活動する力が非常にある
創造・発信力	自分の考えを表現する力が十分でない	自分の考えを表現する力がある	自分の考えを表現する力がかなりある	自分の考えを表現する力が非常にある

〔授業計画〕

具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- 指定された教育分野等に関する学外実習施設において56時間以上（原則毎週1日、8時間以上、但し実習施設により変更あり）、実習担当教員による大学等での指導を含めて、計60時間以上の実習を行う。
- 心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケース等については実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
- 担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。

4. 担当ケース等の実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。

5. 実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。

6. 実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。

7. 実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配属先の実習施設に関する情報（沿革、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設での実習課題の遂行（60点）、実習施設（実習指導者）による評価（15点）、実習担当教員による評価（15点）、その他提出物・実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

心理実践実習VI(学外実習)B

270435B0J

大学院

心理学研究科

2単位 前期集中

その他

—

34

三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、心理実践実習Iで学習した知識と体験を踏まえ、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている教育分野等の学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

教育分野等の特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。

- 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケ

ーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得

2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
4. 多職種連携および地域連携の理解と実践
5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	教育分野等での心理的支援に関する学びを通して自分を育てる動機が十分でない	教育分野等での心理的支援に関する学びを通して自分を育てる動機がある	教育分野等での心理的支援に関する学びを通して自分を育てる動機がかなりある	教育分野等での心理的支援に関する学びを通して自分を育てる動機が非常にある
知識・理解力	教育分野等での心理的支援に必要な知識・理解力が十分でない	教育分野等での心理的支援に必要な知識・理解力がある	教育分野等での心理的支援に必要な知識・理解力がかなりある	教育分野等での心理的支援に必要な知識・理解力が非常にある
言語力	教育分野等での心理的支援に必要な言語力が十分でない	教育分野等での心理的支援に必要な言語力がある	教育分野等での心理的支援に必要な言語力がかなりある	教育分野等での心理的支援に必要な言語力が非常にある
思考・解決力	与えられた課題について考える力が十分でない	与えられた課題について考える力がある	与えられた課題について考える力がかなりある	与えられた課題について考える力が非常にある
共生・協働する力	他者と協力して活動する力が十分でない	他者と協力して活動する力がある	他者と協力して活動する力がかなりある	他者と協力して活動する力が非常にある
創造・発信力	自分の考えを表現する力が十分でない	自分の考えを表現する力がある	自分の考えを表現する力がかなりある	自分の考えを表現する力が非常にある

〔授業計画〕

具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 指定された教育分野等に関する学外実習施設において56時間以上 (原則毎週1日、8時間以上、但し実習施設により変更あり)、実習担当教員による大学等での指導を含め

て、計60時間以上の実習を行う。

2. 心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケース等については実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
3. 担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
4. 担当ケース等の実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
5. 実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
6. 実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。
7. 実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配属先の実習施設に関する情報 (沿革、理念、概要、利用者等) について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設での実習課題の遂行 (60点)、実習施設 (実習指導者) による評価 (15点)、実習担当教員による評価 (15点)、その他提出物・実習ノートなど (10点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

心理実践実習VII(学外実習)

270436N0J

大学院

心理学研究科

2単位 後期集中

その他

34

伊藤 一美 村松 朋子 中藤 信哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている保健医療分野等に関する学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

保健医療分野等の特徴および特殊性と関連付けて、以下を課題とする。

1. 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
4. 多職種連携および地域連携
5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。
思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	公認心理師の職業倫理を理解できず、不適切なふるまいが見られる。	公認心理師の職業倫理を理解し、基本的ふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 指定された保健医療分野等に関する学外実習施設において56時間以上（原則毎週1日・8時間以上、但し実習施設により変更あり）、実習担当教員による大学等での指導を含めて、計60時間以上の実習を行う。
2. 心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケースについては実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
3. 担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
4. 担当ケースの実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
5. 実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
6. 実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。
7. 実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配属先の実習施設に関する情報（沿革、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設での実習課題の遂行（60点）、実習施設（実習指導者）による評価（15点）、実習担当教員による評価（15点）、その他提出物・実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 臨床心理士・精神科医として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習Ⅷ(学外実習)

270437N0J
大学院
心理学研究科
2単位 前期集中
その他

34

伊藤 一美 村松 朋子 中藤 信哉 長田 洋和

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている保健医療分野等に関する学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。なお、本科目は「心理実践実習ⅤorⅥ」「心理実践実習Ⅶ」での体験学習の上に成り立っている。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

保健医療分野等の特徴および特殊性と関連付けて、以下を課題とする。

1. 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
 2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
 3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
 4. 多職種連携および地域連携
 5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
- 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。

思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	公認心理師の職業倫理を理解できておらず、不適切なふるまいが見られる。	公認心理師の職業倫理を理解し、基本的ふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 指定された保健医療分野等に関する学外実習施設において56時間以上（原則毎週1日・8時間以上、但し実習施設により変更あり）、実習担当教員による大学等での指導を含めて、計60時間以上の実習を行う。
2. 心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケースについては実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
3. 担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
4. 担当ケースの実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
5. 実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
6. 実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。
7. 実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配属先の実習施設に関する情報（沿革、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

20

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設での実習課題の遂行 (60点)、実習施設 (実習指導者) による評価 (15点)、実習担当教員による評価 (15点)、その他提出物・実習ノートなど (10点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 臨床心理士・精神科医として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理療法特論

270073N0J

大学院

心理学研究科

2単位 集中

その他

ー

60

杉原 保史

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理療法の入門書は、主要な学派の概要のバラバラで並列的な記述であるか、いずれか1つの学派についての体系的な記述であるか、そのいずれかであることが多い。そこでは入門者はいずれか1つの学派を選択し、もっぱら排他的にその学派を学んでいくことが暗黙の前提となっている。この講義は、この前提に挑戦するものである。受講学生が、異なる様々の学派間の隠れた共通性や両立可能性についての認識を深めること、ならびに、実践の中で複数の学派の知恵を調和的に活用できるための準備性を整えること、を目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

心理療法が多くの学派によって成り立っていることを理解し考察する／学派というものが持つ機能や性質について検討する／学派についての自らの姿勢を振り返る／学派を超えて共通する治療要因について学ぶ／統合的なアプローチについて理論的に学ぶ／ロールプレイなどの実習を行い体験的に学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・理解力	心理療法統合について知識がない	心理療法統合について部分的な知識がある	心理療法統合について基本的な知識がある	心理療法統合について基本的な知識を体系的に用いる
思考・解決力	心理療法について統合的な視点から考えることができない	心理療法についての考えに統合的な視点からの影響が少しは認められる	心理療法についての考えに統合的な視点からの影響が明確に見られる	心理療法について統合的な視点から考えることができる
共生・協働する力	グループ活動やロールプレイの場面で協働的な作業ができない	グループ活動やロールプレイの場面で受け身のながら協働作業ができる	グループ活動やロールプレイの場面で積極的に協働作業ができる	グループ活動やロールプレイの場面でリーダーシップをとって協働作業を促進できる
創造・発信力	心理療法統合について自分の言葉で意見を述べるができない	心理療法統合について素朴な感想を述べるができる	心理療法統合について自分の言葉で意見を述べるができる	心理療法統合について独創的な意見を述べるができる

〔授業計画〕

- 第1回 統合的アプローチとは
統合的アプローチの大枠について学ぶ。
- 第2回 学派とは何か
統合的アプローチとは学派の統合を推し進める立場である。統合の基礎にある学派とは何なのかを理解する。
- 第3回 学派を超えて共通する治療要因
どのような学派に基づく実践を行うセラピストでも、有能なセラピストが面接で行うことには共通するところがある。共通要因と呼ばれるそうした治療要素について学ぶ。
- 第4回 カウンセラーの話を聞き方について
どのような学派のセラピストも、クライアントの話を共感的に受容的に傾聴するスキルは必要である。学派を超えて共通の治療スキルとしての傾聴スキルについて学ぶ。
- 第5回 カウンセリングのデモンストレーション
傾聴スキルについて、単に知的に学ぶだけでなく、教員のデモンストレーション (実演) を見ることによって、モデル学習を推進する。
- 第6回 循環的心理力動論 (概論)
ポール・ワクテルの循環的心理力動論について概説する。
- 第7回 エクスポージャーについて
ポール・ワクテルの循環的心理力動論で重視されているエクスポージャーの技術とその適用について学ぶ。

- 第 8 回 トゥー・パーソンの視点
ポールワクテルの循環的心理力動論で重視されているトゥー・パーソンの視点について学ぶ
- 第 9 回 ロールプレイ実習（実技）
ロールプレイを通して体験的に学びを深める。
- 第 10 回 ロールプレイ実習（振り返り）
ロールプレイを振り返り、多面的に討議することを通して、実践的な学びを深める。
- 第 11 回 感情体験を深める技術の理解
感情に焦点づけ、感情を深めるための話の聴き方の基礎技術、スローダウン、トラッキング、アチューンメントといった技術について学ぶ
- 第 12 回 肯定的なものに焦点を当てる技術の実習
アフメーション、自己開示などによって、クライアントを肯定・承認する技術について学ぶ
- 第 13 回 カウンセラーの言葉の技術（概説）
どのような学派の実践をするにせよ、言葉を治療的に用いるスキルは必須である。言葉の技術の必要性と治療的意義について概説する。
- 第 14 回 カウンセラーの言葉の技術（さまざまな工夫）
カウンセラーがクライアントに効果的に治療的メッセージを届けるための言葉の工夫について例を挙げながら紹介する。
- 第 15 回 カウンセラーの言葉の技術（集団的討議）
臨床場面のいくつかの例を取り上げ、そこでどのようにクライアントに言葉をかけるかについて、グループ討議によって検討し、言葉の技術についての実践的な理解を深める。
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕
講義、論文やテキストの講読、質疑、討議、実習。レポート課題に対するフィードバックは、採点后、電子メール等により行う。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
テキストの購読、配布資料の精読。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕
10
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕
評価は、質疑や討議や実習への参加の様子を50%、レポートを50%として行う。
- 〔留意事項（Other Information）〕
〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕
『芸芸としてのカウンセリング入門』/杉原保史/創元社/2012/4422115464/学内販売予定
〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕
『心理療法の統合を求めて』/ワクテルP/金剛出版/2002/477240726X
『心理療法家の言葉の技術』/ワクテルP/金剛出版/

2004/4772408290
『説得と治療』/フランクとフランク/金剛出版/2007/4772409912
『統合的アプローチによる心理援助』/杉原保史/金剛出版/2009/4772410694
〔参考URL(URL for Reference)〕
〔実務経験のある教員による実践的科目〕
≪実践的科目≫
臨床心理士として、大学での心理的支援（学生相談）の勤務経験あり。その他にも、精神病院での臨床心理士としての（嘱託）勤務経験あり。

精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開 a)

270410NOJ
大学院
心理学研究科
2単位 前期
金曜 2限
—
60
河瀬 雅紀

〔科目の教育目標（Course Description）〕

精神医療の現場では、患者が示すさまざまな心と行動の問題に直面することになる。そこで本科目では、
①精神医学的な診断の枠組みを事例の見立てに応用することができる
②精神症状を呈する事例を読み取り、精神医学的診断及び治療と関連づけて支援の具体的なプランを立てることができる
③種々の臨床心理学的介入法から事例に適したものを選択し、精神医学的診断及び治療と関連づけて具体的な支援計画を立てることができる
④リエゾン精神医学について説明することができる
⑤他職種との連携、社会資源の活用のあるり方を説明することができる
⑥精神科薬物療法の基本的な事項について説明できることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- (1) 不安・抑うつなど主な病態について、事例に適した心理学的介入法を選択し、精神医学的診断及び治療と関連づけて具体的な支援計画を立てることができる
(2) 抗精神病薬・抗うつ薬・抗不安薬などの作用機序・副作用などについて説明できる
(3) 身体科治療中に生じる精神医学的問題（症状性精神障害、適応障害など）について説明できる
(4) リエゾン精神医学の概念・アプローチについて説明できる
(5) 緩和医療・グリーフケアについて説明できる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

精神医学的診断の枠組みについて	精神医学的アセスメントの基本的事項の知識がない	精神医学的アセスメントの基本的事項について、資料を用いて説明できる	精神医学的アセスメントの基本的事項について、自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる	精神医学的アセスメントの基本的事項について、事例に即して説明できる
不安・抑うつなどの病態について	知識がない	事例のなかで、不安・抑うつなどの病態を同定できる	事例のなかで、不安・抑うつなどの病態について説明できる	事例のなかで、不安・抑うつなどの病態について、支援の計画を立てることができる
リエゾン精神医学について	知識がない	リエゾン精神医学の概念・アプローチについて、知識がある	リエゾン精神医学の概念・アプローチについて、資料を用いて説明できる	事例のなかで、リエゾン精神医学のアプローチについて説明できる
身体科治療中に生じる精神医学的問題について	知識がない	身体科治療中に生じる精神医学的問題についての知識がある	身体科治療中に生じる精神医学的問題について、資料を用いて説明できる	事例のなかで、身体科治療中に生じる精神医学的問題について説明できる
チームアプローチについて	知識がない	チームアプローチについて、知識がある	チームアプローチについて、自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる	緩和医療などを題材に、チームアプローチについて、説明できる
向精神薬について	向精神薬について、知識がない	主な向精神薬の作用機序について、知識がある	主な向精神薬の作用機序と副作用について、資料を用いて説明できる	事例のなかで、主な向精神薬の意義と位置づけを説明できる

〔授業計画〕

第 1 回

事例に対する精神医学的アセスメントの基本的事項について（概論）

第 2 回

事例に対する心理学的アセスメントの基本的事項（精神医学的視点から）

第 3 回

うつ理解の原則について

第 4 回

精神医療と心理学的介入との関連について（うつ症状を呈する事例を通して）

第 5 回

精神科薬物療法の基礎（概論、抗精神病薬）

第 6 回

精神科薬物療法の基礎（抗うつ薬・抗不安薬など）

第 7 回

精神科薬物療法の基礎（その他）

第 8 回

精神医療の現場で必要となる症状評価を学ぶ（実習までに身につけること）
－ 認知症関連 －

第 9 回

総合病院におけるリエゾン精神医学（概論、せん妄など）

第 10 回

リエゾン精神医学からみたチーム医療と心理学的介入

第 11 回

精神医療の現場で必要となる症状評価を学ぶ（実習までに身につけること）
－ うつ、不安など －

第 12 回

喪失・悲嘆と精神医学（緩和医療・グリーフケア）

第 13 回

精神医療と法律、福祉制度

第 14 回

精神医療における社会資源について（事例 1）

第 15 回

精神医療における社会資源について（事例 2）
〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

プリント資料、スライド、視聴覚教材などを用いて、質疑・討論を行い、理解を深める。

すなわち、授業中には重要事項について発問し、学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックすることにより理解を深める

事例を用いての討論を多く取り入れる。

毎回の講義後、配布資料および参考文献などにより復習をすること。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

精神医学の教科書（精神医学（MINOR TEXTBOOK）, 金芳堂など）から、統合失調症、気分障害、不安障害、ストレス関連障害、発達障害の項目を読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

質疑・討議の参加状況を30%、課題の提出・発表を70%として、総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

学部で学習した精神医学の基礎を身につけていることを前提に講義は進められる。そのため、受講にあたっては精神医学の基礎知識の再確認をしておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『うつ病 知る・治す・防ぐ』/福居顯二/金芳堂//

『DSM-V 精神疾患の診断・統計マニュアル』/高橋三郎他(訳)/医学書院//

『精神医学(MINOR TEXTBOOK)第12版』/加藤伸勝/金芳堂/2013/

『僕のこころを病名で呼ばないで』/青木省三/ちくま文庫//

『若者の「うつ」』/傅田健三/ちくまプリマー新書//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 精神科医として医療機関等での勤務経験あり。

青年心理学特論

270034NOJ
大学院
心理学研究科
2単位 後期
火曜 3限
ー
60
尾崎 仁美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

青年期は、子どもから大人への移行期である。第二の誕生の時期ともいわれ、心身の両面において重要な変容を遂げる。

本科目では、青年期における心身の発達の諸相、発達課題、自己の形成と確立、対人関係(友人関係・恋愛関係)、適応・不適応、進路選択・進路意識などについて論じる。青年期は、自己が質的に変化し再構成される時期であり、自分自身が一つの課題となる時期であるので、自己に関わる諸問題についても考察する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 青年期の発達の諸相について理解を深める。
2. 青年期に生じる諸問題を考察する。
3. 現代青年における諸問題に関して理解を深める。
4. 青年期に関する各自の問題意識を啓発する。
5. 青年を対象とした研究法について理解を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についている。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	青年心理学の知識や研究法に関する知識が身についている。	ある程度、青年心理学の知識や研究法に関する知識を身につけている。	おおむね青年心理学の知識や研究法に関する知識を身につけている。	青年心理学の知識や研究法に関する知識を十分身につけている。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり、先行研究を適切に説明する力が身についている。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり、先行研究を適切に説明する力が身についている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり、先行研究を適切に説明する力が身についている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり、先行研究を適切に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	青年期に生じる諸問題について、心理学の知識や方法で解決したり考察したりする力が身についている。	ある程度、青年期に生じる諸問題について、心理学の知識や方法で解決したり考察したりする力が身についている。	おおむね青年期に生じる諸問題について、心理学の知識や方法で解決したり考察したりする力が身についている。	青年期に生じる諸問題について、心理学の知識や方法で解決したり考察したりする力が十分身についている。
共生・協働する力	学習者とディスカッションしたり、協働しながら問題解決しようとするスキルが身についている。	ある程度、学習者とディスカッションしたり、協働しながら問題解決しようとするスキルが身についている。	おおむね学習者とディスカッションしたり、協働しながら問題解決しようとするスキルが身についている。	学習者とディスカッションしたり、協働しながら問題解決しようとするスキルが身についている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活に活かせる力が身についている。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活に活かせる力を身につけている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活に活かせる力を身につけている。	学習したことを他者に説明したり、実生活に活かせる力を十分身につけている。

〔授業計画〕

第 1 回 青年期と現代青年における課題

第 2 回 青年期における身体と心およびジェンダー、セクシュアリティ

- 第 3 回 論文講読発表と討論（青年期における身体と心およびジェンダー、セクシュアリティに関して）
- 第 4 回 青年期における自己形成（自我の発達・アイデンティティ形成）
- 第 5 回 論文講読発表と討論（青年期における自己形成に関して）
- 第 6 回 青年期における対人関係①（親子関係）
- 第 7 回 青年期における対人関係②（友人関係・恋愛関係）
- 第 8 回 論文講読発表と討論（青年期における対人関係に関して）
- 第 9 回 青年期とメディアの関わり
- 第 10 回 論文講読発表と討論（青年期とメディアとの関わりに関して）
- 第 11 回 青年期における適応・不適応
- 第 12 回 論文講読発表と討論（青年期における適応・不適応に関して）
- 第 13 回 青年期における進路・キャリア選択
- 第 14 回 論文講読発表と討論（青年期における進路・キャリア選択に関して）
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 講義形式と演習形式（論文講読）を並行して授業を進める。
2. 講義では、教科書は使用せず、必要に応じてレジュメを配布する。
3. 演習（論文講読）では、受講者各自が専門論文を講読し、概要と考察を発表して討論を行う。
4. ただ知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深め、研究を発展させる態度が望まれる。
5. 授業中の発問に対する受講生の回答に対して、適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。
2. 次の授業内容について概要を把握しておくこと。
3. 発表に際しては、論文を精読し、発表用スライド（レジュメ）を作成すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

レポート（40%）、発表と討論参加（60%）を総合して評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153A0J
大学院
心理学研究科
4単位 集中
その他
—
必修
伊藤 一美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

- ① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
- ② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
- ③ データ処理の適否
- ④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
- ⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

[参考URL(URL for Reference)]
[実務経験のある教員による実践的科目]

特別研究

270153C0J
大学院
心理学研究科
4単位 集中
その他
—
必修
尾崎 仁美

[科目の教育目標 (Course Description)]

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

[授業計画]

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

—

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

[留意事項 (Other Information)]

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

特別研究

270153D0J
大学院
心理学研究科
4単位 集中
その他
—
必修
後藤 伸彦

[科目の教育目標 (Course Description)]

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

[授業計画]

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

—

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

[留意事項 (Other Information)]

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153G0J
大学院
心理学研究科
4単位 集中
その他
—
必修
薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153H0J
大学院
心理学研究科
4単位 集中
その他
—
必修
佐藤 睦子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153IOJ
大学院
心理学研究科
4単位 集中
その他
ー
必修
空間 美智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

ー

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153JOJ
大学院
心理学研究科
4単位 集中
その他
ー
必修
高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

ー

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153L0J
大学院
心理学研究科
4単位 集中
その他
ー
必修
廣瀬 直哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別

指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

ー

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153M0J
大学院
心理学研究科
4単位 集中
その他
ー
必修
松島 るみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

27015300J

大学院
心理学研究科
4単位 集中
その他
—
必修
三好 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

発達心理学特論

270032N0J

大学院
心理学研究科
2単位 後期
金曜 4限
—

60

発達・学校心理学専攻は必修
高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ピアジェ、ヴィゴツキーなどの発達の基本的理論、および昨今の重要な研究について紹介する。また、子どもを対象とした発達検査や知能検査の成り立ちについて、学ぶ。そして、発達に問題が生じている子ども、障害を持っている子どもの発達過程や個人差について理解し、福祉や教育の現場でどのような支援を行うことができるか、考察する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

以下に示す個別課題をふまえて授業を進める。

- ・発達の基本的理論の今日的意義
- ・子どもを対象とする心理的アセスメントの意義と実際
- ・発達に障害がある幼児・児童に対する支援の関わり

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力	発達心理学の理論を発達臨床に活かそうとする動機を持たない。	発達心理学の理論を発達臨床に活かそうとする動機を持っている。	発達心理学の理論を発達臨床に活かそうとする動機を持ち、積極的に学んでいる。	発達心理学の理論を発達臨床に活かそうとする動機を持ち、さらに学びの成果を発達臨床に活かそうとしている。
知識・理解力	発達心理学の基礎知識・理解力がない。	発達心理学の基礎知識・理解力をわずかに持っている。	発達心理学の基礎知識・理解力を持っている。	発達心理学の基礎知識・理解力をかなり持っている。
言語力	発達心理学の課題について、言語化できない。	発達心理学の課題について、わずかに言語化できる。	発達心理学の課題について、言語化できる。	発達心理学の課題について、かなり言語化できる。
思考・解決力	実践研究の問題について考えることができない。	実践研究の問題について、わずかに考えることができる。	実践研究の問題について、考えることができる。	実践研究の問題について、かなり考えることができる。
共生・協働する力	発達心理学の知識と子どもとの関りを結びつけることができない。	発達心理学で学んだことを子どもとの関りに結び付けることがわずかに可能である。	発達心理学で学んだことを子どもとの関りに結び付けることが可能である。	発達心理学で学んだことを子どもとの関りに結び付けることがかなり可能である。
創造・発信力	文献をまとめ発表することができない。	文献をまとめ発表することが、ある程度できる。	文献をまとめ発表することが、十分できる。	文献をまとめ発表することが、かなり高いレベルでできる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 発達の要因
発達心理学の歴史と遺伝と環境の相互作用
- 第 2 回 発達の障害
さまざまな発達の障害について
- 第 3 回 発達の基本的理論①：社会性の発達
精神分析理論とアタッチメント理論など
- 第 4 回 発達の基本的理論②：認知発達
ピアジェの発生的認識論など
- 第 5 回 発達の基本的理論③：言語発達
心理社会的発達段階論、ヴィゴツキーの理論など
- 第 6 回 知能検査論
知能検査の歴史と現在

- 第 7 回 発達検査論
発達検査の歴史と現在
- 第 8 回 研究例①
実践研究・事例研究の検討①—最新の研究例から—
(受講生による文献発表)
- 第 9 回 研究例②
実践研究・事例研究の検討②—事例研究から—
(受講生による文献発表)
- 第 10 回 研究例③
実践研究・事例研究の検討③—アクションリサーチなど—
(受講生による文献発表)
- 第 11 回 実践研究
実践研究のまとめと研究上の倫理的配慮について
- 第 12 回 発達アセスメント①
新版K式発達検査から見た発達のみかた
- 第 13 回 発達アセスメント②
WISC系の知能検査から見た発達のとらえ方
- 第 14 回 発達アセスメント③
検査のロールプレイ
- 第 15 回 理論と実践のはざままで
発達の基本的理論をどのように実践に生かすか考える

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

発達心理学の基本的理論、およびいくつかの重要な研究について、詳細に理解する。発達に障害を持っている子どもの発達についても学び、支援の仕方について、事例を通して具体的に学ぶ。さらには、臨床発達の現場で行われているアセスメントについて、ロールプレイも導入して、理解する。また、各受講生には最低1回は、文献発表を行ってもらう。

課題レポートについてのフィードバックは、提出後に個別にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

大学院に入学する前に学んだ基礎的な発達理論について、復習をしておくこと。学部時代の学びが不十分であると感じた場合は、参考文献を紹介するので、その旨申し出てほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業中の文献発表を30%、課題レポートを70%として、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

順番は変わることがある。また受講生の数によって、研究発表の授業回数が変わることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)

270420NOJ

大学院

心理学研究科

2単位 前期

火曜2限

ー

60

藤川 洋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

犯罪を扱う司法機関は、それぞれの機関の役割が法律によって厳密に規定されている。法制度の概要とその理念を理解することにより人権感覚を養っておくことは、公認心理師や臨床心理士にとって不可欠なことと言える。一方、加害者・被害者の司法臨床場面において、臨床心理学や発達心理学の視点の必要性は増すばかりである。特に精神鑑定、心理鑑定においては、治療機関とは異なる面接方法(司法面接)が用いられ、事実をどう分析するか、が大きな課題となる。公認心理師、臨床心理士の資格取得を視野に、法制度の理解とともにアセスメントや司法面接テクニックの修得をめざす。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

司法機関の仕組みと役割を理解し、司法領域で経験するテーマにつき、学生が自ら掘り下げてまとめ、発表する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分を育てようとしない	自分の能力を伸ばそうとする	自分の過去現在を客観的に分析し、目標を立てて努力する	自身の成長を実感し、さらに成長しようと努力を重ねる
知識・理解力	与えられた課題を理解しない	社会制度に関心を持つ	法制度と人間心理の関係を理解する	知識をもとに複雑な事例の分析ができる
言語力	必要な言語力を持たない	基本的な語彙力を持つ	専門用語を正確に理解する	専門用語を駆使して適切な表現ができる
思考・解決力	与えられた課題を理解しない	課題を理解し、努力する	解決に向けて課題を整理して考える	複雑な要因を分析して解決に向けて立案や提言ができる

共生・協働する力	共生・協働ができない	協力し合うことができる	よい協働関係を築くことができる	協働関係のなかでリーダーシップをとることができる
創造・発信力	与えられた課題をしない	課題としての創造や発信をする	自ら新たな経験に挑戦する	実践や創造を他者に向けて発信することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 司法領域における犯罪心理学の役割と課題
- 第 2 回 司法機関について—少年事件の流れと処遇機関の役割
- 第 3 回 司法機関について—成人事件の流れと処遇機関の役割
- 第 4 回 法律の目的と犯罪心理学—少年法 児童福祉法 児童虐待防止法
- 第 5 回 法律の目的と犯罪心理学—少年鑑別所法、少年院法
- 第 6 回 法律の目的と犯罪心理学—刑法、刑事訴訟法
- 第 7 回 法律の目的と犯罪心理学—心神喪失者等医療観察法 発達障害者支援法など
- 第 8 回 法律の目的と犯罪心理学—いじめ防止対策推進法 ストーカー規制法 DV防止法など
- 第 9 回 精神鑑定・心理鑑定に期待されるもの—犯罪をどう分析するか
- 第 10 回 過去の鑑定例から、犯罪理解の変遷を知る(わが国において)
- 第 11 回 過去の鑑定例から、犯罪理解の変遷を知る(先進諸外国において)
- 第 12 回 近年の鑑定例
- 第 13 回 司法面接と治療的面接の違いを知る
- 第 14 回 司法面接のテクニックと演習
- 第 15 回 全体のまとめと意見交換

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

担当領域の発表と確認小テストの実施により知識の定着をはかる

できるだけ多くの鑑定例にあたり、犯罪心理の専門家のあり方を学ぶ

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

宿題としての課題から、自らテーマを見つけ、掘り下げて報告する

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点50% プレゼンテーションや実習の能力50%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『触法発達障害者への複合的支援』/藤川洋子・井出浩編著/福村出版/2011/978-4-571-42040-5

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

家庭裁判所調査官として、5000件に及ぶ少年事件について調査実務に携わったほか、精神障害や発達障害が疑われる刑事事件について、精神鑑定に従事した。

臨床心理学専門演習Ⅰ

270235A0J

大学院

心理学研究科

2単位 前期

水曜2限

ー

60

臨床心理学専攻必修

尾崎 仁美 伊藤 一美 向山 泰代 高井 直美 松島 るみ 三好 智子 薦田 未央 廣瀬 直哉 佐藤 睦子 空間 美智子 村松 朋子 中藤 信哉 後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。

2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。

3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的に研究に取り組む力が身についていない。	ある程度、自律的で積極的に研究に取り組む力が身についている。	おおむね自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身についている。	自律的で積極的に研究に取り組む力が十分身についている。

知識・理解力	専門分野に関する知識や研究法の知識が身についていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	専門分野に関する知識や研究法の知識が十分身についている。
言語力	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	おおむね研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身についている。
共生・協働する力	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	研究結果を他者に発信する力が身についていない。	ある程度、研究結果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究結果を他者に発信する力を身につけている。	研究結果を他者に発信する力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (担当教員全員)
- 第 2 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 3 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 4 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 5 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 6 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 7 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 8 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 9 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 10 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 11 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 12 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 13 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 14 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 15 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

専攻に所属する院生と教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の院生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。

評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめ、研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表 (プレゼンテーション) の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理学専門演習 I

270235B0J

大学院

心理学研究科

2単位 前期

金曜 6限

ー

60

臨床心理学専攻必修

尾崎 仁美 伊藤 一美 向山 泰代 高井 直美 松島 るみ 三好 智子 薦田 未央 廣瀬 直哉 佐藤 睦子 空間 美智子 村松 朋子 中藤 信哉 後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究

の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。

2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。

3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的に研究に取り組む力が身についていない。	ある程度、自律的で積極的に研究に取り組む力が身についている。	おおむね自律的に研究に取り組む十分な力が身についている。	自律的で積極的に研究に取り組む力が十分身についている。
知識・理解力	専門分野に関する知識や研究法の知識が身についていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	専門分野に関する知識や研究法の知識が十分身についている。
言語力	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	おおむね研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身についている。
共生・協働する力	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	研究結果を他者に発信する力が身についていない。	ある程度、研究結果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究結果を他者に発信する力を身につけている。	研究結果を他者に発信する力を十分に身につけている。

	についてい ない。	につけてい る。	つけてい る。	分身につけ ている。
--	--------------	-------------	------------	---------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (担当教員全員)
- 第 2 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 3 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 4 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 5 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 6 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 7 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 8 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 9 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 10 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 11 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 12 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 13 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 14 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 15 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

専攻に所属する院生と教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の院生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。

評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめ、研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表 (プレゼンテーション) の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理学専門演習 II

270236A0J

大学院

心理学研究科

2単位 後期

水曜2限

—

60

臨床心理学専攻必修

後藤 伸彦 尾崎 仁美 伊藤 一美 薦田 未央 三
好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 村松 朋子 中
藤 信哉 廣瀬 直哉 長田 洋和 松島 るみ 空
間 美智子 高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。
- 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。
- 3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的に研究に取り組む力が身につけていない。	ある程度、自律的で積極的に研究に取り組む力が身につけている。	おおむね自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身につけている。	自律的で積極的に研究に取り組む力が十分身につけている。
知識・理解力	専門分野に関する知識や研究法の知識が身につけていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識が身につけている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識が身につけている。	専門分野に関する知識や研究法の知識が十分身につけている。
言語力	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身につけていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身につけている。	おおむね研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身につけている。	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が十分身につけている。
思考・解決力	心理学の知識や方法論	ある程度、心理学の知	おおむね心	心理学の知識や方法論

	を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身につかない。	識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身についている。
共生・協働する力	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身につかない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	研究結果を他者に発信する力が身につかない。	ある程度、研究結果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究結果を他者に発信する力を身につけている。	研究結果を他者に発信する力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 2 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 3 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 4 回 研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 5 回 研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 6 回 研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 7 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 8 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 9 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 10 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 11 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 12 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 13 回 研究成果発表 (M 2 修士論文発表会) (担当教員全員)
- 第 14 回 研究成果発表 (M 2 修士論文発表会) (担当教員全員)
- 第 15 回 研究成果発表 (M 2 修士論文発表会) (担当教員全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

専攻に所属する院生と教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の院生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発

表資料に対するコメントによって、適宜行われる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめ、研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理をしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表 (プレゼンテーション) の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理学専門演習 II

270236BOJ

大学院

心理学研究科

2単位 後期

金曜 6限

ー

60

臨床心理学専攻必修

後藤 伸彦 尾崎 仁美 伊藤 一美 薦田 未央 三
好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 村松 朋子 中
藤 信哉 廣瀬 直哉 長田 洋和 松島 るみ 空
間 美智子 高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。
- 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。
- 3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	自律的で積極的に研究に取り組む力が身についていない。	ある程度、自律的で積極的に研究に取り組む力が身についている。	おおむね自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身についている。	自律的で積極的に研究に取り組む力が十分身についている。
知識・理解力	専門分野に関する知識や研究法の知識が身についていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	専門分野に関する知識や研究法の知識が十分身についている。
言語力	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	おおむね研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身についている。
共生・協働する力	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	研究結果を他者に発信する力が身についていない。	ある程度、研究結果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究結果を他者に発信する力を身につけている。	研究結果を他者に発信する力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 2 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 3 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 4 回 研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 5 回 研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 6 回 研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 7 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 8 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 9 回 研究計画発表 (担当教員全員)

- 第 10 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 11 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 12 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 13 回 研究成果発表 (M2 修士論文発表会) (担当教員全員)
- 第 14 回 研究成果発表 (M2 修士論文発表会) (担当教員全員)
- 第 15 回 研究成果発表 (M2 修士論文発表会) (担当教員全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

専攻に所属する院生と教員が参加し、研究会方式を進める。院生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の院生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。

評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめ、研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表 (プレゼンテーション) の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理学専門演習Ⅲ

270237A0J

大学院
心理学研究科
2単位 前期
水曜2限

ー
60

臨床心理学専攻必修

尾崎 仁美 伊藤 一美 向山 泰代 高井 直美 松
島 るみ 三好 智子 薦田 未央 廣瀬 直哉 佐
藤 睦子 空間 美智子 村松 朋子 中藤 信哉 後
藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。
- 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。
- 3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的に研究に取り組む力が身についていない。	ある程度、自律的で積極的に研究に取り組む力が身についている。	おおむね自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身についている。	自律的で積極的に研究に取り組む力が十分身についている。
知識・理解力	専門分野に関する知識や研究法の知識が身についていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	専門分野に関する知識や研究法の知識が十分身についている。
言語力	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	おおむね研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が十分身についている。

思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身についている。
共生・協働する力	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	研究結果を他者に発信する力が身についていない。	ある程度、研究結果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究結果を他者に発信する力を身につけている。	研究結果を他者に発信する力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (担当教員全員)
- 第 2 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 3 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 4 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 5 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 6 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 7 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 8 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 9 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 10 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 11 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 12 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 13 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 14 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 15 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

専攻に所属する院生と教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の院生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発

表資料に対するコメントによって、適宜行われる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめ、研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理学専門演習Ⅲ

270237B0J
大学院
心理学研究科
2単位 前期
金曜 6限
ー
60

臨床心理学専攻必修

尾崎 仁美 伊藤 一美 向山 泰代 高井 直美 松島 るみ 三好 智子 薦田 未央 廣瀬 直哉 佐藤 睦子 空間 美智子 村松 朋子 中藤 信哉 後藤 伸彦

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。
- 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。
- 3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	自律的で積極的に研究に取り組む力が身についていない。	ある程度、自律的で積極的に研究に取り組む力が身についている。	おおむね自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身についている。	自律的で積極的に研究に取り組む力が十分身についている。
知識・理解力	専門分野に関する知識や研究法の知識が身についていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	専門分野に関する知識や研究法の知識が十分身についている。
言語力	研究結果を言語化したたり、他者に説明する力が身についていない。	ある程度、研究結果を言語化したたり、他者に説明する力が身についている。	おおむね研究結果を言語化したたり、他者に説明する力が身についている。	研究結果を言語化したたり、他者に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身についている。
共生・協働する力	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	研究結果を他者に発信する力が身についていない。	ある程度、研究結果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究結果を他者に発信する力を身につけている。	研究結果を他者に発信する力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (担当教員全員)
- 第 2 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 3 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 4 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 5 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 6 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 7 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 8 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 9 回 研究計画発表 (担当教員全員)

- 第 10 回 研究計画発表 (担当教員全員)
 - 第 11 回 研究計画発表 (担当教員全員)
 - 第 12 回 研究計画発表 (担当教員全員)
 - 第 13 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
 - 第 14 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
 - 第 15 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

専攻に所属する院生と教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の院生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。

評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめ、研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表 (プレゼンテーション) の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理学専門演習Ⅳ

270238A0J

大学院

心理学研究科

2単位 後期

水曜2限

ー

60

臨床心理学専攻必修

後藤 伸彦 尾崎 仁美 伊藤 一美 薦田 未央 三
好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 村松 朋子 中
藤 信哉 廣瀬 直哉 長田 洋和 松島 るみ 空
間 美智子 高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。
- 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。
- 3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的に研究に取り組む力が身についていない。	ある程度、自律的で積極的に研究に取り組む力が身についている。	おおむね自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身についている。	自律的で積極的に研究に取り組む力が十分身についている。
知識・理解力	専門分野に関する知識や研究法の知識が身についていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	専門分野に関する知識や研究法の知識が十分身についている。
言語力	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	おおむね研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が十分身についている。

思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身につけていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身につけている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身につけている。	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身につけている。
共生・協働する力	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身につけていない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	研究結果を他者に発信する力が身につけていない。	ある程度、研究結果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究結果を他者に発信する力を身につけている。	研究結果を他者に発信する力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 研究計画および研究経過発表（担当教員全員）
- 第 2 回 研究計画および研究経過発表（担当教員全員）
- 第 3 回 研究計画および研究経過発表（担当教員全員）
- 第 4 回 研究経過発表（担当教員全員）
- 第 5 回 研究経過発表（担当教員全員）
- 第 6 回 研究経過発表（担当教員全員）
- 第 7 回 研究計画発表（担当教員全員）
- 第 8 回 研究計画発表（担当教員全員）
- 第 9 回 研究計画発表（担当教員全員）
- 第 10 回 研究計画発表（担当教員全員）
- 第 11 回 修士論文経過発表（担当教員全員）
- 第 12 回 修士論文経過発表（担当教員全員）
- 第 13 回 研究成果発表（M2 修士論文発表会）（担当教員全員）
- 第 14 回 研究成果発表（M2 修士論文発表会）（担当教員全員）
- 第 15 回 研究成果発表（M2 修士論文発表会）（担当教員全員）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

専攻に所属する院生と教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の院生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。

評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめ、研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理しておくこと。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理学専門演習Ⅳ

270238BOJ

大学院

心理学研究科

2単位 後期

金曜 6限

—

60

臨床心理学専攻必修

後藤 伸彦 尾崎 仁美 伊藤 一美 薦田 未央 三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 村松 朋子 中藤 信哉 廣瀬 直哉 長田 洋和 松島 るみ 空 間 美智子 高井 直美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。
- 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。
- 3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的に研究に取り組む力が身についていない。	ある程度、自律的で積極的に研究に取り組む力が身についている。	おおむね自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身についている。	自律的で積極的に研究に取り組む力が十分身についている。
知識・理解力	専門分野に関する知識や研究法の知識が身についていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	専門分野に関する知識や研究法の知識が十分身についている。
言語力	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	おおむね研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身についている。
共生・協働する力	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	研究結果を他者に発信する力が身についていない。	ある程度、研究結果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究結果を他者に発信する力を身につけている。	研究結果を他者に発信する力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 2 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 3 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 4 回 研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 5 回 研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 6 回 研究経過発表 (担当教員全員)

- 第 7 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 8 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 9 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 10 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 11 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 12 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 13 回 研究成果発表 (M2 修士論文発表会) (担当教員全員)
- 第 14 回 研究成果発表 (M2 修士論文発表会) (担当教員全員)
- 第 15 回 研究成果発表 (M2 修士論文発表会) (担当教員全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

専攻に所属する院生と教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の院生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。

評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめ、研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理をしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表 (プレゼンテーション) の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理学特論Ⅰ

270072NOJ
大学院
心理学研究科
2単位 前期
月曜4限
ー
60
伊藤 一美

【科目の教育目標 (Course Description)】

本科目は、臨床心理学的な人間理解について、パラダイムという観点から整理しつつ、心理学全般や対人援助における心理臨床の位置づけについて学ぶことを目的とする。それに加えて、臨床心理学的な研究方法と倫理についても学ぶ。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- (1) こころの問題における「異常」とは何かについて理解と想像力を習得する。
- (2) 臨床心理学的なアセスメントについて、さまざまな立場や視点を学ぶ。
- (3) 臨床心理学的介入について、数多い心理療法の技法を「パラダイム」という観点からまとめ直し、その共通点や相違点を理解する。
- (4) 臨床心理学的な研究方法とそれに伴う倫理的問題について学ぶ。
- (5) 自身の臨床心理に関する実習体験と本科目で学んだ理論や知見との関連を実感をもって学ぶ。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	課題に必要な知識を理解できない	課題に必要な知識を理解できる	課題に必要な知識を理解し、問題意識をもって課題に取り組む	課題に必要な知識を理解し、積極的に問題意識と批判的視点を持って課題に取り組む
言語・思考・解決力	課題に取り組まない	課題に取り組み、考えを表現する	課題に取り組み、自分なりの考えを練り、表現する	課題に対して自分の考えに他者の多様な考えも取り入れながら問題解決する
創造・発信力	課題に取り組まない	課題に取り組み、発信する	課題に取り組み、自分の考えに他者の多様な考えを取り入れる	自分の考えに他者の多様な考えを取り入れ、さらに創造的発想で発信する

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 異常とはなにか
- 第 3 回 臨床心理学的アセスメントの考え方
- 第 4 回 臨床心理学的介入 (1) 人間学・実存主義パラダイム
- 第 5 回 臨床心理学的介入 (2) 精神分析的パラダイム
- 第 6 回 臨床心理学的介入 (3) 学習理論パラダイム
- 第 7 回 臨床心理学的介入 (4) 認知理論パラダイム
- 第 8 回 臨床心理学的介入 (5) 生物学パラダイム
- 第 9 回 臨床心理学的介入 (6) 集団への介入
- 第 10 回 臨床心理学的介入 (7) コミュニティ心理学
- 第 11 回 臨床心理学的介入 (8) 統合的アプローチ
- 第 12 回 臨床心理学における研究方法
- 第 13 回 臨床心理学研究における倫理の問題
- 第 14 回 各自の心理臨床実践から考える
- 第 15 回 まとめ

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

期末レポート課題を実施する。

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

上記参考文献や授業中に指定するテキストを用いての講義と、受講生が分担しての発表によって構成する。講義・発表いずれにおいても、できるだけ討論を重視する。授業中の発表やディスカッションについては、適宜口頭でフィードバックを行う。期末レポート課題については、後日コメントおよび適宜口頭でフィードバックを行う。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

指定テキストのみならず、心理療法の各種理論について、日ごろから文献で学び、加えて「臨床心理基礎実習Ⅰ」での事例検討会での内容と照らし合わせての省察を常に怠らないこと。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

60

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

分担発表や討論を含む授業参加度 (80%)、期末レポート課題 (20%) から総合的に評価する。

【留意事項 (Other Information)】

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

『テキスト臨床心理学Ⅰ「理論と方法」』/デビソンG.C.ほか/誠信書房/2007/4414413419

『テキスト臨床心理学Ⅱ「研究と倫理」』/デビソンG.C.ほか/誠信書房/2007/4414413427

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

≪実践的科目≫/ 臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

臨床心理学特論 II

270108NOJ
大学院
心理学研究科
2単位 後期
火曜2限
ー
60
佐藤 睦子

【科目の教育目標 (Course Description)】

この講義は、臨床心理学特論 I の講義を踏まえて、臨床心理学をより深く学ぶことを目標とする。また、各論としての様々な理論、心理治療で用いられる各種技法、地域連携など、心理職として現場で生きる知識を得ることも目標である。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- ① 心理治療を行うための臨床心理学的理論を広く学ぶ
- ② 心理治療のプロセスにおいて生じる意識的・無意識的な心理力動を理解する
- ③ 心理治療で用いる技法について理論と実践を通じて学ぶ
- ④ 心理職の地域連携について学ぶ

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に取り組む意欲がない	課題に取り組む	意欲的に課題に取り組む	将来の目標のために自らの課題を見つけて取り組む
知識・理解力	準備学習を行わない	準備学習を行う	意欲的に準備学習を行う	専門家となるために必要な準備学習も行う
言語力	自分の意見を表明しない	自分の意見を表明する	意欲的に自分の意見を表明する	心理職を目指すために自分の意見を伝える方法を考える
思考・解決力	課題を提出しない	課題を提出する	意欲的に課題を提出する	将来の研究を考え、そのために必要な課題を見つける
共生・協働する力	ディスカッションを行わない	ディスカッションに参加する	意欲的にディスカッションに参加する	心理職として、どのように意見を伝えたら良いのか考える

創造・発信力	発表しない	発表する	意欲的に発表する	専門家として理解しやすい発表の工夫をする
--------	-------	------	----------	----------------------

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
そもそも臨床心理学とはどのような学問であるか考える
- 第 2 回 無意識の発見
フロイトの精神分析を学ぶ
- 第 3 回 無意識の応用
ユングの分析心理学を学ぶ
- 第 4 回 防衛機制
アンナフロイトの理論を学ぶ
- 第 5 回 対象関係論
メラニークラインを中心に理論を学ぶ
- 第 6 回 クライアント中心療法
ロジャースの理論を学ぶ
- 第 7 回 フォーカシングとゲシュタルト
ジェンドリンとパールズを中心に理論を学ぶ
- 第 8 回 認知行動療法
エリスとベックを中心に理論を学ぶ
- 第 9 回 遊戯療法
アクスラインの理論を学ぶ。担当事例があれば、検討を行うこともある。
- 第 10 回 箱庭療法
実際の事例を提示しつつ、実践につながる理論を学ぶ
- 第 11 回 芸術療法
言語を用いない技法とその表現の解釈について学ぶ
- 第 12 回 心理職の役割①
医療現場、産業現場での心理職のあり方を学ぶ
- 第 13 回 心理職の役割②
教育現場、福祉現場、司法現場での心理職のあり方を学ぶ
- 第 14 回 心理職と地域連携
心理職の地域連携について、現場の状況を学ぶ
- 第 15 回 まとめ
これまで学んだ知識を振り返る

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

配布する資料を用いての講義と受講生の分担発表により構成される。
講義・発表のどちらにおいても受講生相互の討論を重視する。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

初回オリエンテーション時に、それぞれの講義に対応した文献を提示する。講義までに読了の上、レポートを提出すること。理論を実践に活かすための方法を日々模索すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

分担発表や討論を含む授業参加度、期末レポート課題から総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

臨床心理学特論Ⅱなどの科目について

実務経験等：臨床心理士として精神科クリニックでの勤務経験あり。

臨床心理基礎実習Ⅰ

270133N0J

大学院

心理学研究科

1単位 前期

木曜3限 木曜4限

ー

15

(週4時間+外部実習)

伊藤 一美 佐藤 睦子 空間 美智子 村松 朋子
中藤 信哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理臨床の場で来談者に接する際、状態像を把握してその病態水準を推測し、その上で予後を見通し、どのような援助が可能であるか検討することが必要である。受講生は、本学付設の心理臨床センター心理相談室において教員が行うインテーク面接に陪席して記録を担当し、初回面接のあり方について学ぶ。また、本実習内で行われるケースカンファレンスに参加することによって、情報の検討方法や相談方針の確立など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学んでいく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)インテーク面接の陪席とその記録を担当することを通して、初回面接のあり方や見立て・面接方針の立て方について学ぶ。

(2)ケース検討会と小グループでの討論、小レポート作成などの実習を通して、情報の検討や相談方針の確立、面接技法の理解など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学ぶ。

(3)本学付設の心理臨床センター心理相談室において、さまざまな臨床経験を積み、実践的な感覚を養う。

(4)期末におけるまとめの試験において、自分の学んだことをまとめる力を培う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。
思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	臨床心理士の職業倫理を理解できず、不適切なふるまいが見られる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、基本的ふるまいができる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

第1回目にオリエンテーション、第15回目に期末試験を含む。それ以外の内容は、授業中に指示する。

各回の担当者 前半1 講時目：伊藤、中藤、佐藤、空間、村松
後半2 講時目：伊藤、中藤

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学付設の心理臨床センター心理相談室における担当事例を発表し、それに基づきカンファレンス・ディスカッションを行い、内容についての報告・検討を行う。

なお、ケースカンファレンスにおいては、臨床心理学専攻の教員および心理相談室スタッフ全員が参加して行う。

フィードバックは、発表時のコメント、グループディスカッション、個別指導の中で適宜口頭によりなされる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

心理相談室のシステムについて慣れ、自身もその運営に関わる中で、どのように事例が抱えられているのかを理解すること。そのうえで、周辺の知識を習得し、またよりわかりやすく簡潔なプレゼンテーションとなるように準備をすること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

概ね、ケース検討会への出席40%・発表30%・討論10%・小レポート作成10%、期末に行われる記述式の試験10%を目安に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

本学付設の心理臨床センター心理相談室における実習とケースカンファレンスは授業期間に限らず、心理相談室の開室期間内であれば長期休暇中にも適宜行われる。受講者は各自、心理専門職を目指すものとしての自覚と責任をもって臨むこと。

なお、本科目の最終回にヒアリングを行い、心理専門職を目指す上での意向確認をするとともに、実習の取り組み状況から、後期から開始する学外実習や進行中の学内実習の進め方について個別に相談し、学習計画の見直しを行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり

臨床心理基礎実習 II

270134N0J

大学院

心理学研究科

1単位 後期

木曜 3限 木曜 4限

ー

15

(週4時間+外部実習)

伊藤 一美 三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 中藤 信哉 長田 洋和

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理臨床の場で来談者に接する際、状態像を把握してその病態水準を推測し、その上で予後を見通し、どのような援助が可能であるか検討することが必要である。受講生は、「臨床心理基礎実習 I」での体験学習を踏まえ、本学付設の心理臨床センター心理相談室において教員が行うインターク面接に陪席して記録を担当し、初回面接のあり方について学ぶ。また、ケースカンファレンスに参加することによ

って、情報の検討方法や相談方針の確立など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学んでいく。これらの体験学習を積んだうえで、本学付設の心理臨床センター心理相談室において電話受付を行ったり、実際の事例を担当してゆくことになる。また、臨床心理士資格のみを目指す学生は、この科目において学外施設での実習を通じて実際の現場において実践的な心理臨床的関わりや援助について経験的に学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)インターク面接の陪席とその記録を担当することを通して、初回面接のあり方や見立て・面接方針の立て方について学ぶ。

(2)ケース検討会と小グループでの討論、小レポート作成などの実習を通して、情報の検討や相談方針の確立、面接技法の理解など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学ぶ。

(3)本学付設の心理臨床センター心理相談室、学外の実習先においてにおいて、さまざまな臨床経験を積み、実践的な感覚を養う。

(4)期末におけるまとめの試験において、自分の学んだことをまとめる力を培う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。
思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。

職業倫理	臨床心理士の職業倫理を理解できず、不適切なふるまいが見られる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、基本的ふるまいができる。	公認心理師(or臨床心理士)の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。
------	---------------------------------	-----------------------------	---	--

〔授業計画〕

第1回目にオリエンテーション、第15回目に期末試験を含む。それ以外の内容は、授業中に指示する。

各回の担当者 前半1 講時目：佐藤、伊藤、向山、三好、中藤
後半2 講時目：佐藤、伊藤

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

学内実習では、本学付設の心理臨床センター心理相談室において、インターク面接の陪席とその記録を行ったり、実際の事例を担当してその経過をまとめ、ケースカンファレンスで発表する。電話受付などの相談室の周辺業務についても学ぶ。週4時間の授業時間には、これらインタークケース、継続ケースについてのカンファレンスを行い、内容について報告・検討を行う。

臨床心理士資格のみを目指す学生については、学外での実習が教育機関・医療機関等で行われ、それぞれの機関における対象者への関わりを通じて、心理臨床的援助の意義や他職種との連携について学ぶ。また、毎回、実習記録を作成することによって実習内容の検討を行う。

なお、ケースカンファレンスにおいては、臨床心理学専攻の教員および心理相談室スタッフ全員が参加して行う。

フィードバックは、発表時のコメント、グループディスカッション、個別指導の中で適宜口頭によりなされる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

心理相談室のシステムについて慣れ、自身もその運営に関わる中で、どのように事例が抱えられているのかを理解すること。そのうえで、周辺の知識を習得し、またよりわかりやすく簡潔なプレゼンテーションとなるように準備をすること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

概ね、ケース検討会への出席40%・発表30%・討論10%・小レポート作成10%、期末に行われる記述式の試験10%を目安に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

本学付設の心理臨床センター心理相談室における実習とケースカンファレンスは授業期間に限らず、心理相談室の開室期間内であれば長期休暇中にも適宜行われる。受講者は

各自、心理専門職を目指すものとしての自覚と責任をもって臨むこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり

臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)

270418N0J

大学院

心理学研究科

2単位 前期前半

火曜4限 火曜5限

ー

60

2コマ連続

向山 泰代

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習では、心理臨床の現場で活用されている代表的な心理検査について、アセスメント理論と方法を学ぶ。授業では個別式の知能検査等の実習を通じて、主として人の認知的側面のアセスメントについて学ぶが、情意的側面のアセスメントも実習の一部に加える。また、テスト・バッテリーの組み方、検査実施にあたっての倫理的配慮、結果の有効な活用等に関する学習を通して、公認心理師等の心理専門職が実践する心理的アセスメントの意義について理解する。さらに、アセスメントに関するこれらの知識や技能を、どのように心理に関する相談、助言、指導等に活用していくかについて考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 心理アセスメントの理論と方法を実践的に学ぶ。(2) 各種の心理検査の有効性と限界について知る。(3) 検査者としての基本的態度と倫理を学ぶ。(4) 公認心理師等の心理専門職による心理相談、助言、指導等の実践活動において意義あるアセスメントについて考える。(5) 検査結果をいかに個人の統合的理解に結びつけてゆくかを考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
心理アセスメントに関する知識と理解	心理アセスメントの知識がなく、理論方法について理解していない。	心理アセスメントの知識や心理アセスメントの理論・方法について、部分的に習得し理	心理アセスメントの知識を習得し、心理アセスメントの理論や方法について理解している。	心理アセスメントの知識を習得し、心理アセスメントの理論・方法について理解し、心理に関する相談、助言、

		解している。		指導等の実践活動と結びつけて考えることができる。
心理アセスメントの技術	心理アセスメントの技術を習得していない。	心理アセスメントの技術を部分的に習得している。	心理アセスメントの技術を習得している。	心理アセスメントの技術を習得し、場面・状況・対象等に応じて技術を活用できる。
心理アセスメントにおける倫理	心理アセスメントに関して、公認心理師等の心理専門職としての基本的態度や倫理を習得していない。	心理アセスメントに関して、公認心理師等の心理専門職としての基本的態度や倫理を部分的に理解している。	心理アセスメントに関して、公認心理師等の心理専門職としての基本的態度や倫理を理解している。	心理アセスメントに関して、公認心理師等の心理専門職としての基本的態度や倫理を理解した上で、心理に関する相談、助言、指導等の実践活動と結びつけて考えることができる。
主体性・積極性	演習時間内外での課題に主体的・積極的に取り組んでいない。	演習時間内外での課題の一部には主体的・積極的に取り組んでいる。	演習時間内外での課題に主体的・積極的に取り組んでいる。	演習時間内外での課題に主体的・積極的に取り組むと共に、自らの興味・関心に沿って自主的に学び、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 心理アセスメント概説
- 第 2 回 性格検査（1）：性格検査概説
- 第 3 回 性格検査（2）：特性論にもとづく検査
- 第 4 回 性格検査（3）：連想にもとづく検査
- 第 5 回 知能検査（1）：WAISの実習（検査1～4）
- 第 6 回 知能検査（2）：WAISの実習（検査5～8）
- 第 7 回 知能検査（3）：WAISの実習（9～補助検査）
- 第 8 回 知能検査（4）：WAISのスコアリングと結果の解釈
- 第 9 回 知能検査（5）：模擬事例を用いたディスカッション
- 第 10 回 知能検査（6）：まとめと振り返り
- 第 11 回 神経心理学的検査（1）：神経心理学的検査概説

第 12 回 神経心理学的検査（2）：遂行機能のアセスメント

第 13 回 神経心理学的検査（3）：記憶のアセスメント

第 14 回 アセスメントにおける倫理

第 15 回 アセスメント結果の心理相談等への活用

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

受講生が互いに検査者と被検者となって心理検査を体験したり、模擬事例等を素材として心理検査のスコアリングや解釈等について検討し、ディスカッションを行う。これら実習と並行して、受講生は各検査が開発された背景や依拠する理論、特徴や実施方法等についてまとめ、発表する。個々の心理検査についての理解を深めた後には、複数のテストによりバッテリーを組み、検査結果の所見を報告書の形でまとめる。期末レポートとして提出された所見の報告書には、講評等を記載して受講生に返却する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

受講生はオリエンテーション時に配布されるスケジュールを確認し、各自が事前に学習・準備した上で演習に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

(1) 心理検査に関する理論や各検査の特徴についてのまとめと発表。(2) テスト・バッテリーを組み、所見を報告書としてまとめる期末レポート。(3) ディスカッション等への参加度や課題への取り組み等の学習態度。以上の3点から総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

受講生の知識や理解度に応じて、実習の順序や実習の内容を変更することがある。また、必要に応じて遠隔授業を実施する。本演習で取り上げる心理検査以外にも、多くの検査が開発されている。様々な心理検査について、受講生による自主的な学習が期待される。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

授業内容や進行状況に応じて、文献等を適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 臨床心理士として教育機関等の相談室での勤務経験あり。

臨床心理査定演習Ⅱ

270120N0J
大学院
心理学研究科
2単位 後期
火曜4限
ー
60
薦田 未央

【科目の教育目標 (Course Description)】

心理臨床現場でアセスメントツールとして活用されている心理検査の理論と方法を学ぶ。また、演習により検査の実施および結果の解釈について議論し、公認心理師等の心理専門職が行う相談・助言・指導等の支援に活用する観点を実践的に学ぶ。主に発達検査、知能検査、心理・教育アセスメントなど発達・教育支援に必要な検査についての演習を行うが、それとともに、テスト倫理や情報の扱い方についても理解を深める。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- (1) 各種検査についての理論と方法について理解する。
- (2) テスト倫理や検査における配慮・留意すべきことを理解する。
- (3) 検査結果の解釈および活用の方法を実践的に学ぶ。
- (4) 検査結果を相談、助言、指導に活用する心理専門職としての役割や意義を理解する。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	事前事後の学習を踏まえて、演習に参加できていない。	事前準備、事後課題への取組ができていない。	演習で取り組む検査について、自主学習でマニュアルや実施における留意点を学習したうえで授業に臨んでいる。	アセスメントにおいて、主体学習による研鑽が、対象者に有益となる意味について、理解できる。
知識・理解力	心理アセスメントに関する用語、基礎知識が身につけていない。	心理アセスメントに関する用語、基礎知識が身につく、アセスメントの意義が理解できている。また、学習する検査を一通り実施できる。	心理アセスメントの種類、基本となる理論の理解を有し、実施した検査結果の解釈ができる。また対象に合わせたテストバッテリーが必要なことを理解できる。	対象に合わせたテストバッテリーを考え、アセスメントを組み立てることができる。実施した検査について適切な解釈および支援助言に基づく所見作成ができる。

思考・解決力	演習で取り組む検査について、基本理論を理解できていない。	演習で取り組む検査に関する、基本理論にや多面的な分析に基づき、検査結果を読む必要があることを理解できる。	演習で取り組む検査に関する、文献や事例により、結果の読み方や解釈、支援について情報収集ができる。	演習で取り組む検査やそれ以外の検査についての情報収集をし、有機的にそれらを活用してアセスメントのあり方を理解できる。
--------	------------------------------	--	--	--

【授業計画】

- 第 1 回 生涯発達における支援の意義と使用されるアセスメントツールの概説
- 第 2 回 発達理論と発達検査の概説
- 第 3 回 発達検査 (1) 新版K式発達検査 (項目の概説とデモンストレーション)
- 第 4 回 発達検査 (2) 新版K式発達検査 (実施とスコアリングの方法)
- 第 5 回 発達検査 (3) 新版K式発達検査 (結果解釈と所見の書き方)
- 第 6 回 発達検査 (4) 新版K式発達検査 (事例検討)
- 第 7 回 知能検査 (1) ビネー検査の概説
- 第 8 回 知能検査 (2) WISC知能検査 (実施)
- 第 9 回 知能検査 (3) WISC知能検査 (結果解釈と所見の書き方)
- 第 10 回 知能検査 (4) WISC知能検査 (事例検討)
- 第 11 回 心理・教育アセスメント (1) KABCⅡの概説
- 第 12 回 心理・教育アセスメント (2) KABCⅡ (実施)
- 第 13 回 心理・教育アセスメント (3) KABCⅡ (スコアリングと結果解釈)
- 第 14 回 発達・教育支援に活用される検査バッテリーの概説と事例検討
- 第 15 回 テスト倫理と結果の活用

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

理論の学習と検査の実践的学習を組み合わせた演習形式で実施する。事前学習で各検査の成り立ちや理論についてまとめて発表する。その後、受講生同士で実施し、スコアリングを体験する。また、結果の読み方・解釈を学び、仮想事例の結果についてディスカッションを行う。必要なテストバッテリーについても検討し、相談、助言、支援に活用できるように所見にまとめる。期末レポートでは、検査結果の所見をまとめることを課題とする。課題については、添削・講評とともにフィードバックを行う。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

検査の背景にある理論は、検査実施者として必須の知識である。また、心理検査の実施マニュアルに書かれている手続等も、各自で事前学習をして臨むこと。検査実施後のスコアリングについては、次の講時までには終えているように復習しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

検査に関する理論等の事前学習発表 (30%)、ディスカッション内容・参加度 (30%)、期末レポート (40%)

〔留意事項 (Other Information)〕

受講生の理解度等によって、実施内容を変更することがある。また、必要に応じて、遠隔授業を行うこともある。心理検査については、実施方法や解釈の「講義」を受けるだけでは十分に身につくとは言えない。検査項目が意味すること(理論)と対象者のニーズや状態像とを、主体的に結びつけて考える姿勢が必要になるため、ヒトの発達過程や障害・疾病の特性なども積極的に学習しておくことが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」

医療機関、教育機関で臨床心理士としての勤務経験あり。

臨床心理実習 II

270136N0J

大学院

心理学研究科

1単位 後期

月曜 5限 月曜 6限

ー

15

(週4時間+外部実習) 「臨床心理基礎実習II」を修得済みであること。

村松 朋子 空間 美智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、「臨床心理基礎実習 I・II」ならびに「臨床心理実習 I」での体験学習の上に成り立っており、大学院での専門的学習のまとめの意味も持つ。

臨床心理学の専門家としては、実践力だけでなく、科学的な素養も必要である。心理臨床家としての営みを他職種にもわかりやすく明確に説明する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)臨床心理学的な諸現象を論理的かつ合理的に説明できること。

(2)心理面接における技法を習得しつつ、ケース検討や小グループでの討論などの実習を通じて、問題点を振り返りながら、積極的に討論に参加し、臨床的視点を養う。

(3)臨床心理の専門家としての職業倫理を修得、理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。
思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	公認心理師(or臨床心理士)の職業倫理を理解できておらず、不適切なふるまいが見られる。	公認心理師(or臨床心理士)の職業倫理を理解し、基本的ふるまいができる。	公認心理師(or臨床心理士)の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	公認心理師(or臨床心理士)の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

(村松)

第 2 回 事例紀要論文オリエンテーション (1)

事例論文の考え方 (空間)

第 3 回 事例紀要論文オリエンテーション (2)

事例論文の書き方 (空間)

第 4 回 事例論文の講読 (1)

医療機関との連携を含む事例 (村松)

第 5 回 事例論文の講読 (2)

地域援助を含む事例 (空間)

第 6 回 事例論文の講読 (3)

多職種連携や家族支援を含む事例 (村松)

第 7 回 事例論文の講読 (4)

グループを対象とした事例 (空間)

第 8 回 グループ・スーパーヴィジョン (1)

- 医療機関との連携を含む事例（村松）
- 第 9 回 グループ・スーパーヴィジョン（2）
地域援助を含む事例（空間）
- 第 10 回 グループ・スーパーヴィジョン（3）
家族支援を含む事例（村松）
- 第 11 回 多角的アセスメントの実際（1）
知能検査、質問紙法、投映法、作業検査法等、多
角的な心理検査を施行した事例検討（村松・空
間）
- 第 12 回 多角的アセスメントの実際（2）
フィードバック・セッションを含めた事例検討
誰のためのフィードバックか？（村松・空間）
- 第 13 回 多角的アセスメントの実際（3）
治療的アセスメントと支援計画報告書の作成 1
（クライアント宛）（村松・空間）
- 第 14 回 多角的アセスメントの実際（4）
治療的アセスメントと支援計画報告書の作成 2
（家族宛、医療従事者宛）（村松・空間）
- 第 15 回 総括
（村松）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポー
ト〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

事例論文や事例報告から、クライアントに関する

1) コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援
などの知識及び技能

2) 支援ニーズの把握と支援計画の作成

について、2年次前期までの通常のカンファレンスや個別指
導に加え、より高度な心理臨床的支援を目指して多様なス
ーパーヴィジョンの形態において学ぶ。

なお、通常のカンファレンスにも参加する。また、
そのカンファレンスには、臨床心理学専攻の教員および心
理相談室スタッフ全員が参加して行う。

フィードバックは、発表時のコメント、グループディスカ
ッション、個別指導の中で、適宜口頭によりなされる。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

さまざまな事例について幅広い視点から理解するために、
関連する分野について心理臨床学研究などの学術論文を読
んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study
hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

カンファレンスでの発表・討論などを含む参加態度、さら
には本科目の特色である多様なスーパーヴィジョンにおけ
る発表や討論（20%）を通して、事例検討の理解度（80%）
によって評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

進行状況を見ながら、授業日程については別途調整する可
能性がある。なお、長期休暇期間や土曜日等に実施される
場合がある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有
無〕〕

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社
(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN〕〕

事例研究の考え方と戦略：心理臨床実践の省察的アプロ
ーチ 山本力 著 創元社

初心者のための臨床心理学研究実践マニュアル 津川律子・
遠藤裕乃 著 金剛出版

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」

臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）

270402N0J

大学院

心理学研究科

2単位 前期

火曜3限

ー

60

三好 智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目では、力動論、行動論・認知論、その他に基づく心
理療法の理論と方法、これら理論や方法の心理に関する相
談、助言、指導等への実践的応用、心理に関する支援を要
する人の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整
について学ぶ。本科目の教育目標は以下のとおりである。

①力動論、行動論・認知論、その他に基づく心理療法の理
論と方法について理解し、概要を説明することができる。
②①で学んだ理論や方法の心理に関する相談、助言、指導
等への応用について、事例の検討やロールプレイ等の体験
を通して学び、実践に役立つスキルを身につける。③心理
に関する支援を要する人の特性や状況に応じた適切な支援
方法の選択・調整について、事例の検討やロールプレイ等
の体験を通して学び、実践に役立つスキルを身につける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

(1)各種文献の購読や教材の視聴を通して、各種心理療法の
理論と方法を学ぶ。

(2)(1)を踏まえて全体もしくは小グループでディスカッ
ションを行う。

(3)事例の検討やロールプレイ等の実践練習を通して、心理
に関する相談、助言、指導等や、適切な支援方法の選択・
調整に関する実践的なスキルを身につける。

(3)各テーマに関してレポートを作成し、さらに理解を深め
る。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不 可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育て る力	専門的な心 理支援に関 する学びを	専門的な心 理支援に関 する学びを	専門的な心 理支援に関 する学びを	専門的な心 理支援に関 する学びを

	通して自分を育てる動機が十分でない	通して自分を育てる動機がある	通して自分を育てる動機がかなりある	通して自分を育てる動機が非常にある
知識・理解力	専門的な心理支援に必要な知識が十分でない	専門的な心理支援に必要な知識がある	専門的な心理支援に必要な知識がかなりある	専門的な心理支援に必要な知識が非常にある
言語力	専門的な心理支援に必要な言語力が十分でない	専門的な心理支援に必要な言語力がある	専門的な心理支援に必要な言語力がかなりある	専門的な心理支援に必要な言語力が非常にある
思考・解決力	与えられた課題について考える力が十分でない	与えられた課題について考える力がある	与えられた課題について考える力がかなりある	与えられた課題について考える力が非常にある
共生・協働する力	他者と協力して活動する力が十分でない	他者と協力して活動する力がある	他者と協力して活動する力がかなりある	他者と協力して活動する力が非常にある
創造・発信力	自分の考えを表現する力が十分でない	自分の考えを表現する力がある	自分の考えを表現する力がかなりある	自分の考えを表現する力が非常にある

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 心理支援における基礎（様々な業務）
 - 第3回 心理支援における基礎（インテーク面接）
 - 第4回 心理支援における基礎（見立て）
 - 第5回 力動論に基づく心理療法の理論と方法（文献の購読・教材の視聴）
 - 第6回 力動論に基づく心理療法の理論と方法（事例の検討）
 - 第7回 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法（文献の購読・教材の視聴）
 - 第8回 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法（事例の検討）
 - 第9回 その他に基づく心理療法の理論と方法（文献の購読・教材の視聴）
 - 第10回 その他に基づく心理療法の理論と方法（事例の検討）
 - 第11回 ロールプレイとディスカッション（実践への応用）（グループ1）
 - 第12回 ロールプレイとディスカッション（実践への応用）（グループ2）
 - 第13回 ロールプレイとディスカッション（実践への応用）（グループ3）
 - 第14回 ロールプレイとディスカッション（実践への応用）（グループ4）
 - 第15回 心理支援における倫理
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各文献の購読、教材の視聴と、それらを踏まえたディスカッション。
 - (2)事例の検討。
 - (3)ロールプレイ等による実践練習。
 - (4)各テーマに関するレポート作成。
- 課題に対するフィードバックの方法としては、適宜、授業内でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・文献等の資料には必ず目を通してのこと。
- ・ロールプレイ等の実践練習については、適宜指示された準備を必ず行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業時の課題（30%）、ロールプレイ・ディスカッションへの参加態度（40%）、レポート（30%）から、総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

- ・受講状況によって、適宜、授業予定を変更する可能性がある。
- ・実践体験や受講者同士のロールプレイや模擬実習には、他の受講生や自らの体験を丁寧に扱う心構えで臨んでいただきたい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜、指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 心理専門職として施設での勤務経験あり。

臨床心理面接特論 II

270075N0J
大学院
心理学研究科
2単位 後期
金曜 2限
—
60
空間 美智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理臨床実践は理論のみでは成り立たず、体験を通して実際の関わり姿勢を身につけることが求められる。これらを身につける過程では、自分自身のものとのとらえ方、感じ方、反応の仕方等について理解すること、そして、それぞれに異なる特性を備えた個々が、自らの実感をさぐり、それと慎重に照らし合わせながら、自らに適した「いまここ」における関わり方を探ることが大切である。「臨床心理面接特論 II」では、「臨床心理面接特論 I」に引

き続き、文献の講読やディスカッションを通して、臨床心理面接における基本姿勢について理解する。クライアントと治療者の関係性構築のあり方について、実習を通して体験的理解を深める。また、臨床心理面接で用いられる具体的な技法について、体験的に学ぶ。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

(1) 事例論文や面接技法について述べた文献を講読し、それに関するディスカッションを通して、臨床心理面接における基本姿勢について理解する。

(2) 傾聴や共感的理解といった臨床心理面接における基本姿勢や、クライアントと治療者の関係性構築のあり方について、体験的理解を深める。

(3) 臨床心理面接で用いられる具体的な技法について、体験的に学ぶ。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 面接に関わる文献講読 (面接技法の歴史と理論)
- 第 3 回 ロールプレイと振り返り (面接技法の歴史と理論)
- 第 4 回 面接に関わる文献講読 (面接の基本姿勢)
- 第 5 回 ロールプレイと振り返り (面接の基本姿勢)
- 第 6 回 面接に関わる文献講読 (傾聴、関係性構築)
- 第 7 回 ロールプレイと振り返り (傾聴、関係性構築)
- 第 8 回 面接に関わる文献講読 (アセスメントとフィードバック)
- 第 9 回 ロールプレイと振り返り (アセスメントとフィードバック)
- 第 10 回 技法の実習 (機能的アセスメント)
- 第 11 回 技法の実習 (セルフモニタリング)
- 第 12 回 技法の実習 (動機づけ面接)
- 第 13 回 技法の実習 (社会的スキル訓練：個人)
- 第 14 回 技法の実習 (社会的スキル訓練：集団)
- 第 15 回 まとめ

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

(1) 事例論文や文献の講読については、各自指定の文献を事前に熟読の上、ディスカッションを行う (使用する文献については、授業時間中に指示する)。

(2) 体験実習では、体験の後にディスカッションを行い、各自振り返りのレポートを作成する。

(3) 授業中の発問に対して適宜口頭でフィードバックする。

(4) レポートには適宜個別にコメントし、その講評や解説を授業中に行う。さらに、解説や参考資料をmanabaで公開する。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

(1) 事例論文や文献の講読については、各自指定の文献を事前に熟読し、ディスカッションしたい点を明確にしておく。

(2) 臨床心理面接で用いられる技法の基盤となる、心理学の各領域の理論を説明できるよう、これまでに習得した専門的知識を復習しておく。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

60

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

体験実習や発表、ディスカッションにおける準備や取り組みの姿勢(70%)、レポートの内容 (30%) から、総合的に評価する。

【留意事項 (Other Information)】

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

≪実践的科目≫ (臨床心理士として教育、医療機関での勤務経験あり)。